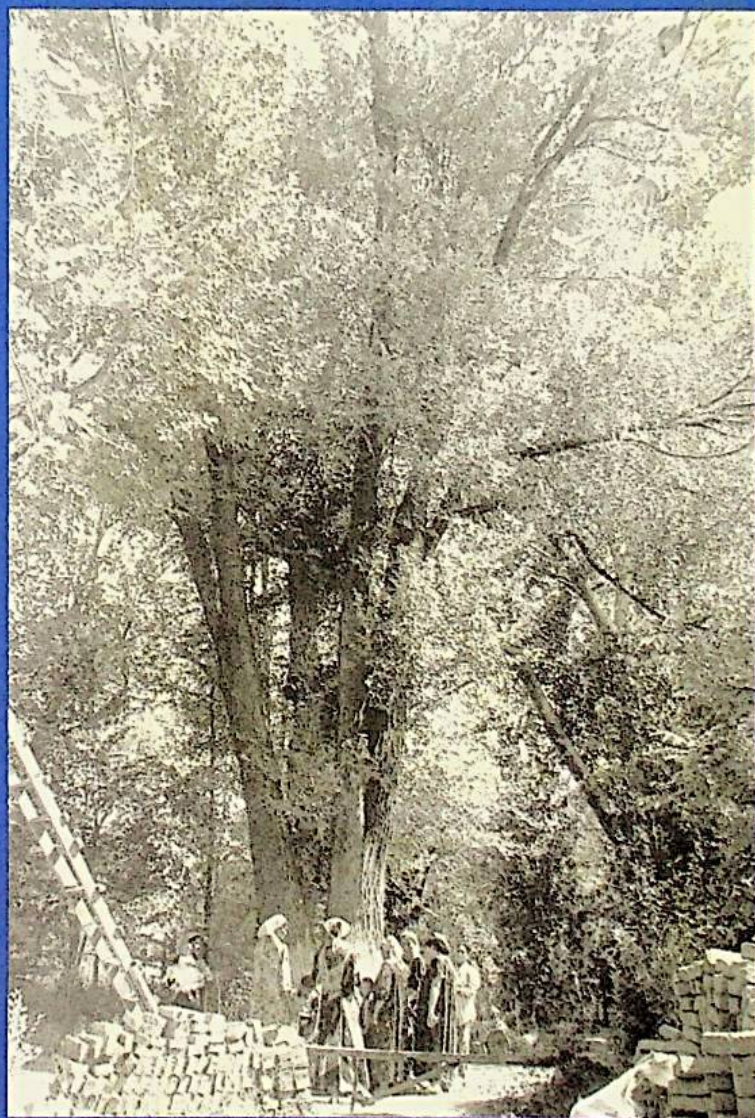


新疆およびフェルガナのマザール文書 (影印)

Mazar Documents

from Xinjiang and Ferghana
(F A C S I M I L E)

1.



菅原純
河原弥生 (編)

Edited by

SUGAWARA Jun
KAWAHARA Yayoi



Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa
Tokyo University of Foreign Studies 2006

新疆およびフェルガナのマザール文書

(影 印)

Mazar Documents from Xinjiang and Ferghana

(Facsimile)

Синьцзян ва Фарғонада топилган мазор ҳужжатлари

(Факсимиле)

شىنجاڭ ۋە پەرغانىدا تېپىلغان مازار ھۆججەتلىرى

(فاكسىمىل)

- 1 -

菅原純 河原弥生 (編)

Edited by SUGAWARA Jun KAWAHARA Yayoi

Тузувчилар: СУГАВАРА Жун КАВАХАРА Яёи

تۈزگۈچلەر: سۇگاۋارا جۇن كاۋاخارا يايوئى

東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所
Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies
Токио чет тиллари университети, Осиё-Африка тил-маданияти тадқиқот институти
Токио چەت ئەل تىللىرى ئۇنىۋېرسىتېتى ئاسىيا-ئافرىقا تىل-مەدەنىيىتى تەتقىقات ئىنستىتوتى

Cover photo by Sawada Minoru
Qutayba ibn Muslim Mazar, Uzbekistan 2004.

STUDIA CULTURAE ISLAMICAE 83.

Mazar Documents from Xinjiang and Ferghana (Facsimile) 1.

Edited by SUGAWARA Jun KAWAHARA Yayoi

Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies
December 2006

Ислом маданияти тадқиқот мажмуаси 83.

Синьцзян ва Ферғонада топилган мазор ҳужжатлари (Факсимиле) 1.

Тузувчилар: СУГАВАРА Жун КАВАХАРА Яёи

Токио чет тиллари университети, Осиё-Африка тил-маданияти тадқиқот институти
декабрь 2006

ئىسلام مەدەنىيىتى تەتقىقات مەجمۇئەسى-83.

شىنجاڭ ۋە پەرغانىدا تېپىلغان مازار ھۆججەتلىرى (فاكسىمىل) 1.

تۈزگۈچلەر: سۇگاۋارا جۇن كاۋاخارا يايونى

توكيو چەت ئەل تىللىرى ئۈنۋەر سىتېتى ناسىيا-ئافرىقا تىل-مەدەنىيىتى تەتقىقات ئىنستىتۇتى

دىكابىر 2006

ISBN 4-87297-949-4

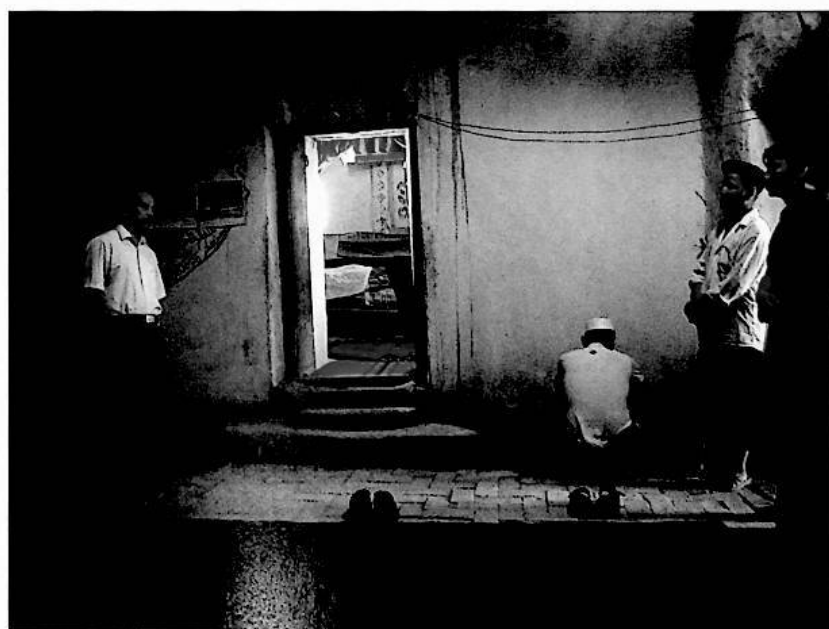
Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa

Tokyo University of Foreign Studies

3-11-1 Asahi-cho, Fuchu-shi, Tokyo 183-8534 JAPAN

<http://www.aa.tufs.ac.jp>

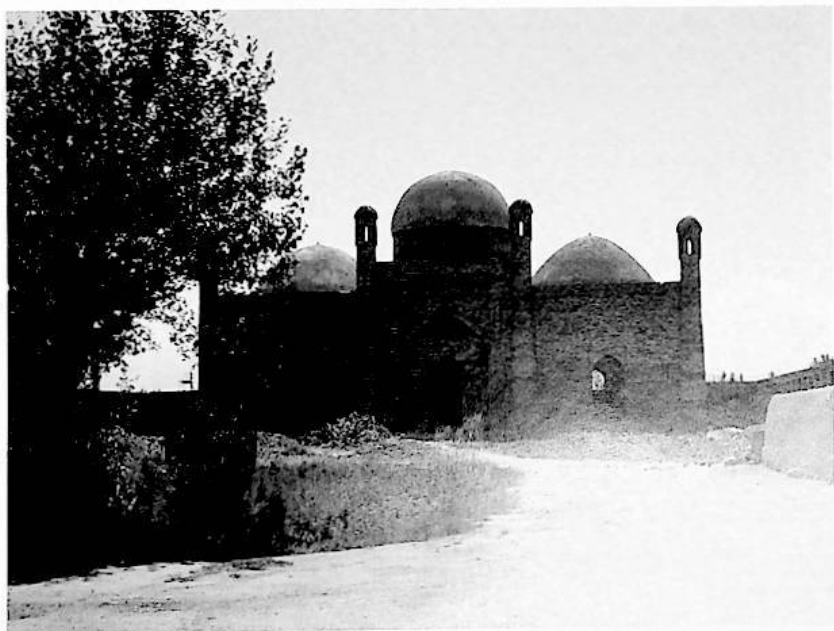
editcom@aa.tufs.ac.jp



Āzizim Aghacham Mazar, Qumul, Xinjiang (Photo by J. Sugawara)



Qutayba ibn Muslim Mazar (Photo by Y.Shinmen)



Qarayazi Baba Mazar (Photo by Y.Shinmen)

謝 辞

本書の編集に当たっては多くの方々のお世話になった。まずアブリズ・オルホン氏とナーディルベク・アブドゥアハトフ氏には本書のウイグル語ならびにウズベク語部分の訳出にご協力いただいた。また、新免康氏と菅原睦氏には本書の原稿を一通り校閲いただき、貴重なご意見を賜った。感謝申し上げる。以上の方々はみなトヨタ財団の助成による「マザール文書」研究プロジェクトのメンバーである。「マザール文書」研究に理解を示し、こうした方々と協業の機会を与えてくれたトヨタ財団にも感謝したい。

最後に、AA 研の『イスラム文化叢書』83 号として本書の出版が可能となったのは、ひとえに羽田亨一先生のご尽力によるものである。ここに記して深甚の感謝を申し述べたい。

編 者

Acknowledgement

On the behalf of editing this book, we were given warm help by many colleagues. Firstly, we are grateful to Abliz ORXUN and Nadirbek ABDUAHATOV, for supporting translation into Modern Uyghur and Uzbek. SHINMEN Yasushi and SUGAHARA Mutsumi had kindly accepted our request to review the drafts. All the fellows above-mentioned are members of our research project on "Mazar Documents" funded by Toyota Foundation. We would like to express our gratitude to Toyota Foundation which have shown understandings on "Mazar Document" studies, and given opportunity to work with these colleagues together.

Lastly, we deeply thanks to Professor HANEDA Ko'ichi's commitment for publishing this book as the 83rd issue of ILCAA's book-series *Studia Culturae Islamicae*.

Editors

Ташаккурнома

Кўлингиздаги бу китобни тузуш жараёнида куйидаги кишиларнинг кўмагига эриштик. Олди билан Аблиз Орхун ва Нодирбек Абдурахатов ўртоклар китобнинг уйгурча ва ўзбекча қисимларининг таржимасига куч сарф қилди. Айниқса Шинмен Ясуши ва Сугахара Муцумилар китоб оригиналларини бир кур кўздан кечириб чкиб қимматли фикрларни берди. Бу ўртокларга алоҳида миннатдорлигимизни билдирамыз. Уларнинг ҳаммаси Тойота фонди хомийлик қилган «Мозор ҳужжатлари» талқикот планининг аъзоларидир. Тойота фондининг «Мозор ҳужжатлари» талқикотининг муҳим аҳамиятини тушиниб этиб, бизга юқоридаги кишилар билан ҳамкорлашиш фурсати яратиб берганига ташаккур билдирамыз.

Сўнггида шуни айтмоқчимизки, бу китобнинг Осиё-Африка тил-маданияти талқикот институтини томонидан чоп этилаётган «Ислам маданияти мажмуаси»нинг 83-номери сифатида нашр этилиши профессор Ханеда Коичи устозининг шарофатидан бўлди. Бу кишига ҳам катта ташаккур изҳор этамыз.

-тузувчилардан

تەشەككۈر نامە

بۇ كىتابنى تۈزۈش جەريانىدا، نۆۋەندىكى كىشىلەرنىڭ ياردىمىگە ئېرىشتۇق. ئالدى بىلەن ئابلىز ئورخۇن ۋە نادىر بەك ئابدۇنەھەتوفلار كىتابنىڭ ئۇيغۇرچە ۋە ئۆزبېكچە قىسىملىرىنىڭ تەرجىمىسىگە كۈچ چىقاردى. يەنە شىنمەن ياسۇشى ۋە سۇگاھارا مۇتسۇمىلار بۇ كىتابتىكى ئورنىڭ ئالارنى بىر قۇر كۆزدىن كەچۈرۈپ چىقىپ، قىممەتلىك پىكىرلەرنى بەردى. ئالاھىدە رەھىمىتىمىزنى بىلدۈرمىز. يۇقىرىدا تىلغا ئېلىنغان كىشىلەر، تويوتا فوندى ياردەم قىلغان «مازار ھۆججەتلىرى» تەتقىقات پىلانىنىڭ ئەزالىرىدۇر. تويوتا فوندىنىڭ «مازار ھۆججەتلىرى» تەتقىقاتىنىڭ مۇھىملىقىنى چۈشىنىپ يېتىپ، بىزگە يۇقىرىدىكى كىشىلەر بىلەن ھەمكارلىشىش پۇرسىتى يارىتىپ بەرگەنلىكىگە تەشەككۈر ئېيتىمىز. ئاخىرىدا، بۇ كىتابنىڭ ئاسىيا-ئافرىقا تىل-مەدەنىيىتى تەتقىقات ئىنستىتۇتىدىن تەرىپىدىن چىقىرىلىۋاتقان «ئىسلام مەدەنىيىتى مەجمۇئەسى» نىڭ 83- سانى بولۇپ نەشر قىلىنىشى، پروفېسسور خانېدا كوئىچى ئۇستازنىڭ دۆلىتىدۇر. بۇ يەردە ئۇ كىشىگە چىن قەلبىمىزدىن ئالى رەھىمىتىمىزنى بىلدۈرمىز.

—تۈزۈمچىلەردىن

目次 Contents Мундарижа مۇندەرىجە

序論 マザール文書の研究へ向けて.....	1
新疆のマザール文書.....	5
フェルガナ盆地のマザール文書.....	7
Introduction: Towards a Study of Mazar Documents.....	13
Documents discovered in Xinjiang.....	19
Documents discovered in Ferghana Valley.....	21
Мозор ҳужжатлари тадқиқотига кириш.....	27
Синьцзянда топилган ҳужжатлар.....	33
Фарғона водийсида топилган ҳужжатлар.....	35
58.....	مازار ھۆججەتلىرى تەتقىقاتىغا كىرىش
50.....	شىنجاڭدا تېپىلغان ھۆججەتلىر
46.....	پەرغانە ۋادىسىدا تېپىلغان ھۆججەتلىر
影印 Facsimile Факсимиле فاكسىمىل 60-154	

序論 マザール文書の研究へ向けて

菅原 純

1. 「マザール文書」とは何か

マザール(イスラーム聖者廟)は、イスラーム聖者を崇拜の対象とするイスラーム信仰的要素と、病氣治癒や子授けなど、現世利益の追求を軸とする民衆信仰的要素とを併せ持つ複合的な性格を有する施設として、ながく地域住民の精神的拠り所として機能してきた。同時にマザールは、巡礼や参詣の対象として、狭いコミュニティを越えた広域的な人的交流の結節点として、社会的にも重要な役割を果たしてきた¹。

本書で紹介する「マザール文書」とは、そのマザールの由来やマザールの維持・運営・儀礼の執行等に深く関わる人々が代々受け継ぎ、保持してきた文書群に対し、編者たちがここで便宜的に用いる呼称である。これら文書はマザールがその地域において果たしてきた役割を反映して、各マザールに直接関わる人々、地域共同体によって、今日まで保持されてきた。その規模、内容や保管状況は地域によってさまざまであり、特に本書が対象とした2つの地域すなわちフェルガナと新疆とではお互いに相当の隔りがある。これらの文書には、(埋葬されている聖者の子孫を称する)マザールの管理人としての正統性に関するものや、マザールの建物や敷地に関するもの、マザールに対する寄付等に関するもの、マザールの由来を伝えるものなどが含まれる。稀に17-18世紀の文書も発見されるが、19-20世紀に作成されたものが圧倒的多数を占める。それぞれの文書は時代によってペルシア語やテュルク語で書かれており、時には部分的にアラビア語を含むこともある。また、後世のものにはロシア語や漢文が併記されていることも多い。

内容から見たマザール文書の内訳は主として以下の通りである：

- (1)系譜書(シャジャラ、ナサブナーマ、ジョロンカイ) 預言者ムハンマドから所有者に至る血統上の繋がりを示す系譜書。埋葬されている聖者たちは、たとえそれがイスラーム化以前の時代に由来する人物であれ、ほとんどの場合は預言者ムハンマドの子孫とみなされている。そしてマザールの管理人は被埋葬者の子孫である場合が多く、彼らの管理人としての正統性を示すためには系譜書の保持は必須であった。樹木形状の系図である場合と、テキスト状のものに分けられる。巻物状であることが多く、長いものでは10メートル以上に達するものもある。
- (2)聖者伝(タズキラ) 埋葬されている聖者やその先祖及び子孫の聖者たちにまつわる伝記・伝説。主人公の奇跡を含む宗教的活躍を強調することによって、マザールやその管理者たる当該聖者の子孫たちの地域社会における宗教的権威を高める意義をもつ。
- (3)叙任状 管理人等の任命書。フェルガナでは多くの場合、マザールの管理人等はときの政権によって任

¹ マザールの社会的機能、歴史に果たしてきた役割については真田安、王建新、新免康『新疆ウイグルのバザールとマザール』(イスラム文化叢書第70号)、東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、1992年；Rahilä Dawut, *Uyghur mazarlari*. Ürümchi: Shinjang Khäq Nāshriyati, 2003.など参照。

命されていた。

(4)特権保証状 免税等の特権の保証書。フェルガナで聖者の子孫たちは、諸税を免れるなど、政権によって特別な地位を与えられていた。叙任状と並んで、マザールの政治的な位置づけを窺わせる材料である。

(5)寄進文書(ワクフナーマ) 墓廟やそれに附属するモスク、マドラサ(イスラーム高等教育学院)等の施設に対してなされた寄進(ワクフ)の証書。地域社会の住民とマザールの経済面をはじめとする具体的なかわりを知る上で重要な史料である。

(6)裁判関連文書 管理人の任命等をめぐって起こる係争に関する申し立て(ダワー)、法的意見(ファトワー)、判決(フクム)等からなる文書。マザールの社会的権益にかかる具体的状況を窺わせる史料となる。

(7)聖蹟案内書 参詣に用いることを目的として作成されたと考えられる著作物。マザールの名称、被葬者、所在地などの基本情報に加え、各マザールにまつわる伝説やマザール参詣の意義、参詣の心得などが書かれていることがある。

上記文書のほかに、マザールと密接な関係を有する隣接地域社会で取り交わされた一般契約文書類(売買、賃貸借、贈与、相続、委任ほか)も広義の「マザール文書」と看做しうる場合がある。これら文書は地域社会において精神的、社会的機能を有するマザールの権威を補強する「生きた文書」であり、その存在自体が地域社会にとり今日的意義を有しているのみならず、学術的にもマザールの由来や歴史、地域社会に果たしてきた役割を明らかにする情報を数多く含んでいるのである。

2. マザール文書の危機的状況

アライ山脈を隔てて隣接する新疆・フェルガナ両地域にはマザールが多数存在し、当地住民の間では、現在に至るまで、それぞれの地域の、あるいは地域を越えたマザールに対する信仰が脈々と生き続けている。同時に、両地域においてマザール文書は、前述のようにマザールに関わる価値あるものとして一定の社会的認知を受け、今日まで民間所蔵の文書として保持され続けてきた。しかしながらその将来は必ずしも楽観できる状況には無い。20世紀末に発生した2つの事象、すなわち、ソ連の解体による中央アジア民族国家の独立、そして中国における文化大革命の終結と改革・開放政策の始動によって、両地域は伝統文化を復活させ、相互交通を回復する方向に動いている。しかしその反面で、程度の差こそあれ、対外開放の裏返しとして「世俗化」が急速に進みつつあり、それがそれぞれの地域で伝統文書のおかれた状況に危機的な変化をもたらしつつある。

フェルガナ地域においては、ソ連が崩壊して中央アジアに5つの独立国が成立した現在、国を挙げて自らの伝統文化・歴史の再認識の必要性が叫ばれているにもかかわらず、歴史史料に対する関心は必ずしも高くはない。同様に近年のイスラーム信仰への回帰により、マザール参詣が以前に比べて活発になってきているのに対し、その風潮と文書類への人々の態度との間には大きなギャップがあり、一般に若い世代の住民においてこれらマザール文書に対する価値認識は極めて低い。

新疆は昨今の中国の国家プロジェクト「西部大開発」の影響で、漢族人口が急激に増加し、劇的な社会文化基盤の変化の波にさらされており、伝統的なウイグル社会は、解体しつつあると言っても過言ではない。そのような中、同地域に多数存在するマザールなどの宗教施設にも、次第に衰退の兆しが見えている。たとえば近年の動きとして、対外開放政策のコンテキストから打ち出されたツーリズム振興策によるマザールの観光地化があげられる。外来の旅行者からマザールの施設、人々の巡礼・参詣行為はいまや観光の対象として注

目されており、それに対応する形でマザールの管理は伝統的な管理者・地域共同体から各地域政府の文化担当部門の手に移りつつある。こうした世俗化傾向が目下新疆全域で進行しつつある。

要するにフェルガナ、新疆両地域は、一方が独立による伝統文化の再認識、もう一方がドミナントな中国文化の浸透・漢族人口の流入による伝統社会の解体という一見背反する趨勢の只中にありながら、「世俗化」によってマザール文書が喪失の危機に直面しているという点においてはともに同じ問題をかかえている。こうした状況にあってマザール文書の保存と集成をおこなうことは、両地域の伝統文化保護ならびに伝統地域社会像の解明のため喫緊の課題であるといえる。

3. 乏しいマザール文書の書誌情報とコレクション

写本、あるいは一般的な契約文書(カーディ文書)などの文字史料がかつて両地域でソ連、中国の学術機関等によって組織的に収集され、結果それら史料類が今日両国の文書館等に一定数収められているのに対し、マザール文書の所在情報、そして公的機関に収められたコレクションは極めて乏しい。従ってその所在情報、書誌情報も詳らかではない。このことは、マザール文書が前述の通り「生きた文書」として、地域社会で価値あるものとの共通の認知を受けていたため、従前の組織的収集活動の中での購入対象とはなりえなかったことに起因している。

従って、現在民間に所蔵されるマザール文書は、その類例さえもが公的所蔵機関では見出すことが出来ない極めてユニークな史料であり、現下の危機的状況に照らすならば、今こそがマザール文書の書誌情報を記録し、かつ研究に供しうる環境を整備する最後のチャンスであるといえる。

4. 「マザール文書」の集成に向けて

上述の問題意識に立ち、編者はじめその問題意識を共有する研究者たちは、マザール文書に直接関係する地域社会との連携の下、これらマザール文書の所在を調査し、集成し、研究する取り組みに着手した。それが「マザール文書プロジェクト」である。当プロジェクトはフェルガナ・新疆両地域でマザール文書の保存体制を確立し、地域のマザールを軸とする伝統的な風俗・習慣の保持・継承に貢献することを目的とする。あわせて両地域を横断するマザール文書研究を通じて、マザールをめぐる地域史の再構築ならびに両地域共通の文化基盤の解明とを試みるものである。

当プロジェクトの組織にあたっては、これまでマザールならびに「マザール文書」研究に関連した、いくつかの組織的取り組みと個人の調査研究活動とがあり、それらの蓄積を前提としていることをまずここでお断りしておく必要がある。以下に組織的取り組みのあらましを示す:

- (1)1996年 中国・新疆カシュガル、トルファン地区マザール調査(新免康、真田安、王建新:科学研究費補助金(科研)「イスラム圏における異文化接触のメカニズム—人間動態と情報に関する総合的研究」(研究代表者:家島彦一)による)²。
- (2)1998年 中国・新疆カシュガル地区マザール調査(堀直、澤田稔:各個人研究費による)³。

² 新免康、真田安、王建新『新疆ウイグルのバザールとマザール』(イスラム文化叢書第70号)、東京:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、1992年参照。

³ 澤田稔「オルダム・パーディシャー聖域について」『内陸アジア史研究』第14号、pp.91-109; 同「タリム盆地周縁部イスラム史跡調査報告」『帝塚山学院大学・人間文化学部研究年報』増刊号、pp.49-70 参照。

(3)2000年 中国・新疆ホタン地区マザール調査 (澤田稔、菅原純: 科研「中央アジアにおける共属意識とイスラムに関する歴史的研究」(研究代表者新免康)による)。

(4)2005年 中国・新疆ハミ地区マザール調査 (菅原純: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 GICAS サブプロジェクト「内陸アジア・オンライン・リソースの構築」(研究代表者中見立夫)による)。

(5)2004-5年 ウズベキスタンフェルガナ州・新疆カシュガル地区マザール調査 (澤田稔、新免康、菅原純、河原弥生、アシルベク・ムミノフ、ナーディルベク・アブドゥアハトフ: (財)なら・シルクロード博記念国際交流財団・シルクロード学研究センター課題研究「中央アジアのイスラーム聖地の研究 —フェルガナ盆地を中心に」(研究代表者澤田稔)による)。

とくに最後にあげたならシルクロード研究財団助成になる研究活動は参加者の顔ぶれからも、また調査研究対象からも当プロジェクトの雛形とも言えるべきものであり、「マザール文書」研究への道を拓く成果を収めえた取り組みであった。

上記のようなさまざまな取り組みを背景として組織された当プロジェクトは、本書の編者のひとり菅原純(東京外国語大学 AA 研産学官連携研究員)がプロジェクト・リーダーをつとめ、研究メンバーとしてもうひとりの編者河原弥生(日本学術振興会特別研究員)はじめ、澤田稔(富山大学教授)、新免康(中央大学教授)、菅原陸(東京外国語大学助教授)、アシルベク・ムミノフ(カザフスタン共和国教育科学省東洋学研究所副所長)、ナーディルベク・アブドゥアハトフ(フェルガナ博物館副館長)、アブリズ・オルホン(新疆ウイグル自治区地方志編纂委員会研究員)、アルスラン・アブドゥッラ(新疆大学人文学院院长、教授)、ラヒラ・ダウト(新疆大学人文学院教授)、アサド・スレイマン(新疆大学人文学院教授)、現地協力者としてアリーシェール・タシクロフ(『フェルガナ州文化新聞』副編集長)、イスマーイールハーン・マフムードフ(ウズベキスタン、ウチェクブリンク郡カッタ・カナガス村モスク・イマーム)、ソフラ・タリブ(新疆ハミ地区民族語言文字古籍弁公室主任)が参加している。当プロジェクトは「新疆・フェルガナ両地域におけるマザール文書の調査・集成・研究」と言う研究課題名で 2005 年度のトヨタ財団の助成研究プログラム(特定課題「アジア周縁部における伝統文書の保存、集成、解題」)に採択された。本書の刊行に先立って開催された国際学術会議「フェルガナおよび新疆におけるマザール」(2005年11月26-27日、東京水道橋小倉ビルディング会議場で開催)は当プロジェクトが取り組んだ最初の活動であったが、その一部をトヨタ財団の資助に負っている。

5. 本書および本書掲載文書について

本書は「マザール文書プロジェクト」の活動の根幹を為す、文書「集成」の最初の試みである。当プロジェクトでは実地調査によって消滅の危機に瀕する「マザール文書」を発掘し、ファクシミリ形で出版することで複写の形で当該文書たちにある程度の永続性を付与することを第一のミッションにしており、可能な限り多くの文書を影印のかたちでリリースしていく予定である。今回掲載した「マザール文書」は、詳細は以下の各章の文書解題で詳述されるが、いずれも編者たちによって実地調査の中で見出されたものである。

⁴ 澤田稔「タクラマカン砂漠南辺の聖墓」『帝塚山学院大学・人間文化学部研究年報』第2号、pp.160-182; 菅原純「殉教者の国ホタン」『アジア・アフリカ言語文化研究所 通信』第101号、pp.10-17 参照。

⁵ 澤田稔編『中央アジアのイスラーム聖地の研究 —フェルガナ盆地とカシュガル地方—』(シルクロード学研究紀要 28)、奈良: (財)なら・シルクロード博記念国際交流財団・シルクロード学研究センター、2007年(刊行予定)。

新疆のマザール文書

菅原 純

本書で紹介する新疆由来のドキュメントは以下の2種からなる。すなわち(1)コムル市アズィズィム・アガチャム廟文書(4点:EA01-04)、(2)コムルのマザール案内書(1点/19葉:QM01)である。なお、括弧内の番号は利用の便宜のために付した各文書、史料の整理番号である。

これらの文書ならびに写本史料は、これまで比較的研究されることが少なかったコムルのマザールにつき、まとまった情報を提供する新史料である。当史料は筆者(菅原)が2003年に新疆・コムル地区でおこなった東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の特別推進研究 GICAS 派遣の現地調査で初めて見出し、所有者の了承のもと撮影し、その後トヨタ財団助成による当「マザール文書」プロジェクトの調査でさらなる聞き取り調査、史料記載のマザール踏査等を実施したものである。

(1) コムル市アズィズィム・アガチャム廟文書(4点:EA01-04)

アズィズィム・アガチャム・マザール(Äzizim Aghichäm mazar)はコムル回城の外側にあたるシャフル・エトラビ・イエザのアズィズィム・マハツラ(shähr äträpi yeza, äzizim mahällisi)に位置するマザールである。被葬者はアラブ人の女性聖者“Bibi Rabiya Ädwiya Wäliyullah”であると伝えられ、毎年クルバン祭の前夜には女性が参拝する習慣があるという¹。

ラビヤ・アドウィーヤ(d. 801)は、歴史上、数多い女性のスーフィーたちの中でも「もっとも著名な」聖者であるとされ²、中央アジア地域で広く流布していた聖者伝であるアッタール(Farid al-Din Muḥammad ‘Attār)の『聖者伝 (*Tadhkirat al-awliya*)』にも女性聖者としてはただ一人登場する人物でもある³。この著名な聖者は西暦801年にバスラに没したとされ⁴、墓も同地に存すると考えられることから、このコムルのマザールがその著名な聖者の墓であるとは考えにくい。このように本来は無関係ながら著名な聖者の名前を冠したマザールの例は新疆、フェルガナにおいては一般的に見られることであり、当マザールは本来別の女性の聖者を祀ったものが、長い時間の中で著名な女性聖者の名を持って呼ばれるようになったものであろう。

ここで紹介する文書4点は、当マザールの管理者であるシャイフの系図と、当マザールに関連する契約文書2点である。所有者は2002年の時点で当マザールのシャイフを勤めていたユスブジャン・カースィムシャー

¹ Ayshäm Ähmät, *Qumul. Ürümchi: Shinjang Khäliq Näshriyati*, 1993, pp.244-245.

² Trimmingham, J.S., *The Sufi Orders in Islam*. New York & Oxford: Oxford University Press, 1998, p.18.

³ ファリド・ウッドィーン・ムハンマド・アッタール著、藤井守男訳『イスラーム神秘主義聖者列伝』東京:国書刊行会、1998年、49-84頁。なお、コムルではアズィズィム廟の聖者伝と伝えられる写本が民間に存在している。筆者はそれを当プロジェクト調査の中で実見する機会を得たが、内容は『聖者伝』の該当部分の記述に極めて似通っている。

⁴ Smith, Margaret, *Rābi'a Basri: The Mystic and Her Fellow-Saints in Islam*. New Delhi: Kitab Bhavan, 2005, p.45.

(Yüsüpjan Qasimshah)氏(2003年死亡)であり、文書にはそのユスブジャン・シャイフの父、祖父の名前が見えるものがあり、シャイフ一家に関連した文書であることがそのことから知られる。系図は当マザールがコムル地域社会において数世代もの長きに渡り一定の宗教権威を有して地域社会の中に存在していたことをうかがわせる材料として重要であると考えられる。また契約文書は20世紀初頭の時点での当マザールをめぐる社会・経済状況の一端を提示する史料として注目され、また同時に同時期のコムルの文書書式を理解するうえでも重要な研究意義を有している。

EA01 系図(成立年代不明)44cm×47cm。

・Qul 'Ali Shāh Shaykhを筆頭とする8世代にわたる、総数60名の系譜。文書所有者ユスブジャン・シャイフの父であるQasim Shah、祖父Niyāz Shāh Shaykhの名が系図の第八代、七代目にそれぞれ記されている。

EA02 系図(成立年代不明)11cm×23cm。

・Qul 'Ali Shāh Shaykhとその次世代総数8名の系譜。EA03とは人名が重複しない。

EA03 不動産贈与文書(AH1318年Hazuna年ドゥア一月7日/1900.10.31)。31cm×21.5cm。

・陳述者Qārni Chong Ilyāsが自己の所有するInchike ariqの河床所在の播種面積4斗の土地をShamshiye Tarkanに贈与(*bakhshande*)することを約した文書。印章3点。

EA04 不動産売却文書(AH1343年ラマザン月12日/1925.4.6)。36cm×30cm。

・陳述者Tūlak Shākirが自己の所有するInchike ariq所在の播種面積2斗の土地をNiyāz Shāh Shaykhに対し約50サルで売却することを約した文書。印章2点。なお、当文書の受取人であるNiyāz Shāh Shaykhは文書所有者のユスブジャン・シャイフの祖父である。

(2) コムルのマザール案内書(1点/17葉:QM01)16.5cm×11cm

「コムル市内、および(コムル)所属(地域)内におけるすべてのズルグワル・ホジャムたちの聖なる名前は以下の通りである(*Qomūl shahr ichidaki wa tabe' laridaki bārlīq buzurugwār-khojamlarning isim-i shariflari bu turur.*)」という文言から始まる、17葉からなる散文の史料である。このうち前半の8葉が約35ヶ所からなるコムル地区のマザールの名前と所在地、若干の伝承の紹介で、それ以降はマザール参詣の必要と方法、唱えるべき聖句(*āyat*)、そしてアフアーク等ホージャに至る中央アジアの著名なスーフィへの賛辞などが記されている⁵。

このテキストの成立年代は、その第4葉裏に1945年の出来事であるケイス・ホジャム墓の星星峽からの改葬について言及されていることから、比較的新しいものであることは確実である⁶。とはいえ近年の現地出版物以外で本書のような形でコムルのマザールを詳述した史料は類例が知られておらず、本書はコムルのマザールを研究するうえで一定の価値を有しているといえる。

⁵ この写本で紹介されたマザールの多くは、トヨタ財団助成による現地調査(2005年3月、2006年8月実施)によって現存が確認されており、その情報の精度はかなり高いものと考えられる。

⁶ 1945年7月4日に行われたケイス・ホジャム墓の改葬については、哈密地区地方志編纂委員会編『哈密地区志』(烏魯木齊:新疆大学出版社、1997年)、1306頁参照。

フェルガナ盆地のマザール文書

河原弥生

ここでは、フェルガナ盆地において発見され、撮影された 7 点の文書を紹介する。7 点のうち 4 点はクタイバ・イブン・ムスリム廟に、3 点はカラ・ヤズィ・バーバー廟に関連する文書群である。なお、これらの文書群は、(財)なら・シルクロード博記念国際交流財団シルクロード学研究中心研究助成「中央アジアのイスラーム聖地の研究—フェルガナ盆地を中心に—」の、2004 年度におけるフェルガナ盆地のマザール調査の際に発見され、トヨタ財団研究助成「新疆・フェルガナ両地域におけるマザール文書の調査・集成・研究」において継続調査が行われた。

1. クタイバ・イブン・ムスリム廟のマザール文書¹

A. クタイバ・イブン・ムスリム廟

場所:ウズベキスタン共和国アンディジャン州ジャラ・クドゥク郡スービー村クリチ(旧名グルンチ)墓地

由来:8世紀の初頭に中央アジアを征服したアラブ軍の司令官クタイバ・イブン・ムスリムと、その3人の息子たちの墓とされる。クタイバはこの地方で異教徒(インフォーマントによると「ヒタイ」)の王グルンチ/クリチ Gulunch/Kulich の娘、スルターン・エナと結婚して、3人の息子に恵まれ、自らの軍隊の兵士によって殺されるまで7年間ここに住んだと言われる²。

現在の状況:クタイバ・イブン・ムスリムの墓廟を中心とし、クタイバの3人の息子の墓、二人の聖者の墓、「聖水」の出る木がある。マザールの付近はクタイバの子孫を自称する「ホジャ」たちが住み、それは30家族にのぼる。また、墓地の近辺には、ホジャ・マザール、クルグズ・マザール、ウズベク・マザール、カシュガル・マザール、カラカルパク・マザール、ムンドゥズ・マザールなどと呼ばれる墓地がある。

¹ 筆者はすでにクタイバ・イブン・ムスリム廟と所蔵文書について報告を行っている。Kawahara Y., Tazkira of Qutayba ibn Muslim and his Mazar in the Ferghana Valley, International Conference "Mazars" in Ferghana and Xinjiang, November 26-27 2005, Conference room, 4th floor Ogura building, Suidobashi, Tokyo; 河原弥生「クタイバ・イブン・ムスリム廟—口承伝説と所蔵文書の検討—」澤田稔編『中央アジアのイスラーム聖地の研究—フェルガナ盆地とカシュガル地方—』(シルクロード学研究紀要28)、奈良:(財)なら・シルクロード博記念国際交流財団・シルクロード学研究中心、2007年、49-65頁(刊行予定)。

² インフォーマント:アブドゥルハミード・マフスーム・ハージー・スィラージディノフ氏(1922年生、同村在住)。

一方で、近辺の村々には、クタイバに関連するマザールが点在する。まず、同村には、シャヒード・マザール（別名グルンチ・マザールあるいはマザール・ブヴァ）がある。本名は不明だが、クタイバの兵士の一人と言われる。かつてここには城塞があったとされる。また、同郡コンド村には、クタイバの妻と言われるスルターン・エナ・マザールがある。彼女は改宗してムスリムになり、クタイバが殺された後、岩の間に「お隠れ」になったといわれる。また、同郡チャシュマ村にあるチャシュマ・ブヴァ・マザール、およびホジャアーバード郡ヤール村にあるカンバル・アタ・マザールは、殉教したクタイバの部下のものとの言い伝えがある。

歴史史料にみるマザール：10世紀の歴史家ナルシャヒーは、「Kakh 村の Rabat-i Sarhang という場所にクタイバ・イブン・ムスリムの墓がある」と述べている³。一方 14 世紀初頭のジャマール・アッディーン・カルシーの『辞書スラーフへの補遺』では「Kulich 村にある」と述べている⁴。バルトリドは、上記二人の歴史家の記述について検討し、ナルシャヒーにおける Kakh という綴りが、Kulich という語の写し間違いであろうと指摘している⁵。ソ連の建築学者ピサルチクは、1946 年に当マザールの調査をして報告している⁶。

B. 文書

収集文書の持ち主は、ナスルッラーハーン・ハサノフ氏（1938 年生、アフンババエフ郡在住）である。ハサノフ氏の祖先は、代々このマザールでシャイフ職にあったといい、マザールに関係する文書は代々氏の一族に伝わってきたものである。氏によると、祖先はナクシュバンディー教団のシャイフであったという。このため、このマザールは、以前はナクシュバンディー教団の成員たちが活動する場だった可能性もある。

WT-QM-01: 238.5 x 27.5cm

以下の 2 点の文書から成る巻き物である。

- クタイバ・イブン・ムスリムの伝記。冒頭部分が欠落。
- 1271 年⁷ラジャブ月 / 1855 年 3~4 月に作成されたサイド性を証明する系譜書。シャー・クタイバを筆頭とし、28 世代にわたる、総勢 45 名が連なる。右横にコーカンド・ハーン、マッラ・ハーン（在位 1858~1862 年）の印章 1 点、下にカーディーらの印章 38 点。

WT-QM-02: 750.4 x 31.5cm

以下の 6 点の文書から成る巻き物である。

³ *Description topographique et historique de Boukhara par Mohammed Nerchakhy suivie de textes relatifs à la Transoxanie*, texte persan publié par Charles Schefer, Reprint of the Edition Paris 1892, Frankfurt am Main, 1993, p.57; Rabat-i Sarhang の地名は、『パーブル・ナーマ』にも見える。間野英二『パーブル・ナーマの研究』松香堂、1995年、108、110頁。

⁴ Абу-л-Фадл ибн Мухаммад Джамал ад-Дин Карши, Мулхакат ас-сурах, (пере. с персидского Р.Ш. Шарафутдиновой), *Материалы по истории Средней и Центральной Азии X-XIX вв.*, Ташкент, 1988, стр.122.

⁵ Barthold, W.-(Spuler, B.), *Farghāna*, *EI2*.

⁶ Писарчик, А.К., Некоторые данные по исторической топографии городов Ферганы, *Сборник статей посвященных искусству таджикского народа*, Сталинабад, 1956, стр.171-174.

⁷ ただし、1261 と書かれた数字を 1271 に書き直したか、あるいはその逆を行った形跡がある。他のカーディーらの印章の中に 1270 年や 1271 年と刻まれたものが見られることや、マッラ・ハーンの統治時期にも近いことから、1271 年が正しい可能性が高いと判断した。

- a. クタイバ・イブン・ムスリムの伝記。WT-QM-01-aと同文。
- b. 1274年ラビー・アルアッワル月 / 1857年10～11月に作成されたサイド性を証明する系譜書。シャー・クタイバを筆頭とし、27世代にわたる、総勢32名が連なる。印章9点。
- c. ファトワー1。クタイバの子孫たちは系譜書が認証されているため、免税とすべきであるとの法的意見。印章13点。
- d. ファトワー2(写し)。サイドたちは尊敬すべきであるとの法的意見。
- e. ファトワー3。サイドであるクタイバの子孫たちは他者よりも優れているとの法的意見。印章1点。
- f. ファトワー4。マザールに住むクタイバの子孫たちはサイドであり、マザールでなされた寄進物を彼らから取り上げてはならないとの法的意見。印章7点。

WT-QM-03: 587 x 26cm

以下の4点の文書から成る巻き物である。

- a. 1293年ラビー・アルアッワル月 / 1876年5～6月に書かれた系譜をもとに、1312年ジュマダー・アルウーラー月 / 1894年10～11月に作成されたサイド性を証明する系譜書。シャー・クタイバの子孫のうち、4世代にわたる、総勢10名が連なる。印章4点。
- b. ファトワー1。WT-QM-02-cと同文。印章9点。
- c. ファトワー2(写し)。WT-QM-02-dと同文。
- d. ファトワー3。マザールに住むクタイバの子孫、サリムサク・ホージャ・イーシャー、イスマーイル・ホージャ・イーシャー、及びその他のハール・ホージャ、ハーン・ホージャ、イスマーイル・ホージャの子孫たちは、マザールでなされた寄進物を受領する権利があるとする法的意見。印章2点。

WT-QM-04: 35.6 x 21.9cm

1283年ラマザーン月 / 1867年1～2月に、マザールの管理人である、イスマーイル・ホージャ・イーシャー、ハーン・ホージャ・イーシャー、ユヌス・ホージャ・イーシャー、およびサリムサク・ホージャ・イーシャーに対して、コーカンド・ハーン国の君主、フダーヤール・ハーン(在位 1845～1858、1862～1863、1865～1875年)によって発行された免税証書。

2. カラ・ヤズィ・バーバー廟における収集文書

A. カラ・ヤズィ・バーバー廟

場所:ウズベキスタン共和国フェルガナ州オズベキスタン郡ベシュカバ村

由来:カラ・ヤズィ・バーバーとは、本名をアサド・アッラーといい、サイド・バッタール・ガーズィーの息子とされる。彼らについて詳しいことは歴史史料からも、現地でのインタビューからもほとんど明らかになってはいないが、1859年に作成されたWT-QB-01に記載された系譜では、カラ・ヤズィ・バーバーの28世代子孫にあた

る人物について書かれていることから、マザールに埋葬されている人物として、イスラーム誕生からかなり初期に生きた人物が想定されていると考えることができる。

ところで、トルコから中央アジアにかけての広い地域で、「サイド・バッタール・ガズイー」という聖者が広く知られていた。伝説によると、彼は機知によってビザンツ皇帝からコンスタンチノープル(現在のイスタンブル)の半分を奪ったとされる。トルコのエスキシェヒルにはサイド・バッタール・ガズイーが埋葬されているとされる同名のマザールも存在し、20世紀に入っても中央アジアからの巡礼者が絶えなかったというから⁸、あるいはカラ・ヤズィ・バーバーの父とは、このサイド・バッタール・ガズイーのことを指している可能性もある。

現在の状況:マザールの中に「ムーイ・ムバーラク(神聖なる鬚髪)」と呼ばれる預言者ムハンマドの鬚髪が入っているとされる箱がある⁹。墓石は長く大きなもので、長さは9mほどもある。マザールの敷地内には池がある。カラ・ヤズィとは、「黒い石の荒野 qara tashli dasht」に由来するとされる。代々カラ・ヤズィ・バーバーの子孫がシャイフをつとめてきた。

周辺の村々にはカラ・ヤズィ・バーバーの兄弟のものとされるいくつかのマザールが存在する。まず、同郡アク・ヤズィ村には、アク(白)・ヤズィ・ブヴァ・マザールがあり、また、同郡ダシュト・マハツラ村には、サル(黄)・ヤズィ・ブヴァ・マザールがあり、同郡ダシュト村イーシャーン・ブヴァ墓地には、ペーシュターク¹⁰・ブヴァ・マザールがあり、そのすべてがサイド・バッタール・ガズイーの息子であった、すなわちカラ・ヤズィ・バーバーの兄弟であったと言われている。

歴史史料にみるマザール:いくつかの史料によると、コーカンド・ハーン国の君主、アーリム・ハーン(在位1799~1810年)の息子のアタリク・ベクが、1843年の政変で殺害された場所である¹¹。

B. 文書

ここに紹介した3点の文書は、母方で当マザールのシャイフの子孫にあたる、ハリーマハーン・マアルーフホジャエヴァ氏(1948年生、同村在住)が所蔵している。マアルーフホジャエヴァ氏はこれらの文書を母親から譲り受けたといい、母はその父親から受け継いだという。一方、マアルーフホジャエヴァ氏は、父方からは、ナクシュバンディー教団の16世紀の著名な指導者、ルトフフ・アッラー・チュステイー(1571年没)の子孫であるという。ならば、カラ・ヤズィ・バーバー・マザールのシャイフたちは、チュステイー系のシャイフたちと関係があったと考えることもできるが、現在のところ、それを裏付けるのは難しい。

⁸ Снесарев, Г.П., *Хорезмские легенды как источник по истории религиозных культов Средней Азии*, Москва, 1983, стр.178-180.

⁹ フェルガナ盆地内には、「ムーイ・ムバーラク」とされるものが他にもいくつか存在する。例えば、フェルガナ州オズベキスタン郡アウチ村にはムーイ・ムバーラク・マザールがあり、マルギラン市ホジャ・マギズ・マハツラにもハステイ・マアーズ・マザールの敷地内にムーイ・ムバーラクと呼ばれるマザールがある。

¹⁰ 「ペーシュターク」とは、建物の入り口の上部に装飾の施された部分を指すが、渾名の由来は明らかではない。

¹¹ Mīrzā 'Ālim Mushrif, *Ansāb al-salātin wa tawārikh al-khawāqin*, Institute of Oriental Studies of the Academy of Science of the Republic of Uzbekistan, Inv.No. 1314, 61b; 'Awaz Muḥammad, *Tuhfat al-tawārikh-i khānī*, St.Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies of Russian Academy of Sciences, Inv.No. S440, 248b.

WT-QB-01: 49.5 x 31.5cm

1275年ジュマダー・アルアヒラ月 / 1859年1~2月に、アサド・アッラー(カラ・ヤズィ・アタ)の子孫である、ムハンマド・アミン・ハーン、ダーニヤール・ハーンに対して、サイドであることが認証された系譜書。アサド・アッラーの子孫である、28世代、総勢42名が連なる。印章32点。

WT-QB-02: 34.5 x 43.5cm

ファトワー。アサド・アッラー・ハーン(カラ・ヤズィ・アタ)の子孫たち、アサマト・アッラー・ホージャ、ハイダルアリー・ホージャ、ガーズィー・ホージャ、アタ・ホージャ、ハムザ・ホージャ、サイド・ホージャ、ワリー・ホージャ、バーバー・ホージャ、シャラーファト・バーヌー、アブド・アッラー・ホージャらは、マザールでなされる寄進を受け取る権利があるとする法的意見。

作成年は記載されていないが、押された印章の中には、WT-QB-01に押されたのと同じものも存在する一方で、1289年、1290年、1293年、1294年(西暦1874~1878年に相当)などの年号が読み取れるものもある。従って、WT-QB-01よりもおよそ15年程度後のロシア帝国期に作成されたと考えられることができる。ただし、このファトワーに記載されている人名は、WT-QB-01に記載されている人名とどれも合致しない。このため、WT-QB-01にあらわれる子孫のうちのいずれかの人物の子供にあたる考えられるものの、それが誰であるかは不明である。印章28点。

WT-QB-03: 181 x 16cm

作成年不明。部族単位の名簿。マザールのシャイフによって、他の関連文書とともに所蔵されてきたことから、この名簿はスーフィー教団の導師が収入を得るための、弟子の名簿であったと考えられる。スーハレワによると、毎年秋の収穫が終わる頃、教団の導師たちは自分の弟子の住んでいる村に出掛けて行き、穀物や果物を受け取り、家畜を連れ帰って収入源としたという。また導師たちはそのための名簿(daftar)を持っており、このような彼らの行動は「狩り」と表現された¹²。本文書もそのような名簿の一つであったことは間違いなからう。

記載された部族名と人数の内訳は以下の通りであるが、正確な読み方の不明な名称も多く、またどれが上位あるいは下位集団に当たるのかも明らかにすることができなかった。ユースフ・アリのタルトゥグリ・ジャライル72人、クディシュ・アルチン36人、ファンジガル・アルチン35人、ヤラング・アス77人、ファンジガル・ミング13人、カングリ・カユシukanル20人、ジャムキドウルマン・コシュタムガル11人、アイトウー・コシュタムガル32人、アイトウー・ジュブラチ20人、ジュブラチ16人、シャードマンと戦ったバルガル・ジャライル22人。

ところで、このリストの中の、クディシュ・アルチンとファンジガル・アルチンの名簿については、「イーシャーン・クーチャク・ハーン・ホージャ・イブン・ニヤーズ・ハーン・ホージャの弟子たち」との添え書きがある。イーシャーン・クーチャク・ハーン・ホージャという名は、WT-QB-01の系譜中に見られるが、その父親はアズィーズ・ハーンという人物であるから、これは別人である。一方、ニヤーズ・ハーン・ホージャという名もWT-QB-01の系譜中に見られる。系譜には彼の息子としてナウルーズ・ハーンの名が挙がっているが、他にもクーチャク・ハーンという息子がいた可能性は考えられる。いずれにせよ、カラ・ヤズィ・バーバー・マザールを本拠地とした、クーチャク・ハーンらカラ・ヤズィ・バーバーの子孫を自称し、同時にスーフィー教団の導師であった何人かが、これら部族民に多くの弟子を有していたと考えて大過あるまい。

¹² Сухарева, О. А., *Ислам в Узбекистане*, Ташкент, 1960, стр.64.



INTRODUCTION

Towards a Study of Mazar Documents

SUGAWARA Jun

1. What are the “mazar documents”?

Mazars (Islamic Mausoleums) have long been functioning as the central source of spiritual strength and guidance for the local communities. An institution of complex nature, mazar combines religious elements of Islam—by being ideologically based on worshipping Muslim saints—and elements rooted in popular beliefs with their orientation on pursuing “this-world-benefits”, such as related to curing or fertility. On the other hand, serving as objects of pilgrimage, mazars have also played an important social role of major hubs of wide-area human exchange—which extends their significance far beyond the narrow boundaries of local communities¹.

The term “mazar documents”, introduced here, is used for convenience in reference to the diverse array of documents that have been handed down through generations in the families deeply connected to the history of a mazar or involved in its maintenance and administration, as well as performing religious rites. The fact that such documents have been carefully preserved till nowadays by the people directly connected to the related mazar or by the local community reflects their awareness of the significance the mazar had for the region. The volume, content, and preservation conditions of the documents vary greatly from region to region; and the differences seen between the two regions presented here, Ferghana and Xinjiang, are particularly considerable. Mazar documents include manuscripts of various sorts, such as the following: documents verifying the legitimacy of mazar custodians (who usually claim to be descendants of the saint buried in the mazar); documents pertaining to the buildings and premises of a mazar; documents related to the endowments and offerings made at a mazar; documents related to the origins and history of a mazar, etc. With the exception of rare cases when 17th-18th century documents are found, most of the discovered documents date to the 19th or 20th century. Depending on when the document was written, usually it is in Persian or Turkic, sometimes including insertions in Arabic. In addition, later documents often tend to include parallel texts in Russian or Chinese as well.

By their content, all mazar documents can be classified into the following groups:

¹ On the social functions of mazars and the role they played in the history, see: Shinmen Yasushi, Sanada Yasushi, Wang Jianxin, *The Bazaars and Mazars of the Xinjiang Uighur*. (Studia Culturae Islamicae No.70), Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, 1992; Rahila Dawut, *Uyghur mazarliri*. Ürümqi: Shinjang Khāḷq Nāshriyati, 2003.

(1) Genealogies (*shajara, neseb-name, jorongqai*)

These genealogical records were drawn up with the purpose of linking their holder's lineage directly to Prophet Muhammad. Thus, in nearly all the cases the saints buried in mazars, even if they had lived in the pre-Islamic times, are considered descendants of the Prophet. Moreover, the presence of such genealogical records was indispensable for establishing the legitimacy of the mazar custodians, most of whom were or at least claimed to be descendants of the saint buried in the mazar. The genealogical records can be divided into the following two types: graphical tree charts and textual pedigrees. Most of the documents are in the form of scrolls, the longest exceeding 10 m in length.

(2) Hagiographies (*tazkira*)

This group of documents materials contains biographies and legends related to the saint buried in the mazar, along with other saints among his or her ancestors and descendants. Emphasizing religious activities of the main character, with description of the miracles the saint produced, apparently was intended to bolster religious authority of the mazar custodians—who claimed to be descendants of the described saint—within the local community.

(3) Appointment or designation certificates

These are documents certifying nomination of custodians and other appointments. In Ferghana, in many cases mazar custodians were nominated or approved by the government of the time.

(4) Privilege certificates

These are documents certifying tax exemption rights or other privileges of the holder. In Ferghana, descendants of saints received tax exemption and other privileges from the government. These documents, together with the designation certificates mentioned above, imply that mazars had a certain political status guaranteed by the authorities.

(5) Endowment certificates (*waqf-name*)

This group of documents certifies endowments made in favor of a mausoleum or a mosque, a madrasa, and other facilities or institutions appertaining to the mazar. These important historical materials shed light on the economic and other relationships between members of the local society and mazars.

(6) Judicial documents

This group of documents consists of petitions (*dawa*), legal opinions (*fatwa*), and legal rulings (*hukm*). These documents allow researchers to discover the real picture of mazar social interests and benefits.

(7) Guides to holy places

These manuscripts are believed to be written with the purpose to be used by pilgrims as guides to the holy places. In addition to basic information such as the name of a mazar, its origins and location, the saint buried there, they also often include descriptions of legends and beliefs associated with the mazar, statements of the necessity and significance of the pilgrimage, as well as a brief guidance with basic rules for the pilgrims.

Besides the above mentioned materials, there are also general contractual documents (such as related to purchase deals, loans, donations, inheritance, entrustment, etc.) pertaining to the adjacent local communities closely connected to the mazars—which, in some cases, can also be regarded as a part of “mazar documents”

in a broader sense. These documents are the “living texts” that support the mazars’ authority of institutions performing certain spiritual and social functions within the local communities. Not only such documents have retained their major significance for the local society up to the present day, they also carry a remarkable volume of information of academic interest that can help researchers better understand origins and history of mazars as well as reveal the role mazars have been playing in the local society.

2. Endangered mazar documents

In both neighboring regions, Xinjiang and Ferghana, separated only by the Alai Range, there are numerous mazars inspiring devoted faith which has been carried over through generations and still lives among the local inhabitants. At the same time, as was already mentioned above, in both regions, mazar documents—which gained a certain social recognition of their value in relation to mazars—also have been carefully preserved in private ownership up to the present time. Nevertheless, the current situation with the documents preservation rather does not inspire optimism for their future. The two major upheavals of the late 20th century—the emergence of independent states in Central Asia after the dismantling of the Soviet Union, and the conclusion of the Cultural Revolution and launching of reforms and open-door policy in China—both have contributed to the revival of traditional cultures in the regions and restoring the interregional communication. However, on the other hand, as a reverse side of the outside openness, this is more or less accompanied with rapid secularization and popularization which in turn adversely affect the situation with preservation of traditional documents in both regions.

Though today all the five independent states that emerged in Ferghana after the collapse of the Soviet Union widely proclaim the necessity of reclamation and reconceiving traditional values and national history, it is not necessarily develop into growing interest towards historical materials. Likewise, though with the recent re-emergence of Islam, the popularity of pilgrimage to mazars has greatly increased, there is a big gap between this tendency and the attitude people show to the related historical documents; and the awareness of the mazar documents value among local people of younger generations remains extremely low.

As an effect of the currently promoted national project for West China development, Xinjiang is exposed to the turbulent waves of change in the very foundation of the society and culture caused by rapid growth of the Han Chinese population here. It is no exaggeration to say that traditional Uighur society is experiencing slow disintegration. Under such conditions, mazars and other sacred and religious places that numerously exist in the region also begin showing signs of gradual decline. As an example of recent trend, there can be mentioned transformation of mazars from holy places of religious worship into tourist objects due to tourism development within the context of the open-door policy. Now, the mazar premises as well as pilgrimage and other mazar-related religious activities are attracting foreign travellers as objects of tourist interest, and, in correspondence with this trend, mazar management is being transferred from the traditional custodians or local communities to the local government departments in charge of culture and tourism. This secularization process is currently going on apace in the whole Xinjiang region.

In short, Ferghana and Xinjiang, while finding themselves in the middle of ostensibly contradictory processes—the reconceiving of traditional culture values after emergence of independent states in the former region and the dismantling of traditional society due to the rapid inflow of the dominant Han Chinese culture and growth of the Han Chinese population in the latter—both are facing the same threat of irreparable loss of mazar documents due to advance of secularization. That is why continued efforts to collect and preserve mazar documents are indispensable for protecting traditional culture in both regions and promoting further

study of traditional local communities.

3. Scantiness of bibliographic information and collections of mazar documents

Unlike manuscripts, general contractual and legal documents (*qadi* documents), or textual historical materials of other sorts, which were systematically collected in both regions by scientific institutions of the USSR and China resulting in rich collections kept in archives and libraries in both countries, the number of mazar documents presented in public collections as well as the information on the documents location or ownership is scarce. Therefore, the location information and bibliographic data available to researchers is rather scanty. The reason is that, being commonly recognized within local society as valuable "living documents", mazar documents could not previously be regarded as objects for purchase during the systematic document collecting or other organized research activities.

Therefore, privately held mazar documents constitute a unique type of historical resource, with no analogies in public collections; and taking into consideration the current critical situation with their preservation, it seems that now we have the last opportunity to gather and record the bibliographic data of mazar documents paving the way for their future study.

4. Towards collecting mazar documents

Based on the above stated understanding of the problem, researchers (including the editors of this publication) who share this stance, in close cooperation with the local communities directly connected to the mazar documents, have initiated their efforts for locating, collecting, and studying mazar documents. This is the so called "Mazar Documents Research Project". Intending to establish systematic preservation framework, this project is aimed to contribute to preservation and continuation of cultural traditions and customs centered on the local mazar. At the same time, through carrying out a cross-regional research on mazar documents, this project presents an attempt to reconstruct the local history that is closely connected to mazars and reveal the common cultural foundations shared by the two regions.

It must be noted that this research project is based on the accumulated results of a number of previously conducted organized projects and private research activities in studying mazars and mazar documents. Below is a short summary of the organized research activities:

(1) 1996: Mazar research in Turfan district, Kashghar, Xinjiang, China (Shinmen Yasushi, Sanada Yasushi, Wang Jianxin: Grants-in-Aid for Scientific Research (*Kakenhi*). "From The Mechanism of Contacts between Cultures in the Islamic Sphere – A Comprehensive Study on Human Movement and Information" (Representative: Yajima Hiko'ichi))².

(2) 1998: Mazar research in Kashgar district, Xinjiang, China (Hori Sunao, Sawada Minoru: funded privately from individual research allowance)³.

² Shinmen Yasushi, Sanada Yasushi, Wang Jianxin, *The Bazaars and Mazaars of the Xinjiang Uighur*. (Studia Culturae Islamicae No.70), Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, 1992, in Japanese.

³ Sawada Minoru, "Information of Ordam-padishah System", *Inner Asian Studies*, no.14, pp.91-109; do. "Fieldwork at

(3) 2000: Mazar research in Khotan district, Xinjiang, China (Sawada Minoru, Sugawara Jun: Kakenhi. "A Historical Study on Awareness of Togetherness and Islam (Ethnic Identity and Islam) in Central Asia" (Representative: Shinmen Yasushi))⁴.

(4) 2005: Mazar research in Qumul district, Xinjiang, China (Sugawara Jun: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, the Sub-project of GICAS "Online Resource on Inner Asian Studies (ORIAS)" (Representative: Nakami Tatsuo)).

(5) 2004-2005: Mazar research in Kashghar district, Xinjiang, China; Ferghana district, Uzbekistan (Sawada Minoru, Shinmen Yasushi, Sugawara Jun, Kawahara Yayoi, Ashirbek Muminov, Nodirbek Abdulhatov: Research Center for Silk Roadology, The Nara International Foundation "A Study of Islamic Sacred Places in Central Asia: With a Focus on the Ferghana Valley" (Representative: Sawada Minoru))⁵.

It should be noticed that the last mentioned research funded by The Nara International Foundation, in respect of the participants and the object of study, was the direct predecessor to the current project; moreover, it has yielded impressive results opening the way to studying the mazar documents.

The "Mazar Documents Research Project" incorporates results of all above mentioned research activities. It is coordinated by Sugawara Jun (IAGC Research fellow, ILCAA), one of the editors of this compilation acting as the project leader. The participants include the following research members: Kawahara Yayoi (JSPS Research fellow) – another editor of this compilation, Sawada Minoru (Professor, University of Toyama), Shinmen Yasushi (Professor, Chuo University), Sugahara Mutsumi (Associate Professor, Tokyo University of Foreign Studies), Ashirbek Muminov (Vice-President, Institute of Oriental Studies of the Ministry of Science and Education, Kazakhstan), Nadirbek Abdulhatov (Curator, Ferghana Regional Museum), Abliz Orkhun (Research fellow, Committee of Local Records Work, Xinjiang Uyghur Autonomous Region), Arslan Abdulla (Professor, Xinjiang University), Rahile Dawut (Professor, Xinjiang University), Asad Sulayman (Professor, Xinjiang University); and the following local cooperators: Alisher Tashkulov (Vice Editor-in-Chief, "The Fergana Culture Newspaper"), Ismailkhan Mahmudov (Imam, Mosque in the village of Katta Kanagas, Uchkoplik district, Uzbekistan), Zohra Talip (Director, Office for Minority Languages, Scripts and Antiquarian books, Qumul District, Xinjiang). This project has been included in the Toyota Foundation's 2005 Research Grant Program (Preservation, Compilation, and Annotation of Indigenous Documents in Peripheral Regions of Asia (Special Subject)) under the title "Preservation, Compilation, and Annotation of Mazar Documents in Xinjiang and Ferghana". In advance of this publication, preliminary research results have been presented at an international conference "Mazars in Ferghana and Xinjiang" (held November 26-27, 2005 at the Ogura Building, Suidobashi, Tokyo), which became the first such event organized within the project framework; the conference was partially funded by the Toyota Foundation.

Islamic Historical Sites mainly in the Western Tarim Basin" *Annual Report, Department of Human and Cultural Studies*, (Tezukayama-Gakuin University, Osaka), vol.1(1999), pp.49-70, in Japanese.

⁴ Sawada Minoru, "Mausoleums in the Southern Periphery of the Taklamakan Desert" *Annual Report, Department of Human and Cultural Studies* (Tezukayama-Gakuin University, Osaka), vol.2(2000), pp.160-182, in Japanese; Sugawara Jun "Khotan, a Land of Matyr" *Tsushin* (ILCAA), no.101(2001), pp.10-17, in Japanese.

⁵ Sawada Minoru (ed.) *Islamic Sacred Places in Central Asia: The Ferghana Valley and Kashghar Region* (Silk Roadology 28, Bulletin of the Research Center for Silk Roadology), Nara: Research Center for Silk Roadology, The Nara International Foundation, 2007, in Japanese (forthcoming).

5. About this publication and the presented documents

This publication, being the core achievement of the research efforts under the "Mazar Documents Research Project", constitutes the first attempt of compilation and annotation of the mazar documents. The project's mission is to discover through conducting on-site researches the mazar documents, which are currently in imminent peril of being lost, and publish them, thereby assuring their preservation and durability, in facsimile form. Therefore, the researchers participating in the project are committed to releasing in such reproduced form as many documents as possible. All the mazar documents included in the current compilation have been discovered by the editors during fieldwork. The details on each document are provided in the annotation to the corresponding section.

Documents discovered in Xinjiang

SUGAWARA Jun

The current compilation includes the following 2 groups of documents discovered in the Xinjiang region: (1) Āzizim Aghichām mazar documents from Qumul city (4 items: EA01-04) and (2) a guide to the Qumul mazar (1 item/19 leaves: QM01). The numbers given in brackets above are the reference numbers of the related documents provided here for convenience of use.

These texts as well as the reproduced copies of the sources are part of newly discovered historical materials that provide comprehensive information on the Qumul mazars, which have been studied rather scarcely. These documents were first discovered and, with the consent of the respective owners, photographed by the author (Sugawara) in 2003, during his fieldwork in Qumul district, Xinjiang under GIGAS Research Special Promotion Project of the Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa; the further study of the documents, related interviewing and on-site mazar research work as well as other fieldwork were carried out under the "Mazar Documents Research Project" sponsored by the Toyota Foundation.

1. Āzizim Aghichām mazar documents in Qumul city (4 items: EA01-04)

The Āzizim Aghichām mazar is located in Āzizim mähällisi of Shähär äträpi yeza, outside the Muslim City (*Hui cheng*) of Qumul. The mazar is believed to be a burial place of an Arabian female saint, Bibi Rabiya Ādwiya Wäliyullah; women traditionally come to worship at the mazar the night before the Qurban festival¹.

Rabi'a Adwiya (d. 801) is said to be the most popular saint even among other numerous female Sufis in history²; moreover, she is the only female saint to appear in the famous hagiography by Attar (Farid al-Din Muḥammad 'Aṭṭār, "*Legend of Saints (Tadhkirat al-awliyā)*") widely known in Central Asia³. However, this prominent saint is reported to die in 801 A.D. in Basra⁴ and is believed to be buried there as well; therefore, it is hardly likely that the mazar at Qumul could be her burial place. Cases when mazars receive names of originally unrelated to the mazar but famous saints are quite common in both Xinjiang and Ferghana; this mazar as well might have been originally devoted to a different female saint, but in the course of long history was finally bestowed the name of a more famous one.

The 4 items presented here are the pedigree of the shaykhs who acted as custodians of the mazar and 2 contractual documents related to the mazar. As of 2002, the owner of the documents, Mr. Yusupjan Qasimshah (d. 2003), was shaykh of this mazar. The fact that the documents mention Yusupjan Shaykh's father and grandfather's names reveals that the documents relate to the family lineage of shaykhs. This genealogical record is a valuable historical source demonstrating the historical continuation of the mazar that has been retaining its religious authority in the local society of Qumul over generations. The contractual documents draw scholars'

¹ Ayshām Ähmät, *Qumul. Ürümchi: Shinjang Khalq Nashriyati*, 1993, pp. 244-245

² Trimmingham, J.S., *The Sufi Orders in Islam*. New York & Oxford: Oxford University Press, 1998, p. 18.

³ Farid al-Din Muḥammad 'Aṭṭār, *Tadhkirat al-awliyā*, a translation in Japanese by. Fuji'i Mori'o, Tokyo: Kokusho-Kankokai, 1998, pp. 49-84. Moreover, there exists a privately held manuscript that is reported to be the hagiography related to the Āzizim Aghichām mazar in Qumul. Having an opportunity to examine the manuscript, the author has confirmed that it matches or closely resembles in content the corresponding parts of the *Legend of Saints*.

⁴ Smith, Margaret, *Rābi'a Basri: The Mystic and Her Fellow-Saints in Islam*. New Delhi: Kitab Bhavan, 2005, p. 45.

attention as a valuable historical resource on socio-economic situation related to the mazar at the beginning of 20th century.

EA01: Genealogical Chart (Date unknown) 44cm × 47cm.

This genealogical record contains in total 60 names through 8 generations beginning with Qul 'Alī Shāh Shaykh. The names of the father, Qasim Shah, and the grand-father, Niyāz Shāh Shaykh, of the owner of the document, Yusupjan Shaykh, appear respectively in the 8th and 7th generation of the lineage.

EA02: Genealogical Chart (Date unknown) 11cm × 23cm.

This genealogical record contains names of Qul 'Alī Shāh Shaykh and his children—8 names in total. The personal names do not coincide with any mentioned in EA03.

EA03: Document verifying donation of real property (Day of Du'ā ay 7, Month of Hazuna, A.H.1318 / October 31, 1900) 31cm × 21.5cm.

This document states that the compiler of the document, named Qārnī Chong Ilyās, promises to donate (*bakhshande*) sowing land, 4 du in total area, which he owns and which is located along the Inchike ariq, to Shamshiyē Tarkan. The document bears 3 seals.

EA04: Document verifying purchase of real property (Day 12 of the Month of Ramadan, A.H. 1343 / April 6, 1925). 36cm × 30cm.

This document states that the compiler of the document, Tūlak Shākir, promises to sell the sowing land, 2 du in total area, which he owns and which is located along the Inchike ariq, to Niyāz Shāh Shaykh at the price of 50 sar. The document bears 2 seals. It must be noted that the stated recipient of this document, Niyāz Shāh Shaykh, is the grandfather of the document owner, Yusupjan Shaykh.

(2) Guide to the Qumul mazar (1 item/17 folios: QM01) 16.5cm × 11cm.

This prosaic historical document is comprised of 17 leaves; it begins with the following sentence: “The holy names of all buzurgwar-khojam in the city of Qumul and its (Qumul's) environs are as follows (*Qumul shahr ichidaki wa tābe'laridaki bārlīq buzurugwār-khōjamlarning isim-i sharīflari bu turur*)” First half of the overall volume, 8 leaves in total, introduces names and locations of 35 mazars in the Qumul area, and a number of legends relating to them; the rest of the document is devoted to explaining of the necessity of pilgrimage to mazars, its ways and rules, introducing the āyat (sacred verses of Qur'ān) that should be recited at the mazar, and praising of prominent sufi from Central Asia up to Afaqiyya Khojas⁵.

Concerning the dating of the document, judging from the fact that on the back of the 4th leaf it mentions reinterment at the Qeys Khojam Mazar from Xingxingxia—an event that took place in 1945—it is unmistakably a comparatively recent one⁶. However, except for the locally published materials, this work doesn't have neither an example nor an analogy in respect to the provided detailed information on the Qumul mazars, which make it a highly valuable resource for studying the Qumul mazars.

⁵ Many of the mazars mentioned here have been confirmed extant during the on-site researches sponsored by the Toyota Foundation (conducted in March 2005 and August 2006) to be in existence, which proves the high level of accuracy of the information provided by the document.

⁶ On the reinterment at the Qeys Khojam Mazar that took place on July 4, 1945, see: 哈密地区地方志编纂委员会编《哈密地区志》(乌鲁木齐:新疆大学出版社, 1997), p. 1306.

Documents discovered in Ferghana Valley

KAWAHARA Yayoi

This summary provides an overview of 7 documents that have been discovered and photographed by the author in the Ferghana valley. 4 of these 7 items are related to the Mazar of Qutayba ibn Muslim and 3—to the Mazar of Qarayazi Baba. This group of documents was discovered during a research of the mazars in the Ferghana valley held in 2004 under the project “A Study of Islamic Sacred Places in Central Asia: With a Focus on the Ferghana Valley” funded by the Research Center for Silk Roadology at the Nara International Foundation Commemorating the Silk Road Exposition; the subsequent study and annotation of the documents was conducted under the research project “Preservation, Compilation, and Annotation of Mazar Documents in Ferghana and Xinjiang” funded by the Toyota Foundation Research Grant Program.

1. Documents related to the Mazar of Qutayba ibn Muslim¹

A. The Mazar of Qutayba ibn Muslim

Location: Republic of Uzbekistan, Andijan province, Jala quduq district, Sopi village, The Kulich (old name Gulunch) Cemetery

Origins and Historical Background: This mazar is believed to be the grave of Qutayba ibn Muslim, a commander of the Arab army that conquered Central Asia in the early eighth century, and his three sons. In this land, Qutayba married Sultan Ena, a daughter of the king Gulunch/Kulich of the local infidels (the people reported as “Khitay”, according to the informant), and had 3 sons with her. He continued to live there for seven years until he met his death from the hands of his own soldiers.²

Current Condition and Surroundings: With the mausoleum of Qutayba ibn Muslim in the center, there are graves of his three sons, graves of two Muslim saints and a tree with the springing water believed to be

¹ The author has already reported on the Mazar of Qutayba ibn Muslim and the collected documents, see: Kawahara Y., *Tazkira of Qutayba ibn Muslim and his Mazar in the Ferghana Valley*, International Conference “Mazars” in Ferghana and Xinjiang, November 26-27 2005, Conference room, 4th floor Ogura building, Suidobashi, Tokyo; Kawahara Y., *The Mazar of Qutayba ibn Muslim: A Study of the Oral Tradition and Historical Documents*, Sawada Minoru (ed.) *Islamic Sacred Places in Central Asia: The Ferghana Valley and Kashghar Region* (Silk Roadology 28, Bulletin of the Research Center for Silk Roadology), Nara: Research Center for Silk Roadology, The Nara International Foundation, 2007, pp.49-65, (in Japanese, forthcoming).

² The informant: Mr. Abdulhamid Makhsom Hajji Sirajiddinov (born 1922, currently resides in the same village).

sacred. In the area surrounding Mazar, there live approximately 30 families of "Khoja" who claim to be the descendants of Qutayba. In the vicinity there are also situated other numerous cemeteries, such as: Khoja Mazar, Qirghiz Mazar, Uzbek Mazar, Kashgar Mazars, Qaraqalpak Mazar, Munduz Mazar, etc.

On the other hand, in the adjacent villages there are many mazars that are believed to be related to Qutayba. First of all, there is the Shahid Mazar (also known as Gulunch Mazar or Mazar Buva) located in the same village. It is said to be the grave of one of Qutayba's soldiers, his real name unknown. It is also reported that there used to be a fortress standing here. Also, in the Qond village in the same district, there is a mausoleum called Sultan Ena Mazar, believed to be the grave of Qutayba's wife. The legend says that she converted to Islam, and after Qutayba was killed she "discreetly hid herself" among the rocks. In addition, the Chashma Buva Mazar, which is located in the Chashma village in the same district, and Qanbar Ata Mazar, situated in the Yar village in the Khojaabad district, are both believed to be tombs of Qutayba's subordinates who met a martyr's death.

Related Historical Sources: The 10th century historian Narshakhi mentions that "In a place called Rabat-i Sarhang, in the village of "Kākh", there is the tomb of Qutayba ibn Muslim"³. On the other hand, in the early 14th century, Jamal al-din Qarshi in his *Mulhaqāt al-ṣurāḥ* states that the mazar is located in the village of "Kulīch"⁴. V.V. Barthold after close examination of the both above reports pointed out that "Kākh" might also be a scribal error of the word "Kulīch", a simple mistake made by Narshakhi when transcribing the name of the place⁵. There is also a detailed report published by the Soviet ethnographer A.K. Pisarchik after conducting a research of this mazar in 1946⁶.

B. The documents

The owner of the presented documents is Mr. Nasrullakhan Hasanov (born 1938, currently resides in the Akhunbabaev district). Mr. Hasanov's ancestors through generations occupied the position of "shaykh" of the mazar; therefore, the mazar-related documents have been inherited in the family to the present day. According to Mr. Hasanov, his ancestors were shaykhs of the Naqshbandi order. There is high probability that in the past the members of the Naqshbandi order used this mazar as the base of their activities.

³ *Description topographique et historique de Boukhara par Mohammed Nerchakhy suivie de textes relatifs à la Transoxanie*, texte persan publié par Charles Schefer, Reprint of the Edition Paris 1892, Frankfurt am Main, 1993, p.57; The toponym of Rabat-i Sarhang is also encountered in the Babur-Nama. Zahir al-Din Muhammad Babur, *Babur-Nama (Vaqayi')*, ed. by Eiji Mano, Kyoto, 1995, pp. 108, 110.

⁴ Абу-л-Фадл ибн Мухаммад Джамал ад-Дин Карши, *Мулхакат ас-сурах*, (пере. с персидского Р. Ш. Шарафутдиновой), *Материалы по истории Средней и Центральной Азии X-XIX вв.*, Ташкент, 1988, стр. 122.

⁵ Barthold, W.-[Spuler, B.], *Farghāna*, E12.

⁶ Писарчик, А.К., Некоторые данные по исторической топографии городов Ферганы, *Сборник статей посвященных искусству таджикского народа*, Сталинабад, 1956, стр. 171-174.

WT-QM-01: 238.5 cm x 27.5 cm

This scroll consists of the following 2 documents:

- a. Qutayba ibn Muslim's biography; the beginning part is missing.
- b. Genealogy attesting the belonging to the sayyid family; written in the month of Rajab of the year 1271⁷/ March-April, 1855. It contains in total 45 names through 28 generations beginning with the name of Shah Qutayba. There is a seal of Malla Khan (reigned 1858-1862), the ruler of Khoqand khanate, on the right and 38 seals of qadis below the record.

WT-QM-02: 750.4 cm x 31.5 cm

This scroll consists of the following 6 documents:

- a. Qutayba ibn Muslim's biography; the text is identical to WT-QM-01-a.
- b. Genealogy attesting the belonging to the sayyid family; written in the month of the Rabi al-awwal of the year 1274 / October-November, 1857. It contains in total 32 names through 27 generations beginning with the name of Shah Qutayba. The document bears 9 seals.
- c. Fatwa 1. This is a legal opinion suggesting that because the origin of Qutayba's descendants is proved by the genealogical record they should receive tax exemption. The document bears 13 seals.
- d. Fatwa 2 (copy). This is a legal opinion suggesting that the members of the sayyid family should be highly esteemed.
- e. Fatwa 3. This is a legal opinion claiming that Qutayba's descendants who belong to the sayyid family are superior and have excellence over others. The document bears 1 seal.
- f. Fatwa 4. This is a legal opinion confirming that Qutayba's descendants who live at the mazar belong to the sayyid family and that the offerings made at the mazar should not be taken from them. The document bears 7 seals.

WT-QM-03: 587 cm x 26 cm

This scroll consists of the following 4 documents:

- a. Genealogy attesting the belonging to the sayyid family; written in the month of the Jumada al-ula of the year 1312 / October-November, 1894 based on the genealogy written in the month of Rabi al-awwal of the year 1293 / October-November, 1876. It contains in total 10 names of Shah Qutayba's descendants through 4 generations. The document bears 4 seals.
- b. Fatwa 1. The text is identical to WT-QM-02-c. The document bears 9 seals.
- c. Fatwa 2 (copy). The text is identical to WT-QM-02-d.
- d. Fatwa 3. This is a legal opinion suggesting that Qutayba's descendants, namely Sarimsaq Khoja Ishan, Isma'il Khoja Ishan, as well as the descendants of Khal Khoja, Khan Khoja, and Isma'il Khoja—all of them

⁷ There are signs of correction of 1261 to 1271, or vice-versa. Considering the fact that the document also bears qadi seals engraved with 1270 or 1271 year, which is closer to the time of rule of Malla Khan, it is more likely that the year of 1271 is the correct one.

living at the mazar—have the right to receive offerings at the mazar. The document bears 2 seals.

WT-QM-04: 35.6 cm x 21.9 cm

Tax exemption certificate issued by Khudayar Khan, the ruler of the Khoqand khanate (reigned 1845-1858, 1862-1863, 1865-1875) in the month of Ramadan of the year 1283 / January-February 1867 to the custodians of the mazar, namely Isma'il Khoja Ishan, Khan Khoja Ishan, Yunus Khoja Ishan, and Sarimsaq Khoja Ishan.

2. Documents related to the Mazar of Qarayazi Baba

A. The Mazar of Qarayazi Baba

Location: Republic of Uzbekistan, Ferghana province, Uzbekistan district, Beshqapa village

Origins and Historical Background: Qarayazi Baba is believed to be the son of Sayyid Battal Ghazi, whose real name was Asad Allah. Though neither historical resources nor field interviews have revealed detailed information about these two figures, based on the fact that the genealogy presented in document WT-QB-01, which is dated to 1859, mentions a descendant of Qarayazi Baba in the 28th generation, it can be assumed that the person buried in the mazar is considered to have lived in the very early times, just after Islam had made its appearance.

Incidentally, it is interesting to note that the saint with the name of "Sayyid Battal Ghazi" is widely known throughout the vast area extending from Turkey to Central Asia. According to a legend, he inventively managed to snatch half of Constantinople (today's Istanbul) from the Byzantine emperor. In Eskishehir, Turkey, there exists a mazar which is believed to be the burial place of Sayyid Battal Ghazi, and which is said to have continually attracted crowds of pilgrims even as late as the beginning of 20th century⁸. Apparently, this Sayyid Battal Ghazi was believed to be the father of Qarayazi Baba.

Current Condition and Surroundings: In the mazar, there is a box containing a relic called "Muy-i mubarak (sacred beard)" which is believed to be the Prophet Muhammad's beard⁹. The tombstone is of a rather big size, having length of about 9m. There is also a pond on the premises of the mazar. The name of Qarayazi is said to derive from the words "desert of black stones (qara tashli dasht)". Through generations the descendants of Qarayazi Baba acted as shaykhs.

⁸ Снесарев, Г. П., *Хорезмские легенды как источник по истории религиозных культов Средней Азии*, Москва, 1983, стр. 178-180.

⁹ In the Ferghana valley, there are several other places where the Muy-i Mubarak is claimed to be stored. For example, there can be noted the Muy-i Mubarak mazar in the village of Avchi, Uzbekistan district, the Province of Ferghana, and the mazar with the same name on the territory of Hasti Ma'az mazar in Khoja Magiz Mahalla, Marghilans.

In addition, in the adjacent villages within the same district, there are several mazars believed to be those of the brothers of Qarayazi Baba: the Aq("white")yazi Buva Mazar in the village of Aqyaz; the Sari("yellow")yazi Buva Mazar in the village of Dasht Mahalla; and the Peshtaq¹⁰ Buva Mazar on the Ishan Buva Cemetery in the village of Dasht. All the three mazars are believed to be the burial places of the sons of Sayyid Battal Ghazi, or the brothers of Qarayazi Baba.

Related Historical Sources: According to several historical sources, this is the place where Ataliq bek, the son of Alim Khan who was the ruler of Khoqand khanate (reigned 1799-1810), was killed during the coup in 1843¹¹.

B. The documents

The originals of the three items presented here are owned by Ms. Khalimakhan Ma'rufkhojaeva, who is a descendant of the shaykhs of this mazar on her mother's side. Ms. Ma'rufkhojaeva received these documents from her mother; who, in her turn, is said to have inherited them from her father. At the same time, on her father's side, Ms. Ma'rufkhojaeva descends from Lutf Allah Chusti (died 1571), a prominent leader of the Naqshbandi order of the 16th century. Based on this fact of kinship between the two lines, it is quite possible that shaykhs of the Qarayazi Baba Mazar had close connections with shaykhs of the Chusti lineage, though there is still no persuasive evidence to back up this assumption.

WT-QB-01: 49.5 cm x 31.5 cm

This genealogy written in the Month of Jumada al-akhira of the year 1275 / January-February, 1859 attests that Muhammad Amin Khan and Daniyal Khan, who are descendants of Asad Allah (Qarayazi Ata), belong to the sayyid family. It contains in total 42 names of Asad Allah's descendants through 28 generations. The document bears 32 seals.

WT-QB-02: 34.5 cm x 43.5 cm

Fatwa . This legal opinion suggests that, being descendants of Asad Allah Khan (Qarayazi Ata), Asamat Allah Khoja, Haydarali Khoja, Ghazi Khoja, Ata Khoja, Hamza Khoja, Sayyid Khoja, Wali Khoja, Baba Khoja, Sharafat Banu, and Abd Allah Khoja are entitled to receive offerings made at the mazar.

There is no date on the document. While it bears the same seal as found on document WT-QB-01, some other seals on the document suggest dating it to 1289, 1290, 1293, or 1294 (which accordingly correspond to the

¹⁰ The word "peshtaq" conventionally means the upper decorated part of a building entrance. The origin of the mazar's name is not clear.

¹¹ Mirzā 'Ālim Mushrif, *Ansāb al-salāfin wa tavārikh al-khavāqin*, Institute of Oriental Studies of the Academy of Science of the Republic of Uzbekistan, Inv.No. 1314, l. 61b; 'Awaz Muḥammad, *Tuhfat al-tavārikh-i khānī*, St.Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies of Russian Academy of Sciences, Inv.No. S440, l. 248b.

years between 1874 and 1878 in Western tradition). Therefore, it can be presumed that this fatwa was written about 15 years later than document WT-QB-01, after the region was occupied by the Russian Empire. Moreover, none of the names mentioned in the fatwa coincide with the names contained in WT-QB-01; and though it is possible that some of the names appearing in the fatwa belong to the offsprings of the descendants mentioned in WT-QB-01, even then it is not clear which of them are the related ones. The document bears 28 seals.

WT-QB-03: 181 cm x 16 cm

The date is unknown. This document presents a list of names by tribe. From the fact that this manuscript has been held by the mazar's shaykhs together with other related documents, it can be assumed that this document presents a list of disciples which was used by religious leaders of the Sufi order for collecting offerings. According to O.A. Sukhareva, every year in autumn, after the harvest was over, the order leaders went round the villages where their disciples lived bringing back offerings in crops, fruits, cattle and livestock; in fact, such offerings constituted the main source of their income. For this purpose they compiled name lists (*daftar*); such process of collecting offerings was known as "hunting"¹². Apparently, the document in question presents one of such name lists.

The tribe names mentioned in the document and the number of listed names for each tribe are given below. However, it must be noticed that the correct reading of many names as well as their hierarchial relationship could not be clarified. The document provides the following data: Yusuf Ali's Tartughli Jalayir—72 names; Qudish Alchin—36; Fanjighali Alchin—35; Yalang As—77; Fanjighali Ming—13; Qangli Qayushqanli—20; Jamki Durman-Qosh Tamghali—11; Aytu-Qoshtamghali—32; Aytu-Jublachi—20; Jublachi—16; Balgali Jalayir who fought against Shadman—22 names.

In reference to the names for Qudish Alchin and Fanjighali Alchin, this list contains the following note: "disciples of Ishan Kuchak Khan Khoja ibn Niyaz Khan Khoja". The name of Ishan Kuchak Khan Khoja also appears in the genealogical record of WT-QB-01, but as the genealogy states his father as a certain Aziz Khan, it may be assumed that these two are different persons. On the other hand the genealogy of WT-QB-01 also mentions the names of Niyaz Khan Khoja and of his son, Nawruz Khan; however, it is possible that Niyaz Khan Khoja had yet another son, named Kuchak Khan as well. In any case, it can be concluded with high probability that religious leaders of the Sufi order whose activities were concentrated around the Qarayazi Baba Mazar and who claimed to be descendants of Kuchak Khan, thus tracing their lineage back to Qarayazi Baba, had many followers among the local tribes.

¹² Сухарева, О. А., *Ислам в Узбекистане*, Ташкент, 1960, стр. 64.

Мозор ҳужжатлари тадқиқотига кириш

СУТАВАРА Жун

1. Мозор ҳужжатлари

Мозор (исломнинг мукаддас жойлари) ислом валийларининг эътиқоди нишон қилинган исломий эътиқод ва касал даволаш, бола тилаш қаторлик реал манфаатни асос қилган оммавий эътиқодни ўзида ифода этган зиёратгоҳлар бўлиб, узок тарихий жараёнларда маънавий озуқа вазифасини бажариб келган. Шунинг билан бирга мозорлар йирик-яқиндан зиёрат қилиш учун келган кам аъзоли жамоа билан кенг доирадаги жамоа гуруҳини учрашиш ҳамда маданият алмаштириш нуктаси бўлиб, жамиятда жуда муҳим рол ўйнаб келган.

Ушбу китобда тузувчилар томонидан ишлатилган “мозор ҳужжатлари” деган бу атама кишилар авлоддан авлодга сақлаб келган мозорнинг келиб чиқиш тарихи, мозорларнинг муҳофаза этилиш аҳволи, бошқарилиши, диний маросимларнинг ўтказилиши муносабатлик ҳужжатларни кўрсатадиган атамидир. Мозорлар жамиятда алоҳида рол ўйнаб келганлиги учун бу ҳужжатлар шу мозорларга бевосита алоқадор кишиларнинг қўлида то ҳозиргача сақланиб келган. Ҳужжатларнинг сони, сақланиш аҳволи, мазмунлари ҳам ҳар қайси жойларда ўхшамайди. Айниқса ушбу китобда таништирилмоқчи бўлган Синьцзян ва Фарғонада топилган ҳужжатлар ўртасидаги фарқ жуда катта. Мозор ҳужжатлари мозорларни сақлаб келган шайхларнинг ҳақиқийлигини (мозорларда ётган валийларнинг бевосита қариндоши ёки муридлари) исботлайдиган ҳужжатлар; мозор қурилиши, қўлаи ҳақида маълумот берилган ҳужжатлар; мозор вақфига оид ёки мозорнинг келиб чиқиш тарихига доир маълумотларни ўз ичига олади. Бу ҳужжатларнинг баъзиларининг XVII-XVIII асрларда ёзилганлигини ҳисобга олмаганда, қолганларнинг аксарияти XIX-XX асрларда ёзилган.

Ҳужжатлар ҳар қайси даврларда форсий ва туркий тилларда ёзилган бўлсада, лекин баъзида арабча жумлалар аралаш ҳужжатлар ҳам учрайди. Кейинги даврларда русча ва хитойча ёзилган ҳужжатлар ҳам учрайди.

Мозор ҳужжатларининг мазмунидан қараганда ҳужжатларнинг турлари куйидагича:

(1) Насабнома, шажара ёки “жўрунқай”

Хужжатлар орасида Муҳаммад пайгамбар билан хужжатнинг эгаси ўртасидаги кариндошлик муносабатни билдирадиган насабномалар бор. Гарчи мазорларда ётган бир қисм валийлар ислониятдан илгариги кишилар бўлсада, аммо уларнинг насаби Муҳаммад пайгамбарга боғлаб қўйилган насабномалар ҳам бор.

Насабномалар шакл жиҳатда дарахт шаклида шохлатиб ва илдиз тортигилиб баён қилиш усули ва оддий баён қилиш усулидан иборат икки хил шаклга эга. Насабномалар асосан ўрама шаклда бўлиб, баъзиларининг узунлиги 10 метрдан ошади.

(2) Тазкиралар

Дафн қилинган валийларнинг ўзи ва уларнинг ота-боболарига оид афсона-ривоятларни ўз ичига олади. Тазкираларда мазорда ётган асослик шахснинг кароматлари, диний фаолиятлари атрофлича таништирилади, тазкираларнинг яна мазорни сакловчи шахслар ва уларнинг авлодларининг жамиятдаги диний имтиёзини юқори кўтариш вазифаси бор¹.

(3) Шайхликга тайинланганлик хатлари

Фарғона шайхларининг кўпинчаси шу даврдаги ҳокимиятлар томонидан белгиланган.

(4) Алоҳида имтиёз берилганлик хатлари

Бу хатлар Фарғонадаги валий авлодларига шу чоғдаги ҳокимиятлар тарафдан берилган бождан кечирим қилинганлик сингари алоҳида имтиёзлар берилган хатларни ўз ичига олади. Юқоридаги 3-тур ва мана шу 4-турдан мазорларнинг жамиятдаги сиёсий ўрнини аниқласа бўлади.

(5) Вақфномалар

Вақфномалар мазор ва мазорга қарашли масжид, мадрасаларга қилинган вақфларга оид гувоҳлик хатларини ўз ичига олади. Булар ерлик халқ билан мазор ўртасидаги иктисодий муносабатлар ва бошқа аниқ муносабатларни тушунишдаги муҳим материал ҳисобланади.

(6) Арз даъво-дастур ҳужжатлари

Булар шайх тайинлаш масаласига оид арз, фатво, ҳукмларни ўз ичига олган ҳужжатлар бўлиб, мазорнинг жамиятга келтирадиган фойида-зиёнини тафсиллий билишдаги муҳим материал.

Юқоридагилардан бошқа мазор атрофидаги мазорларга яқин алоқада бўлган тўхтама хатлари, ер сотиш, сотиб олиш, ижара хати, ўтиниб бериш хати, мерос, вакиллик хати кабиларни ҳам кенг маънодан айтганда мазор ҳужжатлари деб ҳисоблашга бўлади. Бу ҳужжатлар мазорларнинг шу жамиятдаги моддий ва маънавий вазифасини юқори кўтаришда муҳим рол ўйнайдиган жонли материал ҳисобланади. Бу хил ҳужжатлар ҳозирги реал аҳамиятидан илмий жиҳатдан айтганда яна мазорларнинг келиб чиқиш тарихи, жамиятда ўйнаб келган роли каби қатор маълумотларни ўз ичига олади.

¹ Мазорнинг жамиятда ўйнаган роли ҳақида қаранг: Шинмен Ясуши, Санада Ясуши, Ванг Жяншин (туз.), *Синьцзян уйғурларининг бозор ва мазорлари*, Ислон маданияти мажмуаси 70, Токио чет тиллари университети Осиё-Африка тил-маданияти тадқиқот институти 2002 (япон тилида); Раҳила Довуд, Уйғур мазорлари, *Урумчи: Синьцзян халқ нашриёти*, 2002.

2. Мозор ҳужжатларининг ҳозирги ташвишлик аҳволи

Олай тоғларининг икки томонига жойлашган Синьцзян ва Фарғона ўлкасида мозорлар кўп бўлиб, халқнинг мозорларга чўкиниш одағлари хали ҳам мавжуд. Ҳар икки ўлкадаги мозор ҳужжатлари юқорида айтгандек кишилар тарафидан кадрланиб келгани учун бугунгача сақланиб келган. Бирок бу мозор ҳужжатларининг келгуси истикболидан сўз очиш кийин. XX асрда юз берган икки катта ўзгариш яъни Совет Иттифоқининг парчаланиши билан Ўрта Осиёда мустақил миллий давлатларнинг ташкил топиши; Хитойдаги “маданият зўр инқилоби”нинг охирилашиши билан борликка келган ислохот, эшикни сиртга очиши ҳаракатидан кейин, ҳар икки ўлкадаги анъанавий маданият қайта жонланишга ва икки ўлка ўртасидаги маданият алоқаси аслига келишга юзланмоқда. Бирок, яна бир тарафдан қараганда, юқориги аҳволларнинг даражаси ўхшаш бўлмасда, диндан йироқлашиш аҳволи ниҳоят тез бўлмоқда. Бу хил аҳвол анъанавий ҳужжатларга хатарлик оқибат олиб келмоқда.

Синьцзянда, Хитойнинг яқинги мазгиллардаги давлат плани бўлган “ғарбий районни кенг қўламда очиш” планининг таъсири билан аҳолининг сунъий кўпайиши ҳаддидан зиёда тезлашиб ижтимоий маданиятда моҳиятлик ўзгариш тўлкини пайдо бўлиб, анъанавий уйғур маданияти емирилмоқда десак ҳам ортик кетмайди. Ана шундай аҳволда бу районда кўп учрайдиган диний қурилишларнинг кундан кунга вайрон бўлишга қараб юзланаётганлигини кўришга бўлади. Масалан: яқинги аҳволни жумладан эшикни сиртга очишти, саёҳатчиликни тараққий қилдириш мақсадида мозорларни саёҳат ўрни қилиб бекитиш аҳволини бунга мисол қилиб кўрсатишга бўлади. Мозор қурулиши, халқнинг мозор зиёрат қилиш фаолиятлари ҳозирги саёҳатчиларнинг зиёрат объекти бўлиб қолмоқда. Шунинг билан ерлик жамиятнинг мозорларни анъанавий бошқариш усули ҳукумат тарафнинг бошқариш усулига қараб ўзгармоқда. Ана шундай диндан ётлашиш юзланиши бутун Синьцзянга умумлашмоқда.

Фарғона водийсида бўлса, Совет Иттифоқи парчаланиб беш мустақил давлат ташкил топган ҳозирги шароитда, бутун мамлакат бўйича анъанавий маданият ва тарихни қайта танишнинг муҳимлиги таъкидланаётган бўлсада, лекин тарихий материалларга кўнгил бўлиш тоза яхши эмас. Ана шунга ўхшаш, яқинги замондаги ислом диний эътиқоди қайта жонланиб, мозорларга қизиқиш кун сари ортиб бораётган бўлсада, лекин халқнинг мозор ҳужжатларига нисбатан муносабати жуда фарқли бўлиб, ёшларнинг мозор ҳужжатларига бўлган тушунчаси ниҳоятда паст.

Демак, Синьцзян ва Фарғонадан иборат икки ҳудудда анъанавий маданиятга бири мустақил давлат майдонида туруб муомила қилаётган, Синьцзянда кучлик Хитой маданиятининг сингиб кириши ва оқма аҳолининг тўхтовсиз оқиб кириши билан анъанавий маданият емирилаётган қарма қарши вазиятда ҳам мозор ҳужжатлари янада йўқолиш хавфига дуч келмоқда. Ана шу нуктадан қараганда ҳар икки ўлкада мозор ҳужжатларининг тақдири ўхшаш. Шундай вазиятда мозор ҳужжатларини йиғиб сақлаш икки ўлка анъанавий маданиятини сақлашда муҳим аҳамият касб этади.

3. Мозор ҳужжатларидаги етарсиз морфологиялик маълумот ва озгина йиғинда

Қўлёзма ёки тўхтамнома қаторлик ёзма материаллар илгари Совет Иттифоқи билан Хитойнинг илмий тадқиқот муассасалари тарафидан мунтазам йиғиб олинмиш натижасида ҳар қайси архивхоналарда

маълум микдорда сақланмоқда. Лекин, мазор ҳужжатларига муносабатлик маълумотлар ва жамият ўринларида сақланаётган ҳужжатлар жуда оз. Мазор ҳужжатларининг сақланишига оид маълумот ҳамда мазор ҳужжатларининг мазмунига муносабатлик маълумот характерлик материаллар жуда ҳам оз.

Бунинг сабабига келсак, халққа жиддий кераклик бўлмаган материалларнинг илмий ташкилотлар тарафидан йиғиб олиниб, халқ қадрлаб сақлаб келаётган мазор ҳужжатларининг бу йиғиш режасининг ортида қолганлигидан бўлса керак.

Демак, ҳозир жамиятда сақланаётган мазор ҳужжатлари жамият ўринларида ҳам кўргали бўлмайдиган қимматли материаллардир. Ҳозирги аҳволга қараганда, мазор ҳужжатларига оид хабарларни хотиралаб тадқиқотга фойдаланиш муҳитини яратишнинг ўзи энг охириги фурсат бўлиб қолгусидир.

4. Мазор ҳужжатлари тадқиқот плани

Бу китобнинг тузувчилари бошчилигидаги юқоригидек ўрток тушунчага эга бўлган тадқиқотчилар мазор ҳужжатларига бевосита алоқадор ерлик халқ билан ҳамкорлашиб, мазор ҳужжатлари бор ўринни текшириб тадқиқ қилиш иши бўлган мазор ҳужжатлари тадқиқот режасини қўлга олдик. Бу режа Синьцзян ва Фарғонадан иборат икки ўлкада мазор ҳужжатларнинг сақланиш системасини куруб, шу ҳудудлардаги мазорлар марказ қилинган урф-одатларни сақлаб давомлаштиришга хисса қўшишни мақсад қилади. Яна ҳар икки ўлкадаги мазор ҳужжатларини тадқиқ қилиб, мазорлар марказ қилинган тарихни барпо қилиш ҳамда икки ҳудуд ўрток маданият қатламини ёритишга уриниб кўришдан иборат.

Бу тадқиқот планининг борлиққа келиши, бир қанча тадқиқот группаси ва шахсларнинг ҳозирга қадар мазор ва мазор ҳужжатлари борасида юргизган тадқиқот ва текширишлари ҳамда уларнинг бу ҳақда қўлга киритган натижаларини бу ерда қайд қилиб ўтишга тўғри келади. Тадқиқот группаларининг фаолиятларининг асослик мазмуни қуйидагича:

(1) 1996-йили Хитой Синьцзяннинг Қашгар, Турпон вилоятларида юргизилган мазор текшириши. Шинмен Ясуши, Санада Ясуши, Ванг Жяншин (Япония ижтимоий фанлар академиясининг илмий тадқиқот харажати билан): Ислоҳ дунёсининг бошқа маданиятлар билан учрашиш механизми - Инсониятнинг ҳозирги ҳолати ва унга оид маълумотлар ҳақида умумий тадқиқот. Бошлиғи: Яжима Хикоичи билан биргаликда².

(2) 1988-йили Хитой Синьцзяннинг Қашгар вилоятида олиб борилган мазор текшириши. Савада Минору, Ҳори Сунао (шахсий тадқиқот харажати билан)³.

² Шинмен Ясуши, Санада Ясуши, Ванг Жяншин (туз.): *Синьцзян уйғурларининг бозор ва мазорлари*, Ислоҳ маданияти мажмуаси 70, Токио чет тиллари университети Осиё-Африка тил-маданияти тадқиқот институти, 2002 (япон тилида).

³ Қаранг: Савада Минору, Урдом подшоҳнинг муқаддас доираси, *Ички Осиё тадқиқоти*, 14, 91-109б. (япон тилида); Савада Минору, Торим водиси атрофидаги Ислоҳга оид тарихий ёдгорликларни текшириш доклади, *Тезукаяма гакуин университети инсоният маданияти факультетининг йиллик илмий журнали*, Қўшимча номери, 49-70б. (япон тилида).

(3) 2000-йили Хитойнинг Синьцзян Хутан вилоятида олиб борилган мазор текшириши. Савада Минору, Сугавара Жун (Япония ижтимоий фанлар академиясининг илмий тадқиқот харажати билан); Ўрта Осиёдаги маданият ўртоклиги ва Ислом тарихи ҳақида тадқиқот. Бошлиғи: Шинмен Ясуши.

(4) 2005-йили Хитой Синьцзяннинг Қўмул вилоятида олиб борилган мазор текшириши. Сугавара Жун (Токио чет тиллари университети, Осиё-Африка тил-маданияти тадқиқот институти GICAS қурулишининг харажати билан), Ички Осиёга оид маълумот манбаларини барпо этиш, Бошлиғи: Наками Тацуо⁴.

(5) 2005-йили Ўзбекистоннинг Фарғона водийси ва Хитой Синьцзяннинг Қашғар вилоятида олиб борилган мазор текшириши. Савада Минору, Шинмен Ясуши, Сугавара Жун, Кавахара Яёи, Аширбек Мўминов, Нодирбек Абдулахатов (Нара ипак йўли тадқиқот маркази, Ўрта Осиёдаги Исломга оид муқаддас жойларни тадқиқ қилиш - Фарғона водийси мисолида)лар билан биргаликда⁵.

Айниқса, энг охирида кўрсатилган Нара ипак йўли тадқиқот марказининг ҳомийлиги билан амалга оширилган тадқиқот фаолиятини катнашган аъзоларнинг кўплиги ҳамда текшириш объекти нуктасидан айтганда ҳам мазор ҳужжатлари тадқиқотида аҳамиятли натижалар қўлга киритилган ҳақиқий мазор ҳужжатлари тадқиқоти деб айтиш мумкин.

Бу тадқиқот группаси бу китобнинг тузувчиларидан бири ҳамда мазкур тадқиқот планининг бошлиғи бўлган Сугавара Жун (Токио чет тиллари университети Осиё-Африка тил-маданияти институти); Яна бир тузувчиси Кавахара Яёи (Япония илмий тараққиёт жамияти); Савада Минору (Тояма университети); Шинмен Ясуши (Чуо университети); Сугахара Муцуми (Токио чет тиллари университети); Аширбек Мўминов (Қозогистон шарқшунослик институти); Нодирбек Абдулахатов (Фарғона вилояти ўлкашунослик музейи); Аблиз Ўрхун (Синьцзян Уйғур Афтоном Районлик тазкира комитети); Арслон Абдулло (Синьцзян университети филология институти); Раҳила Довуд (Синьцзян университети филология институти); Асад Сулаймон (Синьцзян университети филология институти); ва ерликдан ҳамкорлашувчи, Алишер Тошқулов (Фарғона вилояти маданият газетаси); Исмоилхон Махмудов (Фарғона вилояти Учкўприк тумани Катта Кенағас масжиди); Зухро Толиб (Қўмул вилоятлик қадимги асарлар, тил-ёзув ишхонаси)лардан таркиб топган. Бу план “Синьцзян ва Фарғонадаги мазор ҳужжатларини текшириш, йиғиш ва тадқиқ қилиш” деган тадқиқот номи билан Тойота фондининг 2005 йиллик алоҳида тадқиқот темаси бўлган “Осиёнинг чегара районларидаги анъанавий ҳужжатларни сақлаш, йиғиш, тадқиқот қилиш” планига олинган. Китобни нашр қилишдан илгари ўтказилган халқора илмий муҳокама йиғини “Синьцзян ва Фарғонадаги мазорлар” (2005 йили Ноябрь ойида Токио Суидобашада ўтказилган) бу тадқиқот группаси ўтказган 1-навбатлик илмий фаолият бўлиб, бу фаолият

⁴ Қаранг: Савада Минору, Таклимоқоннинг жанубий четидаги муқаддас қабригоҳлар, *Тезукаяма гакуин университети инсоният маданияти факултетининг йиллик илмий журнали*, 2, 160-182б; Сугавара Жун, Шаҳидона Хутан, *Токио чет тиллари университети Осиё-Африка тил-маданияти тадқиқот институти хабарлари*, 101, 10-17б. (япон тилида).

⁵ Савада Минору (туз.), *Ўрта Осиёдаги исломга оид муқаддас жойларни тадқиқ қилиш: Фарғона водийси ва Қашғар*, Ипак йўлишунослик тадқиқот тўплами, 28, Нара, Нара ипак йўли кўрғазмасини хотиралаш халқаро алмаштириш фонди, Ипак йўлишунослик тадқиқот маркази, 2007 (япон тилида).

кисман Тойота фондининг хомийлиги билан ўтказилган.

5. Бу китобда таништирилган ҳужжатлар тўғрисида

Мазкур китоб мазор ҳужжатлари тадқиқот планининг асоси бўлган ҳужжат йиғишининг тўғри мевасидир. Келгуси планимизда дала текшириш орқали, йўқолиш олдида турган мазор ҳужжатларини йиғиб, факсимил шаклида нашр қилиб, мазкур ҳужжатларни янада зўр ҳаётини кучга эга қилишни бош вазифа деб қараб, қурбимиз етганича янада кўп ҳужжатларни нашр қилишдир. Бу китобда таништирилган мазор ҳужжатларининг тафсиллий мазмунлари қуйидаги махсус темаларда таништирилади. Буларнинг ҳаммаси тузувчилар тарафидан дала текшириш жараёнида йиғиб олинган.

Синьцзянда топилган ҳужжатлар

СУГАВАРА ЖУН

Биз бу китобда қуйидагидек тўрт турли ҳужжатни таништирамиз. 1. Қумул шаҳри ичидаги Азизим Оғоча мазорига алоқадор ҳужжатлар (4 та: EA01-04); 2. Қумулдаги мазорлар таништирилган асар (19 варак: QM01); кавс ичидаги рақам муаллиф томонидан қўйилган.

1-ва 2-хил материал 2003-йили Сугавара Жун масъуллигида ишланган Токио чет тиллари университети Осиё-Африка тил-маданияти тадқиқот институти GICASнинг плони жараёнида кашф этилиб, материал эгасининг рухсати билан расмга олинган ва кейинчалик Тойота Фондининг ҳомийлиги билан қайтадан текшириши утказилган материаллардир. Бу ҳужжатлар ҳозирга қадар кўп тадқиқ этилмаган. Қумулдаги мазорлар ҳақида анча маълумот берадиган янги материаллар жумласидандир.

1. Қумул шаҳри ичидаги Азизим Оғоча мазорига алоқадор ҳужжатлар (4 та: EA01-04)

Азизим Оғоча мазори Қумул эски шаҳрининг шаҳар атрофи қишлоғига қарашли Азизим маҳалласида жойлашган бўлиб, мазорга Арабистонлик Биби Робия Адавийя номли бир хотун киши дафн қилинган экан. Бу ерга ҳар йили ид қурбон арафаси окшоми аёллар келиб зиёрат қиладиган анъанавий одат бор¹. Робия Адавийя (?-801) тарихдаги аёл сўфилар ичида энг машҳур сўфиларнинг бири ҳисобланади². Ўрта Осиёда тарқалган машҳур асар Фариддин Муҳаммад Атторнинг “Тазкиратул авлиё” номли асарида ҳам бу шахс биттагина аёл сўфи сифатида зикр этилган³. Мазкур донгдор сўфи милодий 801-йили Басрада вафот этган⁴, қабри ҳам шу жойда бўлгани учун Қумулдаги мазорни бу кишининг қабри деб айтиш қийин. Мантқан ҳеч бир боғланиши бўлмаган қабрга машҳур сўфиларнинг номларини бериб улуғлаш аҳволи Ўрта Осиёда кўп учрайдиган бир ҳолдир. Азизим Оғоча мазори ҳам аслида бошқа бир аёл кишининг мазори бўлиб, кейинги узок тарихий тараққиёт жараёнида ўзгариб юқоридаги машҳур аёл сўфининг номи билан аталиб кетган бўлиши ҳам эҳтимолдан йироқ эмас.

Ушбу китобда таништирмакчи бўлган 4 та ҳужжат ушбу мазорга боғлиқ 2 та ер хати билан мазор шайхининг 2 та шажарасидан иборат. Ўша хатларнинг эгаси 2002-йили мазкур мазорнинг шайхи бўлган Юсуфжон Қосимшоҳ (2003-йилда вафот этган) бўлиб, ҳужжатда бу кишининг отаси бобосининг исми билан бирга учрашади. Бунингга бу ҳужжатларни мазкур мазор шайхининг оиласига муносабатли материал деб айтсак бўлади. Ер хатлари XX-аср бошларидаги мазор атрофидаги жамиятнинг маълум

¹ Ойшам Ахмат, *Қумул*. Урумчи: Синьцзян халқ нашриёти, 1993, 244-245б.

² Trimmingham, J.S., *The Sufi Orders in Islam*. New York & Oxford: Oxford University Press, 1998, p.18.

³ Фариддин Муҳаммад Аттор «Тазкиратул авлиё» (Fuji'i Mori'o Японча таржимаси) Токуо: Kokusho Kanko-kai, 1998, pp.49-84. Қумулда ҳали ҳам Азизим Оғочанинг тазкираси деб аталувчи бир қўлёзма сақланмоқда. Биз дала тадқиқот жараёнида бу қўлёзmani кўриш бахтига муяссар бўлдик. Бироқ унинг мазмуни «Тазкиратул авлиё»нинг мазмунига жуда ўхшаб кетади.

⁴ Smith, Margaret, *Rābi'a Basri: The Mystic and Her Fellow-Saints in Islam*, New Delhi: Kitab Bhavan, 2005, p.45.

иктисодий аҳволини тушиниш ҳам Қумулдан топилган ҳужжатларнинг услубини тушинишда ҳам муҳим тадқиқот қимматига эга. Шажараларни мазкур мазор ва мазор шайхларининг Қумулнинг маҳаллий жамиятида анча вақтга қадар муҳим диний рол ўйнаганлигини акс эттирувчи муҳим материал деб ҳисобласа бўлади.

ЕА01 Шажара (битилган вақти номаълум) 44×47см.

Қул Али Шох шайхдан бошланган саккиз авлод шайх(бола-чақалари бўлиб жамъи 60 та киши)нинг шажараси. Ҳужжат эгаси Юсуфжон шайхнинг отаси Қосимшоҳ, бобоси Ниёзшоҳ шайхларнинг исмлари бу шажарада 7-, 8-авлод шайх сифатида тилга олинади.

ЕА02 Шажара (битилган вақти номаълум) 11×23см.

Қул Али Шох шайх ва унинг болалари бўлиб жамъи саккиз шайхнинг шажараси. Киши исмлари ЕА03дагига ўхшамайди.

ЕА03 Ер сотиш ҳужжати (ҳижри 1318-йили ҳамдуна йили дуо ойининг 7-куни / 1900/10/31) 31×21.5см.

Қорни Чўнг Илёснинг ўзининг ингичка ариқ ёқасидаги тўрт чораклик ерини Шамсия Тарканга бахшида қилгани ҳақидаги хат. 3 та муҳр босилган.

ЕА04 Ер сотиш ҳужжати (ҳижри1343-йили рамазон ойининг 12-куни / 1925/04/06) 36×30см.

Тўлак Шоқир ўзининг ингичка ариққа жойлашган икки чораклик ерини Ниёзшоҳ шайхга 50сар пулга сотгани ҳақидаги хат. 2 та муҳр босилган. Ниёзшоҳ шайх эса ҳужжат эгаси Юсуфжон шайхнинг бобоси бўлади.

2. Қумулдаги мазорлар таништирилган асар (17 варақ: QM01)

“Қумул шаҳри ичидаги ва тобиалардаги борлик бузруквор хўжамларнинг исми-шарифлари бу турур” деган жумладан бошланган 17 варақли материал. Бошдаги саккиз варақда Қумул вилоятидаги 35 ўриндан иборат мазорнинг номлари, мазорнинг ўрни, баъзиларининг озгина хикоятлари билан таништирилган. Қолган варақларда мазор зиёратининг зарурлиги, зиёрат қилиш усуллари, ўқиладиган оятлар, Ўрта Осиёда ўтган Офок Хўжага қадар бўлган машҳур сўфиларга ўқилган ҳамду-санолар ёзилган⁵. Асарнинг ёзилган вақти ҳақида 4-бетда Қайс Хўжам қабрининг Шингшингшодан Қумул шаҳрига кўчириб келингани деган маълумот бор, шунга қараганда бу асарнинг 1940-йилдан кейин ёзилганида шубҳа йўқ⁶. Хуллас, бу асарни кўҳна асар деб айтиш тўғри бўлмасда Қумулдаги мазорларга оид бундан яхшироқ бошқа қўлёзма топмаганимиз учун, бу асарни Қумулдаги мазорлар тадқиқотида анча муҳим аҳамият касб этади деб айтсак бўлади.

⁵ Бу асарда таништирилган мазорларнинг қўп қисми Тойота Фондининг хомийлиги билан ўтказилган дала тадқиқотида ҳақиқатан мавжۇтлиги таҳқиқ этилгани учун, бу асардаги маълумотларнинг аниқлик даражасини юқори деб айтишга лойиқ.

⁶ 1945-йил 7-ойнинг 4-кундаги Қайс Хўжам мазорининг кўчириб келиниши ҳақида қаранг: 哈密地区地方志编纂会编《哈密地区志》乌鲁木齐: 新疆大学出版社, 1997, 1306 б.

Фарғона водийсида топилган ҳужжатлар

КАВАХАРА Яёи

Ушбу китобда “Нара ипак йўли тадқиқот маркази”нинг ҳомийлиги туфайли “Ўрта Осиёдаги исломий муқаддас жойларни ўрганиш (Фарғона водийси мисолида)” номидаги илмий лойиҳа бўйича 2004 йилнинг ёз ойларида олиб борилган дала тадқиқотлари натижасида Фарғона водийсида топилиб, суратга туширилган 7 та нодир ҳужжатлар ҳақида маълумотлар келтириб ўтамиз. Мазкур ҳужжатларнинг 4 таси Қутайба ибн Муслим мазорига ва қолган 3 таси Қораёзи бобо мазорига онд ҳужжатлар бўлиб, 2006 йилдаги Тойота фонди томонидан ҳомийлик қилинаётган “Синьцзян ва Фарғонадаги мазор ҳужжатларини топиш, йиғиш ва ўрганиш” мавзудаги лойиҳага асосан нашрга тайёрланди.

1. Қутайба ибн Муслим мазорига топилган ҳужжатлар¹

А. Қутайба ибн Муслим мазори

Манзили: Ўзбекистон Республикаси Андижон вилояти Жалақудук тумани Сўпи кишлоғи Килич (эски номи: Гурунч) қабристонига жойлашган.

Келиб чиқиши: Маҳаллий аҳолининг айтишича, ушбу мазорга VIII асрнинг бошида Ўрта Осиёни босиб олган араб қўшинларининг лашкарбошиси Қутайба ибн Муслим ва унинг 3 ўғли дафн қилинган экан. Қутайба ибн Муслим бу жойда кофирлар (ахборотчининг айтишича “хитой”)нинг подшоҳи бўлмиш Гулунч / Киличнинг кизи Султон Энага уйланиб 3 та ўғил кўрган ва кейинчалик ўз аскарари томонидан ўлдирилгунига қадар 7 йил шу ерда яшаган экан².

Ҳозирги аҳволи: Қабристоннинг ўртасида Қутайба ибн Муслимнинг қабри жойлашган бўлиб, атрофида 3 та ўғли ва 2 та номи номаълум азиз авлиёнинг қабрлари, ҳамда “Муқаддас сув” чиқадиган дарахт бор. Мазорнинг атрофларида Қутайба ибн Муслимнинг авлоди бўлмиш “хўжа”лар яшашади. Мазор яқинида “Хўжам мазори”, “Қирғиз мазори”, “Ўзбек мазори”, “Қашғар мазори”, “Қорақолпоқ мазори” ҳамда “Мундуз мазори” деб аталувчи мазорлар мавжуд.

Шу билан бирга кўшни кишлоқларда Қутайба ибн Муслимга боғлиқ бир неча мазорлар ҳам мавжуд. Мазкур Сўпи кишлоғида “Шаҳид мазори (Гулунчи мазор, Мазор бува)” жойлашган. Мазорнинг тўлиқ

¹ Қутайба ибн Муслим мазори ҳақида илгарин муаллиф томонидан маъруза ўқилган ва мақола тайёрланган. Kawahara Y., *Tazkira of Qutayba ibn Muslim and his Mazar in the Ferghana Valley*, International Conference “Mazars” in Ferghana and Xinjiang, November 26-27 2005, Conference room, 4th floor Ogura building, Suidobashi, Tokyo; Kawahara Y., *The Mazar of Qutayba ibn Muslim: A Study of the Oral Tradition and Historical Documents*, Sawada Minoru (ed.) *Islamic Sacred Places in Central Asia: The Ferghana Valley and Kashghar Region* (Silk Roadology 28, Bulletin of the Research Center for Silk Roadology), Nara: Research Center for Silk Roadology, The Nara International Foundation, 2007, pp.49-65, (in Japanese, forthcoming).

² Информант: Абдулхамид Махсум ҳожи Сирожиддинов (1922 й.т. мазкур кишлоқда яшайди).

исми номаълум бўлсада, аммо у ҳақда маҳаллий аҳоли орасида, Қутайба ибн Муслимнинг қўриқчиси бўлганлиги тўғрисида ривоятлар мавжуд. Бу жойда илгари қалъа мавжуд бўлган. Мазкур тумандаги Қўнд қишлоғида эса, Қутайба ибн Муслимнинг хотини бўлмиш “Султон Эна”нинг мазори мавжуд. Ривоятга кўра Султон Эна мусулмон аёл сифатида Қутайба ибн Муслимга турмушга чиқади. Қутайба ибн Муслим ўлдирилгач душманлари қўлига асир тушмаслик учун қоя орасига гойиб бўлган. Мазкур тумандаги Чашма қишлоғидаги “Чашма бува мазори” ва Хўжаобод тумани Ёр қишлоғидаги “Қамбар ота мазори”ни ҳам маҳаллий аҳоли томонидан шаҳид бўлган Қутайба ибн Муслимнинг аскарлари билан боғлиқ эканлиги ривоят қилинади.

Тарихий манбаларда мазор ҳақида: X асрда яшаб ўтган тарихчи Наршахийнинг “Бухоро тарихи” номли асарида: “Қутайбанинг қабри Фарғонада машҳур бўлиб, у “Работи Саҳанг” деган жойда “Кох” деб аталадиган бир қишлоқда ўрнатилган. Вилоятлардан одамлар зиёрат учун хамиша у ерга бориб турадилар” деган маълумотлар келтирилган³. Шунингдек XIV асрда яшаб ўтган тарихчи Жамол Қарший ўзининг “Мулҳакот ас-сурах” китобида Қутайба ибн Муслимнинг қабри Қилич қишлоғида жойлашганлигини таъкидлаб ўтади⁴. Академик В.В. Бартольд ўз мақоласида мазкур икки тарихчининг ёзган топонимларини қиёслаштириб, Наршахийнинг ёзган “Кох” сўзининг “Қилич” сўзини адашиб кўчирган форма эканлигини тахмин қилади⁵. Этнограф А.К. Писарчик эса, 1946 йили Қутайба ибн Муслимнинг мазорини ўрганиш бўйича илмий тадқиқот ишларини олиб борган⁶.

Б. Ҳужжатлар

Топилган ҳужжатларнинг эгаси Насруллоҳон Ҳасанов (1938 й.т. Охунбобоев шаҳарчасида яшайди) дир. Буларнинг ота-боболари узок йил давомида ушбу мазорда шайхлик қилиб келган бўлиб, мазорга тегишли ҳужжатлар эса авлоддан-авлодга мерос тарзида топширилиб, шу тарзда сақлаб келинган экан. Уларнинг ахборотига кўра аجدодлари Накшбандий тариқатининг шайхларидан бўлишган. Шундай экан бу мазорда аввалги замонда Накшбандия тариқати вакиллари фаолият кўрсатишган деган тахминга келишимиз мумкин.

WT-QM-01: 238.5 x 27.5см.

Қуйидагича 2 та ҳужжатдан иборат ўрама ҳолида сақланган узун ҳужжат.

А. Қутайба ибн Муслимнинг тазкираси. Бош қисми сақланмаган.

Б. 1271йил⁷ Ражаб ойи / 1855 йил Март-Апрел ойларида битилган саййидлар насабномасини

³ *Description topographique et historique de Boukhara par Mohammed Nerchakhy suivie de textes relatifs à la Transoxanie*, texte persan publié par Charles Schefer, Reprint of the Edition Paris 1892, Frankfurt am Main, 1993, p.57; “Работи Саҳанг” топоними “Бобур-нома” китобида ҳам келтирилган, Zahir al-Din Muhammad Babur, *Babur-Nama (Vaqayi)*, ed. by Eiji Mano, Kyoto, 1995, pp. 108, 110.

⁴ Абу-л-Фадл ибн Муҳаммад Джамал ад-Дин Қарши, Мулҳакот ас-сурах, (пере. с персидского Р.Ш. Шарафутдиновой), *Материалы по истории Средней и Центральной Азии X-XIX вв.*, Ташкент, 1988, стр.122.

⁵ Barthold, W.-[Spuler, B.], *Farghāna, EI2*.

⁶ Писарчик, А. К., Некоторые данные по исторической топографии городов Ферганы, *Сборник статей посвященных искусству таджикского народа*, Сталинабад, 1956, стр.171-174.

⁷ Аммо 1261 деб ёзилиб, кейинчалик 1271га ўзгартирилган ёки унинг тескари қилганига ўхшайди. Баъзи қозиларнинг муҳрларида 1270 ва 1271 йиллар санаси кўринганлиги сабабдан ҳамда Маллахон ҳукм сурган йиллари тўфайли 1271 йил ёзилганлигига ишонч ҳосил қилдик.

ифодаловчи шажарада Шоҳ Қутайба ва унинг авлодлари бўлиб, жамъи 28 авлодга мансуб 45 кишининг шажараси келтирилган. Шажаранинг ўнг томонида Қўкон хони Маллахон (1858-1862 й.х.)нинг муҳри, пастги қисмида козиларнинг 38 та муҳрлари босилган.

WT-QM-02: 750.4 x 31.5см.

Қуйидагича 6 та ҳужжатдан иборат ўрама ҳолида сақланган узун ҳужжат.

А. Қутайба ибн Муслимнинг тазкираси. Тўлиқ. WT-QM-01нинг ҳужжат А билан бир хил.

Б. 1274 йил Рабиулаввал ойи / 1857 йил Октябрь-Ноябр ойларида битилган саййидлар насабини ифодаловчи шажарада Шоҳ Қутайба ва унинг авлодларидан жамъи 27 авлодга мансуб 32 кишининг шажараси келтирилган. 9 та муҳр босилган.

В. Фатво 1: Қутайба ибн Муслим авлодларининг саййид-насаб шажараси исботланганлиги учун уларни хирождан озод қилиш ҳақида берилган қарор. 13 та муҳр босилган.

Г. Фатво 2 (нусха): Саййидларни ҳурмат қилиш кераклиги ҳақида берилган қарор.

Д. Фатво 3: Саййид-насаб бўлмиш Қутайба ибн Муслимнинг авлодлари бошқа одамларга нисбатан афзал эканлиги ҳақидаги қарор. 1 та муҳр босилган.

Е. Фатво 4: Мозорда яшовчи Қутайба ибн Муслимнинг авлодлари саййидлар наслидан бўлиб, мозорда қилинган садақатларини улардан олиб қолиш мумкин бўлмаганлиги ҳақида берилган қарор. 7 та муҳр босилган.

WT-QM-03: 587 x 26см.

Қуйидагича 4 та ҳужжатдан иборат ўрама ҳолида сақланган узун ҳужжат.

А. 1293 йил Рабиулаввал ойи / 1876 йил Май-Июн ойларида битилган шажарадан 1312 йил Жумодилаввал ойи / 1894 йил Октябрь-Ноябр ойларида қўчирилган саййид-насаб бўлмиш Қутайба ибн Муслимнинг авлодларидан фақат 4 авлодга мансуб 10 кишининг шажараси. 4 та муҳр босилган.

Б. Фатво 1: WT-QM-02-В билан бир хил. 9 та муҳр босилган.

В. Фатво 2 (нусха): WT-QM-02-Г билан бир хил.

Г. Фатво 3: Мозорда яшовчи Қутайба ибн Муслимнинг авлодлари Саримсоқ Хожа Эшон, Исмоил Хожа Эшон ва Хол Хожа, Хон Хожа ва Исмоил Хожанинг авлодлари мозорда қилинган садақатларни олишга ҳақли эканлиги ҳақидаги қарор. 2 та муҳр босилган.

WT-QM-04: 35.6 x 21.9см.

1283 йил Рамазон ойи / 1867 йил Январ-Феврал ойларида мозор мутаваллийлари яъни Исмоил Хожа Эшон, Хон Хожа Эшон, Юнус Хожа Эшон ва Саримсоқ Хожа Эшонга Қўкон хони Худоёрхон (1845-1858, 1862-1863, 1865-1875 й.х.) томонидан солинадиган божлардан озод қилиш ҳақидаги ёрлик.

Қораёзи бобо мазорида топилган ҳужжатлар

А. Қораёзи бобо мазори

Манзили: Ўзбекистон Республикаси Фарғона вилояти Ўзбекистон тумани Бешкапа қишлоғида жойлашган.

Келиб чиқиши: Қораёзи бобо асл исми Асадулло бўлиб, Саййид Баттол Ғозийнинг ўғли бўлар экан.

Улар ҳақида на тарихий манбалардан ва на дала тадқиқотлардан маълумот ола олмадик. 1859 йилда битилган WT-QB-01да ёзилган шажарада Қораёзи бобонинг 28нчи авлодининг номига ёзилган бўлиб, унга кўра ушбу мазорда дафн этилган шахс исломиятнинг энг илк замонида яшаган бўлиши керак.

Туркиядан то Ўрта Осиёгача Саййид Баттол Ғозий деган бир авлиё машҳур бўлган. Ривоятларга қараганда, у макр ва хийла билан Византия Императоридан Константинополь (ҳозирги Стамбул)нинг ярмини олган экан. Маълумотларга кўра, Саййид Баттол Ғозийнинг қабри Туркиянинг Эскишаҳрида жойлашган бўлиб, ушбу мазорга XX асрнинг бошларида ҳам Ўрта Осиёдан зиёратчилар тўхтовсиз келиб турган⁸. Шуни назарда тутсақ Қораёзи бобонинг отаси бўлмиш Саййид Баттол Ғозий ушбу машҳур шахс сифатида тасаввур этилган бўлиши мумкин.

Ҳозирги аҳволи: Мазорда “Мўй-и муборак” деб аталувчи пайгамбар Муҳаммаднинг сочи солинган кути бор⁹. Қабри эса, жуда катта ва узунлиги тахминан 9 метрча бор. Мазор ичида ховуз мавжуд. Маҳаллий аҳолининг айтишича, “Қораёзи бобо” сўзининг келиб чиқиши “Қора тошли дашт” сўзи билан боғлиқ экан. Мазорда Қораёзи бобонинг авлодлари шайхлик қилиб келганлар.

Мазор атрофидаги қишлоқларда Қораёзи бобонинг биродарлар бўлмиш бир неча мазорлар мавжуд. Мазкур тумандаги Окёзи қишлоғида “Окёзи бува мазори”, Дашт маҳалла қишлоғида “Сарёзи бува мазори”, ҳамда Эшон бува қабристонида “Пешток бува мазори”¹⁰ мавжуд бўлиб, ривоятларга қараганда, уларнинг ҳаммалари Саййид Баттол Ғозийнинг ўғиллари, яъни Қораёзи бобонинг биродарлари бўлганлар.

Тарихий манбаларда мазор ҳақида: Тарихий манбаларга кўра Қўқон хони Олимхон (1799-1810 й.х.)нинг ўғли Оталиқбек 1843 йил Қораёзи бобо мазорида ўлдирилганлиги учун мазор номи ҳам тилга олинган¹¹.

Б. Ҳужжатлар

Буерда таништириётган 3 та ҳужжатнинг эгаси, она томонидан мазордаги шайхларнинг авлоди бўлмиш Халимахон Маъруфхўжаева (1948 й.т., бу қишлоқда яшовчи)дир. Улар бу ҳужжатларни ўз онасидан мерос тарзида олган экан. Онаси эса, ўзининг отасидан олган экан. Уларнинг ахборотларига қараганда бу хонадоннинг аجدолари XVI асрда Накшбандия тарикатининг йирик вакили бўлган Лутфулло Чустий (1571 й.в.)нинг авлоди бўлар экан. Шундай экан Қораёзи бобо мазоридagi шайхлар Чустий шайхлар билан алоқадор бўлган деган тахминга келишимиз мумкин бўлсада, бироқ бу ҳақда ҳозирча аниқ бир нарса айтиш қийин.

⁸ Снесарев, Г.П., *Хорезмские легенды как источник по истории религиозных культов Средней Азии*, Москва, 1983, стр.178-180.

⁹ Фаргона водийсида “Мўй-и муборак” деб аталувчи бир нечата мазор мавжуд. Масалан Фаргона вилояти Ўзбекистон тумани Овчи қишлоғида “Мўй-и муборак” мазор мавжуд. Марғилон шаҳри Хўжа магиз маҳалласида эса, “Ҳасти Маъоз мазори” ичида “Мўй-и муборак” мазор мавжуд.

¹⁰ Бу лақабнинг келиб чиқиши номаълум.

¹¹ Miṣṣā ‘Alim Mushrif, *Ansāb al-salāfin wa tawārīkh al-khawāqin*, Ўзбекистон Республикаси Фанлар Академияси Абу Райхон Беруний номидаги Шарқшунослик институти, инв.№1314, л.616; ‘Awaz Muḥammad, *Tuhfat al-tawārīkh-i khāni*, Россия Федерацияси Фанлар Академияси Шарқшунослик институти Санкт-Петербург бўлими, инв.№С440, л.2486.

WT-QB-01: 49.5 x 31.5см.

1275 йил Жумодилохира ойи / 1859 йил Январ-Феврал ойларида Саййид Баттол Ғозийнинг ўгли Асадулло (лақаблари “Қораёзи бобо”)нинг авлодларидан Муҳаммад Оминхон ва Дониёрхон учун битилиб, исботланган саййид-насаб бўлмиш шажара. Ҳаммаси бўлиб, 28 авлодга мансуб 42 киши ёзилган. 32 та муҳр босилган.

WT-QB-02: 34.5 x 43.5см.

Фатво. Асадулло (лақаблари “Қораёзи бобо”)нинг авлодларидан Асаматулло Хожа, Ҳайдарали Хожа, Ғозий Хожа, Ота Хожа, Ҳамза Хожа, Саййид Хожа, Вали Хожа, Бобо Хожа, Шарофат Бону ва Абдулло Хожаларнинг мазорга келтириладиган садақатларни олишига мумкин эканлиги ҳақида қарор.

Битилган йил ёзилмаган. Босилган муҳрларнинг ичида WT-QB-01даги билан бир хил муҳрлар мавжуд бўлсада, баъзиларда 1289, 1290, 1293 ёки 1294 йиллар (1874-1878 йиллар) ўқилади. Шундай бўлса, WT-QB-01 ёзилгандан тахминан 15 йилдан кейин, яъни Россия Империяси даврида ёзилган бўлса керак. Аммо бу фатвода ёзилган шахслар WT-QB-01да ёзилган шахслар билан тўғри келмайди. Шунинг учун WT-QB-01да ёзилган шахсларнинг қайсидир бир кишининг авлодлари бўлиш мумкин. 28 та муҳр босилган.

WT-QB-03: 181 x 16см.

Битилган йил ёзилмаган. Ҳар қабила бўйича фикристдир. Мозорнинг шайхлари қўлида мазорга алоқадор бошқа ҳужжатлар билан бирга сақланиб келганлигига қараганда, бу фикристни сўфи тариқатининг шайх даромад олиш учун ёзган муридларнинг рўйхати бўлса керак. О.А. Сухареванинг маълумотига кўра, ҳар йил кузда ҳосил йигини тутагандан сўнг эшонлар ўз муридлари яшайдиган қишлоқларга бориб, ҳосил ва меваларни ҳамда жониворларни олиб кетганлар. Ҳатто эшонларнинг бу иш учун тузилган махсус дафтарлари мавжуд бўлиб, эшонларнинг шу ҳаракати “ов” деб аталган¹². Ушбу ҳужжат ҳам ана шу дафтарлардан бири бўлса керак.

Фикрист мазмуни кўйидагидек. Юсуф-Али? (уруғ) Тортуғли-Жалоер (жамоъа) 72 киши, Қудиш-Олчин (жамоъа) 36 киши, Фонжиголи-Олчин (жамоъа) 35 киши, Яланг-Ос (уруғ) 77 киши, Фонжиголи-Минг (жамоъа) 13 киши, Қонгли-Қаюшқонли (жамоъа) 20 киши, Жамки Дурман- Қўш Тамғоли (жамоъа-и уруғ) 11 киши, Ой тув (жамоъа)-Қўш Тамғоли (уруғ) 32 киши, Ой тув-Жублочи (жамоъа) 20 киши, Жублочи (жамоъа) 16 киши ва Шодмон билан урушган Болғоли-Жалоер 22 киши ва Солин-марқа (жамоъа) 15 киши.

Бу фикридаги Қудиш-Олчин ва Фонжиголи-Олчиннинг рўйхатида “Эшон Кучакхон Хожа ибн Ниёзхон Хожанинг муридлари” деб ёзилган. Эшон Кучакхон Хожанинг номи WT-QB-01даги шажарада тилга олинган, аммо унинг отасининг исми Азизхон бўлганлигидан бу бошқа Эшон Кучакхон Хожа эканлиги аниқдир. Ниёзхон Хожанинг исми ҳам WT-QB-01да тилга олинган. Шажарада унинг ўгли Наврўзхон деб ёзилган бўлсада, Наврўзхондан яна бошқа Эшон Кучакхон Хожа номли ўғили бўлган бўлиш мумкин. Нима бўлганда ҳам Қораёзи бобо мазоридида фаолият кўрсатган шайхлар Эшон Кучакхон Хожанинг авлоди бўлиб, сўфилик тариқатининг пири бўлган ўша шайхларнинг мазкур қабилалар ичида кўп муридлари бўлганлиги ушбу ҳужжатларда ўз тасдиғини топган.

¹² Сухарева, О. А., *Ислам в Узбекистане*, Ташкент, 1960, стр.64.

قوش تامغىلىق (جامائەنى نۇرۇق) 11 كىشى، ئاي تۆۋ (جامائەت)-قوش تامغىلىق (نۇرۇق) 32 كىشى، ئاي تۆۋ جۇبلاچى (جامائەت) 20 كىشى، جۇبلاچى (جامائەت) 16 كىشى ۋە شادمان بىلەن نۇرۇشقان بالغالى جالاير 22 كىشى ۋە سالىن مەرقە (جامائەت) 15 كىشى.

تەزىملىكتىكى قۇدىش ئالچىن ۋە پانجىغالى ئالچىنلار «ئىشان كۆچەكخان خوجا ئىبن نىيازخان خوجىنىڭ مۇرىتلىرى» دەپ يېزىلغان. ئىشان كۆچەكخان خوجىنىڭ ئىسمى WT-QB-01دىكى نەسەبنامىدە تىلغا ئېلىنغان. ئەمما ئۇنىڭ دادىسىنىڭ ئىسمى ئەزىزخان بولغاچقا ئۇنىڭ باشقا ئىشان كۆچەكخان ئىكەنلىكى ئېنىق. نىيازخان خوجىنىڭ ئىسمىمۇ WT-QB-01 دە تىلغا ئېلىنغان. نەسەبنامىدە ئۇنىڭ ئوغلى ئەۋرۇزخان خوجا دەپ يېزىلغان بولسىمۇ، ئەۋرۇزخاندىن باشقا يەنە بىر ئىشان كۆچەكخان خوجا ئىسمىلىك ئوغلى بولغان بولۇشى مۇمكىن. ئىشقىلىپ، قارايازى بابا مازىرىدا پائالىيەت قىلغانلار ئىشان كۆچەكخان خوجىنىڭ ئەۋلادلىرى بولۇپ، بۇ ھۆججەت سۈپىتىم تەرىقىتىنىڭ پىرى بولغان شەيخلەرنىڭ مەزكۇر قەبىلىلەر ئىچىدە نۇرغۇن مۇرىتلىرىنىڭ بولغانلىقىنى ئىسپاتلايدۇ.

ۋاپات بولغان) نىڭ ئەۋلادلىرىمىش. مۇشۇ ئۇچۇرغا ئاساسلانغاندا قارايازى بابا مازىرىدىكى شەيخلەرنى شەيخ چۈستىغا ئالاقىدار بولۇشى مۇمكىن دەپ پەرەز قىلىشقا بولسىمۇ لېكىن كېسىپ ئېيتىش تەس.

WT-QB-01: 49.5 x 31.5cm

1275-يىلى جۇمادىيەل ئاخىر ئىبىي يەنى مىلادىيە 1859-يىلى يانۋار-فېۋرال ئايلىرىدا سەيىد بەتتال غازنىڭ ئوغلى ئەسەدۇللا (لەقىمى قارايازى بابا) نىڭ ئەۋلادلىرىدىن مۇھەممەد ئىمىنخان ۋە دانىيارخانلار ئۈچۈن پۈتۈلۈپ، خوجا ئەۋلادى ئىكەنلىكى ئېنىقلانغان نەسەبنامە. بۇنىڭغا جەمئىي 28 ئەۋلاتقا مەنسۇپ 42 كىشىنىڭ ئىسمى يېزىلغان. 32 تال مۆھۈر بېسىلغان.

WT-QB-02: 34.5 x 43.5cm

پەتۋا. سەيىد بەتتال غازنىڭ ئوغلى ئەسەدۇللا (لەقىمى قارايازى بابا) نىڭ ئەۋلادلىرىدىن ئەسمىتۇللا خوجا، ھەيدەرئەلى خوجا، غازى خوجا، ئاتا خوجا، ھەمزە خوجا، سەيىد خوجا، ۋەلى خوجا، بابا خوجا، شاراپەت بانۇ ۋە ئابدۇللا خوجىلارنىڭ كىشىلەر مازارىغا ئېلىپ كەلگەن سەدىقىلەرنى ئېلىشقا ھوقۇقلۇق ئىكەنلىكى ھەققىدىكى پەتۋا.

يېزىلغان ۋاقتى يېزىلمىغان. بېسىلغان مۆھۈرلەرنىڭ ئىچىدە WT-QB-01 بىلەن ئوخشاش مۆھۈرلەر بولسىمۇ، بەزىلىرىدە 1289-، 1290-، 1293- ياكى 1294(1874-1878)-يىلى دېگەندەك يىلنامىلەر بار. شۇنىڭغا قارىغاندا، ھۆججەت WT-QB-01 يېزىلىپ، 15 يىل ئۆتكەندىن كېيىن يەنى روسىيە ئىمپېرىيىسى دەۋرىدە يېزىلغان بولسا كېرەك. ئەمما، بۇ پەتۋادا تىلغا ئېلىنغان شەخسلەر ھۆججەت WT-QB-01 دە يېزىلغان شەخسلەر بىلەن ئوخشىمايدۇ. شۇنىڭ ئۈچۈن ھۆججەت WT-QB-01 دە تىلغا ئېلىنغان شەخسلەر باشقا بىر كىشىنىڭ ئەۋلادلىرى بولۇشى مۇمكىن. 28 تال مۆھۈر بېسىلغان.

WT-QM-03: 181 x 16cm

پۈتۈلگەن ۋاقتى يېزىلمىغان. قەبىلىلەر بويىچە ئايرىلغان مۇندەرىجىدۇر. بۇ ھۆججەت مازار شەيخلىرىنىڭ قولىدا باشقا مازارلارغا ئائىت ھۆججەتلەر بىلەن بىرگە ساقلانغانلىقىغا قارىغاندا، بۇ مۇندەرىجىنى سوپىزىم تەرىقىتىنىڭ شەيخلىرى دارامەت ئېلىشنى نىشان قىلغان مۇرىتلارنىڭ تىزىملىكى بولسا كېرەك. ئا. ئە. سۇخارېۋانىڭ مەلۇماتىغا قارىغاندا، ھەر يىلى ھوسۇل يىغىش پەسلى تۈگىگەندە ئىشانلار ئۆز مۇرىتلىرى ياشايدىغان يېزىلارغا بېرىپ، ھوسۇل ۋە مېۋىلەرنى ھەمدە باشقا جانۋارلارنى ئېلىپ كېتىدىكەن. ئىشانلارنىڭ مۇشۇ ئىش ئۈچۈن تۈزۈلگەن مەخسۇس دەپتەرلىرىمۇ بولۇپ، ئىشانلارنىڭ بۇ ھەرىكىتى «ئوۋ» دەپ ئاتالغان¹². بۇ ھۆججەتمۇ شۇ دەپتەرلەرنىڭ بىرى بولسا كېرەك.

مۇندەرىجە مەزمۇنى تۆۋەندىكىچە: يۈسۈپ ئالى(ئورۇق)؟ تارتۇغلى جالايىر(جامائەت) 72 كىشى، قۇددىش- ئالچىن (جامائەت) 36 كىشى، پانجىغالى- ئالچىن (جامائەت) 35 كىشى، يالاڭ- ئاس (ئورۇق) 77 كىشى، انجىغالى- مىڭ (جامائەت) 13 كىشى، قاڭلى قايشقانلى (جامائەت) 20 كىشى، جەمكى دۈرمەن

¹² Сухарева, О. А., *Ислам в Узбекистане*, Ташкент, 1960, стр.64.

مەشھۇر. رىۋايەتلەرگە قارىغاندا ئۇ ھىيلە بىلەن ۋىزانتىيە ئىمپېراتورىدىن كونستانتىنوپول (ھازىرقى ئىستانبۇل) نىڭ يېرىمىنى ئالغانىكەن. مەلۇماتلارغا قارىغاندا، سەيپىد بەتتال غازنىڭ قەبرىسى تۈركىيىنىڭ ئەسكىشەھەر شەھىرىگە جايلاشقان. بۇ مازارغا 20-ئەسىرنىڭ باشلىرىدىمۇ ئوتتۇرا ئاسىيادىن زىيارەتچىلەر ئۈزۈلمەي كېلىپ تۇرغان⁸. مانا مۇشۇنىڭدىن قارىغاندا، كىشىلەر مۇشۇ قەبرىدە ياتقان شەخسنى قارايازى بابانىڭ دادىسى دەپ ھېسابلانغان سەيپىد بەتتال غازنىڭ ئۆزى دەپ تەسەۋۋۇر قىلغان بولۇشى مۇمكىن.

ھازىرقى ئەھۋالى: مازاردا «مويى مۇبارەك» (تەۋەزرۇك چاچ) دەپ ئاتىلىدىغان مۇھەممەت پەيغەمبەرنىڭ چېچى سېلىنغان قۇتا بار⁹. قەبرە ناھايىتى چوڭ، ئۇزۇنلۇقى تەخمىنەن توققۇز مېتىرچە كېلىدۇ. مازار ئىچىدە ھاۋۇز بار. يەرلىك خەلقنىڭ ئېيتىشىچە، «قارايازى بابا» سۆزى «قارا تاشلىق دەشت» دېگەن مەنىدە ئىكەن. مازارغا قارايازى بابانىڭ ئەۋلادلىرى شەيخلىق قىلىپ كەلگەن.

مازارنىڭ ئەتراپىدىكى يېزىلاردا قارايازى بابانىڭ قېرىنداشلىرى بولغان بىر نەچچە كىشىنىڭ مازىرى بار. مەزكۇر ناھىيىدىكى ئاقيازى يېزىسىدا «ئاقيازى بوۋا مازىرى»، دەشت مەھەللە يېزىسىدا «سارىيازى بوۋا مازىرى» ھەمدە ئىشان بوۋا قەبرىستانلىقىدا «پەشتاق بوۋا مازىرى»¹⁰ مەۋجۇت بولۇپ، رىۋايەتلەرگە قارىغاندا، بۇلارنىڭ ھەممىسى سەيپىد بەتتال غازنىڭ ئوغۇللىرى يەنى قارايازى بابانىڭ قېرىنداشلىرى ئىكەن.

مازارغا ئائىت تارىخىي مەنبەلەر: تارىخىي مەنبەلەرگە قارىغاندا، قوقان خانى ئالمىخان (1799-1810-يىللاردا ھۆكۈم سۈرگەن) ئوغلى ئاتالىقبەك 1843-يىلى مۇشۇ يەردە ئۆلتۈرۈلگەنلىكى ئۈچۈن مازار ناممۇ تىلغا ئېلىنغان¹¹.

ب. ھۆججەتلەر

بۇ يەردە تونۇشتۇرۇۋاتقان ئۈچ پارچە ھۆججەتنىڭ ئىگىسى، ئانا تەرەپتىن مازاردىكى شەيخلەرنىڭ ئەۋلادى بولغان ھەلىمەخان مەرۇپ خوجايېۋا (1948-يىلى تۇغۇلغان، مۇشۇ يېزىدا ياشايدۇ) دۇر. ئۇنىڭغا بۇ ھۆججەتلەر ئۆز ئانىسىدىن مىراس قالغانىكەن. ئانىسىغا بولسا دادىسىدىن قالغانىكەن. بۇ ئائىلىنىڭ ئەجداتلىرى 16-ئەسىردە نەقىشەندىيە تەرىقىتىنىڭ چوڭ شەيخى بولغان لۇتپۇللا چۈستى (1571-يىلى

⁸ Снесарев, Г.П., *Хорезмские легенды как источник по истории религиозных культов Средней Азии*, Москва, 1983, стр.178-180.

⁹ پەرغانە ۋادىسىدا «مويى مۇبارەك» دەپ ئاتىلىدىغان قەبرىدىن بىر نەچچىسى بار. مەسلەن پەرغانە ۋىلايىتى ئۆزبېكىستان ناھىيىسى ئۈچۈ يېزىسىدا «مويى مۇبارەك» مازىرى مەۋجۇت. مەرغلان شەھرى خوجا مەگىز مەھەللىسىدە بولسا «ھەستى مەئاز مازىرى» ئىچىدە «مويى مۇبارەك» مازىرى مەۋجۇت.

¹⁰ بۇ لەقەمنىڭ كېلىپ چىقىشى ئېنىق ئەمەس.

¹¹ Mīrzā 'Ālim Mushrif, *Ansāb al-salātin wa tawārikh al-khawāqin*, Institute of Oriental Studies of the Academy of Science of the Republic of Uzbekistan, Inv.No. 1314, l. 61b; Awaz Muḥammad, *Tuhfat al-tawārikh-i khānī*, St.Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies of Russian Academy of Sciences, Inv.No. S440, l. 248b.

قىلىنغان سەدىقلىرىنى ئۇلاردىن ئېلىۋېلىشقا بولمايدىغانلىقى ھەققىدىكى پەتۋا. 7 تال مۆھۈر بېسىلغان.

WT-QM-03: 587 x 26cm

تۆۋەندىكى تۆت تال ھۆججەتتىن تەركىپ تاپقان يۆگەلمە ھالەتتە ساقلانغان ئۇزۇن ھۆججەت.

a. ھىجرىيە 1293-يىلى رەببىيەل ئەۋۋەل ئېيى يەنى مىلادىيە 1867-يىلى ماي، ئىيۇن ئايلىرىدا تۈزۈلگەن نەسەبنامىدىن ھىجرىيە 1312-يىلى جۇمادىيەل ئەۋۋەل ئېيى يەنى مىلادىيە 1894-يىلى ئۆكتەبىر، نوپابىر ئايلىرىدا كۆچۈرۈلگەن، خوجا ئەۋلادى بولمىش قۈتەيبە ئىبن مۇسلىم ئەۋلاتلىرىدىن تۆت ئەۋلاتقا مەنسۇپ 10 كىشىنىڭ نەسەبنامىسى. تۆت تال مۆھۈر بېسىلغان.

b. پەتۋا 1: WT-QM-02-c بىلەن ئوخشاش. 9 تال مۆھۈر بېسىلغان.

c. پەتۋا 2 (نۇسخا): WT-QM-02-d بىلەن ئوخشاش.

d. پەتۋا 3: مازار ئەتراپىدا ياشغۇچى قۈتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ ئەۋلادلىرى بولغان سارىمىساق خوجا ئىشان، ئىسمائىل خوجا ئىشان، خال خوجا، خان خوجا ۋە ئىسمائىل خوجىنىڭ ئەۋلادلىرى مازارغا قىلىنغان سەدىقلىرىنى ئېلىشقا ھوقۇقلۇق ئىكەنلىكى ھەققىدىكى پەتۋا. 2 تال مۆھۈر بېسىلغان.

WT-QM-04: 35.6 x 21.9cm

ھىجرىيە 1283-يىلى رامزان ئېيى يەنى 1867-يىلى يانۋار-فېۋرال ئايلىرىدا مازاردىكى مۆتىۋەللىلىرى يەنى ئىسمائىل خوجا ئىشان، خان خوجا ئىشان، يۈنۈس خوجا ئىشان ۋە سارىمىساق خوجا ئىشانلارغا قوقان خانى خۇدايارخان (1845-1858، 1862-1863، 1865-1875-يىللاردا ھۆكۈم سۈرگەن) تەرىپىدىن چۈشۈرۈلگەن باجلارنى كەچۈرۈم قىلىش ھەققىدىكى يارلىق.

2. قارايازى بابا مازىرىدە تېپىلغان ھۆججەتلەر

ئا. قارايازى بابا مازىرى

ئورنى: ئۆزبېكىستان جۇمھۇرىيىتى پەرغانە ۋىلايىتى ئۆزبېكىستان ناھىيىسى بەشكەپە يېزىسىغا جايلاشقان.

كېلىپ چىقىشى: قارايازى بابانىڭ ئەسلى ئىسمى ئەسەدۇللا بولۇپ، سەيىد بەتتال غازىنىڭ ئوغلى ئىكەن. بۇ ھەقتە تارىخىي مەنبەلەردىنمۇ، ئەمەلىي تەكشۈرۈش جەريانىدىمۇ ھېچقانداق مەلۇمات ئالالمىدۇق. 1859-يىلى پۈتۈلگەن WT-QB-01 دە يېزىلغان نەسەبنامىدە قارايازى بابانىڭ 28-ئەۋلادى يېزىلغانلىقىغا قارىغاندا، بۇ مازارغا دەپنە قىلىنغان كىشى ئىسلامىيەتنىڭ ئەڭ دەسلەپكى مەزگىلىدە ياشىغان كىشى بولسا كېرەك.

تۈركىيىدىن تاكى ئوتتۇرا ئاسىياغىچە بولغان ئارىلىقتا سەيىد بەتتال غازى دېگەن بىر ئەۋلىيا

ب. ھۆججەتلەر

تېپىلغان ھۆججەتلەرنىڭ ئىگىسى نەسرۇللاخان ھەسەنوف (1938-يىلى تۇغۇلغان، ناخۇنبايىف شەھىرىنىڭ ناھالىسى) تۇر. بۇ كىشىنىڭ ئاتا-بوۋىلىرى ئۇزۇندىن بېرى مۇشۇ مازارغا شەيخلىق قىلىپ كەلگەن بولۇپ، ھۆججەتلەر بولسا ئەۋلادمۇئەۋلاد مىراس سۈپىتىدە تاپشۇرۇلۇپ، قولىدىن قولغا ئۆتۈپ ساقلىنىپ كەلگەن ئىكەن. ئۇلارنىڭ ئۆزلىرىنىڭ مەلۇماتلىرىغا قارىغاندا ئۇلارنىڭ ئەجداتلىرى نەقىشەندىيە تەرىقىتىنىڭ شەيخى بولغان ئىكەن. مانا مۇشۇ مەلۇماتقا ئاساسەن، بۇ مازاردا ئىلگىرىكى زاماندا نەقىشەندىيە تەرىقىتىنىڭ پائالىيەتلىرى بولغان بولۇشى مۇمكىن دەپ پەرەز قىلىشقا بولىدۇ.

WT-QM-01: 238.5 x 27.5cm

تۆۋەندىكى ئىككى پارچە ھۆججەتتىن ئىبارەت ئورالما ھالەتتە ساقلىنغان ئۇزۇن ھۆججەتتۇر.

- a. قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ تەزكىرىسى. باش قىسمى ساقلىنمىغان.
- b. ھىجرىيە 1271-يىلى¹ رەجەب ئىيى (1855-يىلى مارت-ئاپرېل ئايلىرى)دا پۈتۈلگەن خوجىلار نەسەبىنى ئەكس ئەتتۈرىدىغان شەجەرىدە شاھ قۇتەيبە ۋە ئۇنىڭ ئەۋلادلىرى بولۇپ، جەمئىي 28 ئەۋلاتقا مەنسۇپ 45 كىشىنىڭ ئىسمى يېزىلغان. نەسەبنامىنىڭ ئوڭ تەرىپىگە قوقان خانى مەللەخان (1858-1862-يىللاردا ھۆكۈم سۈرگەن) نىڭ مۆھۈرى، ئاستىغا قازىلارنىڭ 38 تال مۆھۈرى بېسىلغان.

WT-QM-02: 750.4 x 31.5cm

تۆۋەندىكى ئالتە تال ھۆججەتتىن تەركىپ تاپقان، ئورالما ھالەتتە ساقلىنغان ئۇزۇن ھۆججەت.

- a. قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ تەزكىرىسى. تولۇق WT-QM-01 ھۆججەت ئا بىلەن ئوخشاش.
- b. ھىجرىيە 1274-يىلى رەبىئەل ئەۋۋەل ئىيى يەنى مىلادىيە 1857-يىلى ئۆكتەبىر، نوپابىر ئايلىرىدا پۈتۈلگەن خوجىلار نەسەبىنى ئەكس ئەتتۈرگۈچى نەسەبنامىدە شاھ قۇتەيبە ۋە ئۇنىڭ ئەۋلادلىرىدىن جەمئىي 27 ئەۋلاتقا مەنسۇپ 32 كىشىنىڭ نەسەبى يېزىلغان. 9 تال مۆھۈر بېسىلغان.
- c. پەتۋا 1: قۇتەيبە ئىبن مۇسلىم ئەۋلادلىرىنىڭ خوجا ئەۋلادى ئىكەنلىكى ئىسپاتلانغانلىقى ئۈچۈن، ئۇلارنىڭ باج-خىراجىدىن ئازات قىلىنغانلىقى ھەققىدە چىقىرىلغان پەتۋا. 13 تال مۆھۈر بېسىلغان.
- d. پەتۋا 2 (نۇسخا): سەيىدىلەرنى ھۈرمەت قىلىش كېرەكلىكى ھەققىدە چىقىرىلغان پەتۋا.
- e. پەتۋا 3: خوجا ئەۋلادى بولمىش قۇتەيبە ئىبن مۇسلىم ئەۋلادلىرىنىڭ باشقا ئادەملەردىن ئۈستۈن تۇرىدىغانلىقى ھەققىدىكى پەتۋا. 1 تال مۆھۈر بېسىلغان.
- f. پەتۋا 4: مازاردا ياشىغۇچى قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ ئەۋلاتلىرى خوجا ئەۋلادى بولغاچقا، مازارغا

¹ دەسلەپتە 1261- دەپ يېزىلىپ، كېيىن 1271-يىلىغا ئۆزگەرتىلگەن ياكى بۇ يىلنامە بۇنىڭ ئەكسچە بولۇشى مۇمكىن. بەزى قازىلارنىڭ مۆھۈرلىرىدە 1270، 1271- دېگەن يىلنامىلەر كۆرۈلگەنلىكى ھەمدە مەللەخان ھۆكۈم سۈرگەن يىللار بولغانلىقى ئۈچۈن 1271-يىلى يېزىلغانلىقىغا ئىشەنچ ھاسىل قىلدۇق.

گۈلۈنچ (كىلىچ) نىڭ قىزى سۇلتان ئاناغا ئۆيلىنىپ، ئۈچ ئوغۇللۇق بولغان ۋە ئۆز ئەسكەرلىرى تەرىپىدىن ئۆلتۈرۈلگىچە يەتتە يىل بۇ يەردە ياشىغان ئىكەن.²

ھازىرقى ئەھۋالى: قەبرىستانلىقنىڭ ئوتتۇرىسىغا قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ قەبرىسى جايلاشقان بولۇپ، ئەتراپىغا ئۈچ ئوغلى ۋە ئىككى نامەلۇم كىشى دەپنە قىلىنغان، قەبرە يېنىدا يەنە «خاسىيەتلىك سۇ» چىقىدىغان دەرەخ بار. مازار ئەتراپىدا قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ ئەۋلادى ھېسابلانغان «خوجا»لار ياشايدۇ. مازارغا يېقىن جايدا «خوجام مازىرى»، «قىرغىز مازىرى»، «ئۆزبېك مازىرى»، «كاشغەر مازىرى»، «قاراقالپاق مازىرى» ھەمدە «مۇندۇز مازىرى» دەپ ئاتىلىدىغان مازارلار بار. قوشنا يېزىلاردىمۇ قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمغا مۇناسىۋەتلىك بىر نەچچە مازار بار. يەنە مۇشۇ سوپى يېزىسىدا «شېھىت مازىرى»(گۈلۈنچى مازار، مازار بوۋا) بار. تولۇق ئىسمى نامەلۇم بولسىمۇ، ئەمما يەرلىك خەلقنىڭ ئېيتىشىچە، ئۇ قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ مۇھاپىزەتچىلىرىنىڭ بىرسىدۇر. بۇ جايدا ئىلگىرى بىر قەلئە بولغان. مەزكۇر ناھىيىنىڭ قۇند يېزىسىدا بولسا، قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ خوتۇنى بولغان «سۇلتان ئىنە»نىڭ مازىرى بار. رىۋايەتلەرگە قارىغاندا، سۇلتان ئانا مۇسۇلمان ئانا سۈپىتىدە قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمغا ياتلىق بولغان. قۇتەيبە ئىبن مۇسلىم ئۆلتۈرۈلگەندە دۈشمەنلەرنىڭ قولغا ئەسىرگە چۈشۈپ قالماستىن ئۈچۈن غار ئىچىگە غايىپ بولغان. بۇ ناھىيىنىڭ چەشمە يېزىسىدىكى «چەشمە بوۋا مازىرى» ۋە خوجاناباد ناھىيىسى يار يېزىسىدىكى «قەمبەر ئانا مازىرى»نى بولسا يەرلىك خەلق قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ شېھىت بولغان ئەسكەرلىرىنىڭ بىرى دەپ قارايدۇ.

مازارغا ئائىت تارىخىي مەنبەلەر: 10-ئەسىردە ياشىغان تارىخچى نەرشەخى ئۆزىنىڭ «بۇخارا تارىخى» ناملىق ئەسىرىدە «قۇتەيبىنىڭ قەبرىسى پەرغانىدە مەشھۇر بولۇپ، كاخ يېزىسىدىكى راباتى سەرھەك دېگەن جايغا ئورۇنلاشقان، ئادەملەر ھەر يەرلەردىن بۇ يەرگە زىيارەتكە كېلىپ تۇرىدۇ» دېگەن مەلۇماتلار بار.³ 14-ئەسىردە ياشىغان جامال قارشىنىڭ «مۇلھاقاتى سۇراھ» ناملىق كىتابىدا بولسا «قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ قەبرىسى كىلىچ يېزىسىغا جايلاشقان» دەپ يېزىلغان.⁴ ۋ. ۋ. بارتولد ئۆز ماقالىسىدا بۇ ئىككى تارىخچى تىلغا ئالغان جاي ناملىرىنى سېلىشتۇرۇپ، نەرشەخى يازغان «كاخ» سۆزىنىڭ «كىلىچ» سۆزىنىڭ خاتا يېزىلىپ قېلىشىدىن ئىبارەت ئىكەنلىكىنى پەرەز قىلىدۇ.⁵ ئېتىنوگراف ئا. ك. پىسارچىك 1946-يىلى قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ مازىرى ھەققىدە ئىلمىي تەتقىقات ئىشلىرىنى ئېلىپ بارغان.⁶

² بۇ ئۈچۈن بەرگۈچى ئابدۇلھەمىد مەخسۇم ھاجى سىراجىددىنوف (1922-يىلى تۇغۇلغان، مۇشۇ يېزىدا ياشايدۇ).

³ *Description topographique et historique de Boukhara par Mohammed Nerchakhy suivie de textes relatifs à la* p.57; *Transoxanie*, texte persan publié par Charles Schefer, Reprint of the Edition Paris 1892, Frankfurt am Main, 1993, راباتى سەرھەك نامى «بابۇرنامە» كىتابىدىمۇ تىلغا ئېلىنغان. Zahir al-Din Muhammad Babur, *Babur-Nama (Vaqayi)*, ed. by Eijzi. Mano, Kyoto, 1995, p.108, 110.

⁴ Абу-л-Фадл ибн Мухаммад Джамал ад-Дин Карши, Мулхакат ас-сурах, (пере. с персидского Р.Ш. Шарафутдиновой) *Материалы по истории Средней и Центральной Азии X-XIX вв.*, Ташкент, 1988, стр.122.

⁵ Barthold, W.-[Spuler, B.], *Farghāna*, *EtZ*.

⁶ Писарчик, А. К., Некоторые данные по исторической топографии городов Ферганы, *Сборник статей посвященных искусству таджикского народа*, Сталинабад, 1956, стр.171-174.

پەرغانە ۋادىسىدا تېپىلغان ھۆججەتلەر

كاۋاخارا يايۇئى

بۇ كىتابتا پەرغانە ۋادىسىدا تېپىلىپ، رەسىمگە ئېلىنغان يەتتە پارچە ھۆججەتنى تونۇشتۇرىمىز. يەتتە پارچە ھۆججەتنىڭ تۆتى قۇتەيبە ئىبن مۇسلىم مازىرىغا، قالغان ئۈچى قارايازى بابا مازىرىغا ئائىت ھۆججەتلەردۇر. بۇ ھۆججەتلەر «نارا يىپەك يولى تەتقىقات مەركىزى» قوللىغان «ئوتتۇرا ئاسىيادىكى ئىسلام دىنىغا ئائىت مۇقەددەس جايلار تەتقىقاتى - پەرغانە ۋادىسىنى مەركەز قىلغان ھالدا» نامىدىكى ئىلمىي تەتقىقات پىلانىغا ئاساسەن 2004-يىلى يازدا ئېلىپ بېرىلغان پەرغانە ۋادىسىدىكى ئەمەلىي تەكشۈرۈش تېپىلغان، ھەمدە تويوتا فوندى ياردەم بەرگەن «شىنجاڭ ۋە پەرغانىدىكى مازار ھۆججەتلىرىنى يىغىش ۋە تەتقىق قىلىش» ناملىق تەتقىقات پىلانىغا ئاساسەن 2006-يىلى ئېلىپ بېرىلغان ئەمەلىي تەكشۈرۈش جەريانىدا يىغىلغان.

1. قۇتەيبە ئىبن مۇسلىم مازىرىدا تېپىلغان ھۆججەتلەر¹

ئا. قۇتەيبە ئىبن مۇسلىم مازىرى

ئورنى: ئۆزبېكىستان جۇمھۇرىيىتى ئەنجان ۋىلايىتىنىڭ جەلە قۇدۇق ناھىيىسى سوپى يېزىسى كىلىچ (كونا نامى: گۈرۈنچ) قەبرىستانلىقىغا جايلاشقان.

كېلىپ چىقىشى: يەرلىك خەلقنىڭ ئېيتىشىغا قارىغاندا، بۇ يەرگە 8-ئەسىرنىڭ باشلىرىدا ئوتتۇرا ئاسىيادىكى بېسۋالغان ئەرەب لەشكەرلىرىنىڭ قوماندانى قۇتەيبە ئىبن مۇسلىم ۋە ئۇنىڭ ئۈچ ئوغلى دەپنە قىلىنغان ئىكەن. قۇتەيبە ئىبن مۇسلىم بۇ جايدا كاپىرلار (رىۋايەت قىلغۇچىنىڭ ئېيتىشىچە "ختاي"لار) نىڭ پادىشاھى

¹ قۇتەيبە ئىبن مۇسلىم مازىرى ھەققىدە ئىلگىرى ئاپتور تەرىپىدىن لېكسىيە ئوقۇلغان ۋە ماقالە تەييارلانغان Kawahara Y., Tazkira of Qutayba ibn Muslim and his Mazar in the Ferghana Valley, International Conference "Mazars" in Ferghana and Xinjiang, November 26-27 2005, Conference room, 4th floor Ogura building, Suidobashi, Tokyo; Kawahara Y., The Mazar of Qutayba ibn Muslim: A Study of the Oral Tradition and Historical Documents, Sawada Minoru (ed.), *Islamic Sacred Places in Central Asia: The Ferghana Valley and Kashghar Region* (Silk Roadology 28, Bulletin of the Research Center for Silk Roadology), Nara: Research Center for Silk Roadology, The Nara International Foundation, 2007, pp. 49-65 (in Japanese, forthcoming).

EA04 يەر سېتىش ھۆججىتى (ھىجرى 1343 - يىل رامازان ئاينىڭ 12 - كۈنى / 6/4/1925) 36cm x 30 cm.

تۆلەك شاكر ئۆزىنىڭ ئىنچىكە ئېرىققا جايلاشقان ئىككى چارەكلىك يېرىنى نىياز شاھ شېيخقا 50 سەر پۇلغا ساتقانلىقى ھەققىدىكى خەت. ئىككى مۆھۈر. نىياز شاھ شېيخ بولسا ھۆججەت ئىگىسى يۈسۈپجان شەيخنىڭ بوۋىسى بولدى.

2. قومۇلدىكى مازارلار تونۇشتۇرۇلغان ئەسەر

(17 ۋاراق: QM01) 16.5cm x 11cm

«قومۇل شەھرى ئىچىدەكى ۋە تايىنەلەردەكى بارلىق بۇزۇقۇر خوجاملارنىڭ ئىسىم شەرىپلەرى بۇ تۇرۇر» دېگەن جۈملىدىن باشلانغان 17 ۋاراقلىق ماتېرىيال. باشتىكى سەككىز ۋاراققا 35 ئورۇندىن ئىبارەت بولغان قومۇل ۋىلايىتىدىكى مازارلارنىڭ ئىسمى، مازارنىڭ ئورنى، ۋە بەزى مازارلارنىڭ ئازغىنە ھېكايىسى تونۇشتۇرۇلغان. قالغان ۋاراقلاردا مازار زىيارىتىنىڭ زورۇرلۇقى ۋە ئۇسۇلى، ئوقۇلىدىغان ئايەتلەر، ئوتتۇرا ئاسىيادا ئۆتكەن ئايپاق خوجىغىچە بولغان مەشھۇر سوپىلارغا ئوقۇلغان ھەمدۇ-سانالار يېزىلغان.

ئەسەرنىڭ يېزىلغان ۋاقتى ھەققىدە، 4-بەتتە قەيس خوجام قەبرىسىنىڭ شىڭشىڭشادىن قومۇل شەھىرىگە كۆچۈرۈپ كېلىنگەنلىكى توغرىسىدا مەلۇمات بار، شۇڭا بۇ ماتېرىيالنىڭ 1940-يىلدىن كېيىن يېزىلغانلىقىدا گۇمان يوق. دېمەك، بۇ ماتېرىيالنى كونا دېڭىلى بولمىسىمۇ، لېكىن قومۇلدىكى مازارلارغا ئائىت بۇنىڭدىن تەپسىلىيەرەك باشقا ئەسەر تېپىلمىغاچقا، بۇ ماتېرىيالنى قومۇلدىكى مازارلار تەتقىقاتى ئۈچۈن بىر قەدەر مۇھىم قىممەتكە ئىگە دەپ قاراشقا بولىدۇ.

⁵ بۇ ئەسەردە تونۇشتۇرۇلغان مازارلارنىڭ كۆپ قىسمى تويوتا فوندىنىڭ ياردىمى بىلەن ئۆتكۈزۈلگەن نەق مەيدان تەكشۈرۈشىدە ھەققەتەن مەۋجۇتلۇقى مۇقىملاشتۇرۇلغاچقا، مۇشۇ ئەسەردىكى مەلۇماتلارنىڭ توغرىلىق دەرىجىسىنى يۇقىرى دەپ قاراشقا بولىدۇ.

⁶ 1945-يىل 7-ئاينىڭ 4-كۈنىدىكى قەيس خوجام مازىرىنىڭ كۆچۈرۈپ كېلىنىشى توغرىسىدا، قومۇل ۋىلايەتلىك تەزكىرە كومىتېتى تۈزگەن: «قومۇل ۋىلايىتى تەزكىرىسى»، ئۈرۈمچى: شىنجاڭ ئۈنۈەر سىتېتى نەشرىياتى، 1997-يىل خەنزۇچە نەشرى، 1306-بەتكە قارال.

ئەۋلىيا» دېگەن ئەسىرىدەمۇ بۇ بىرلا ئايال سوپى شەخس سۈپىتىدە تونۇشتۇرۇلغان³. بۇ داڭلىق سوپى مىلادى 801-يىلى بەسەردە ۋاپات بولغان⁴، قەبرىسىمۇ شۇ جايدا بولغاچقا، قومۇلدىكى مازارنى بۇ كىشىنىڭ قەبرىسى دەپ قاراش تەس. مۇشۇنداق پۈتۈنلەي مۇناسىۋەتسىز قەبرىگە مەشھۇر سوپىلارنىڭ ئىسمىنى قويۇش ئەھۋالى شىنجاڭ ۋە بەرغانەدە كۆپ كۆرۈلىدۇ. ئەزىزىم ئاغىچام مازىرىمۇ ئەسلىدە باشقا ئايال كىشىنىڭ مازىرى بولۇپ، كېيىنكى ئۇزۇن تارىخىي جەرياندا ئۆزگىرىپ يۇقىرىقى مەشھۇر ئايال سوپىنىڭ نامى بىلەن ئاتىلىپ قالغان بولسا كېرەك.

بۇ كىتابتا تونۇشتۇرماقچى بولغان تۆت پارچە ھۆججەت مۇشۇ مازارغا مۇناسىۋەتلىك ئىككى پارچە يەر خېتى بىلەن مازار شەيخىنىڭ ئىككى پارچە نەسەبنامىسىدىن ئىبارەت. مۇشۇ خەتلەرنىڭ ئىگىسى 2002-يىلى مەزكۇر مازارنىڭ شەيخى بولغان يۈسۈپجان قاسىمشاھ(2003-يىلى ۋاپات بولغان) بولۇپ، ھۆججەتتە بۇ كىشىنىڭ دادىسى بوۋىسىنىڭ ئىسمى بىلەن ئۇچرايدۇ. بۇنىڭدىن بۇ ھۆججەتلەرنى مەزكۇر مازار شەيخىنىڭ ئائىلىسىگە مۇناسىۋەتلىك ماتېرىيال دېيىشكە بولىدۇ. يەر خەتلىرى بولسا 20-ئەسىرنىڭ باشلىرىدىكى مەزكۇر مازار ئەتراپىدىكى جەمئىيەتنىڭ مەلۇم ئىقتىسادىي ئەھۋالىنى بىلىش ھەمدە قومۇلدىكى ھۆججەتلەرنىڭ ئۇسلۇبىنى چۈشىنىشتە مۇھىم تەتقىقات قىممىتىگە ئىگە. نەسەبنامىلەرنى مەزكۇر مازار ۋە مازار شەيخلىرىنىڭ قومۇلنىڭ يەرلىك جەمئىيىتىدە خېلى ئۇزۇنغىچە بىر قەدەر مۇھىم دىنىي رول ئوينىغانلىقىنى ئەكس ئەتتۈرۈپ بەرگەن مۇھىم ماتېرىيال دەپ قاراشقا بولىدۇ.

EA01 نەسەبنامە (تۈزۈلگەن ۋاقتى نامەلۇم)، 44 x 47 cm.

قۇل ئەلى شاھ شەيختىن باشلانغان سەككىز ئەۋلاد شەيخىنىڭ (بالا - چاقىسى بولۇپ جەمئىي 60 نەپەر كىشى) نەسەبنامىسى. ھۆججەت ئىگىسى يۈسۈپجان شەيخىنىڭ دادىسى قاسىم شاھ، بوۋىسى نىياز شاھ شەيخلىرىنىڭ ئىسمى بۇ نەسەبنامىدە 8، 7- ئەۋلاد شەيخ سۈپىتىدە يېزىلىدۇ.

EA02 نەسەبنامە (تۈزۈلگەن ۋاقتى نامەلۇم)، 11 x 23 cm.

قۇل ئېلى شاھ شەيخ ۋە ئۇنىڭ بالىلىرى بولۇپ جەمئىي سەككىز شەيخىنىڭ نەسەبنامىسى. ئادەم ئىسىملىرى EA03 تىكىگە ئوخشىمايدۇ.

EA03 يەر سېتىش ھۆججىتى (ھىجرى 1318-يىلى ھەمدۈنە يىلى دۇئا ئاينىڭ 7-كۈنى / 31/10/1900)،

31 x 21.5 cm

قارنى چوڭ ئىلياسنىڭ ئۆزىنىڭ ئىنچىكە ئېرىق ياقىسىدىكى تۆت چارەكلىك يېرىنى شەمسىيە تەرەپكە بەخشەندە قىلغانلىقى ھەققىدىكى خەت. ئۈچ مۆھۈر.

³ قەبرىسىدىن مۇھەممەد ئەتتار «تەزكىرە تۇل ئەۋلىيا» (فۇجىنى مورىنو، ياپونچە تەرجىمىسى) توپى: كوكۇشو كانكو-كانى، 1998-يىلى. 49 - 84-بەت. قومۇلدا ئەزىزىم ئاغىچام مازىرىنىڭ تەزكىرىسى دەپ ئاتىلىدىغان بىر قول يازما ساقلىنىۋاتىدۇ. بىز ئەمىلى تەكشۈرۈشى جەريانىدا قوليازىنى كۆرۈش پۇرسىتىگە ئېرىشتۇق. بىراق ئۇنىڭ مەزمۇنى «تەزكىرە تۇل ئەۋلىيا» نىڭ مەزمۇنىغا ناھايىتى ئوخشايدۇ.

⁴ Smith, Margaret, *Rābi'a Basri: The Mystic and Her Fellow-Saints in Islam*. New Delhi: Kitab Bhavan, 2005, p.45.

شىنجاڭدا تېپىلغان ھۆججەتلەر

سۇگاۋارا جۇن

بۇ كىتاپتا تونۇشتۇرماقچى بولغان شىنجاڭدىن تېپىلغان ھۆججەتلەر توۋەندىكى ئىككى خىلدىن ئىبارەت.
1. قومۇل شەھەر ئىچىدىكى ئەزىزىم ئاغىچام مازىرىغا مۇناسىۋەتلىك ھۆججەتلەر (تۆت پارچە: EA01-04)
2. قومۇلدىكى مازارلار تونۇشتۇرۇلغان بىر دانە ماتىرىيال (19 ۋاراق: QM01). تىرناق ئىچىدىكى نومۇر تەتقىقات جەريانىدا تۈزگۈچى تەرىپىدىن قويۇلغان.

بۇ ھۆججەت ۋە قول يازما ماتىرىيال، ھازىرغىچە تەخى تەتقىق قىلىنشى ئاز بولغان قومۇل مازارلىرى ھەققىدە، ئەتراپلىق ئۇچۇر بىلەن تەمىنلەيدىغان يېڭى ماتىرىياللار بولۇپ ھىساپلىنىدۇ. بۇ ئىككى خىل ماتىرىيال 2003-يىلى سۇگاۋارا جۇن مەسئۇل بولۇپ ئىشلىگەن توكيو چەتئەل تىلى ئۈنۈپۈرستىتى ئاسىيا-ئافرىقا تىل- مەدەنىيىتى تەتقىقات ئىنستىتۇتىنىڭ GICAS پىلانى جەريانىدا بايقىلىپ، ماتىرىيال ئىگىسىنىڭ رۇخسىتى بىلەن سۈرەتكە تارتىلغان، كېيىن تويوتا فوندىنىڭ ئىقتىسادىي ياردىمى بىلەن قايتا نەق مەيدان تەكشۈرۈشى ئۆتكۈزۈلگەن ماتىرىياللاردۇر. بۇلار ھازىرغىچە ئانچە تەتقىق قىلىنمىغان، قومۇلدىكى مازارلار توغرىسىدا كۆپرەك مەلۇمات بېرىدىغان يېڭى ماتىرىيال ھېسابلىنىدۇ.

1. قومۇل شەھىرىدىكى ئەزىزىم ئاغىچام مازىرىغا مۇناسىۋەتلىك ھۆججەتلەر

(تۆت پارچە: EA01-04)

ئەزىزىم ئاغىچام مازىرى قومۇل كونا (مۇسۇلمان) شەھىرىنىڭ سىرتىدىكى شەھەر ئەتراپى يېزىسىغا قاراشلىق ئەزىزىم مەھەللىسىگە جايلاشقان مازار بولۇپ، بۇ يەرگە ئەرەبىستانلىق «بىبى رابىيەئى ئەدەۋىيە ۋە لىيۇللا» دېگەن ئايال كىشى دەپنە قىلىنغان، بۇ مازارغا ھەر يىلى قۇربان ھېيتىنىڭ ھارپا ئاخشىمى ئاياللىرى كېلىپ زىيارەت قىلىدىغان ئەنئەنىۋى ئادەت بار¹.

رابىيەئى ئەدەۋىيە (؟-801) تارىختىكى ئايال سويلار ئىچىدە «ئەڭ مەشھۇر» سويلارنىڭ بىرى ھېسابلىنىدۇ²، ئورتا ئاسىيادا تارقالغان داڭلىق ئەسەر فەرىدىدىن مۇھەممەد ئەتەرنىڭ «تەزكىرەتۇل

¹ نايىشەم نەخمەت: «قومۇل»، ئۈرۈمچى: شىنجاڭ خەلق نەشرىياتى، 1993، 244-245-بەتلەر

² Trimingham, J.S., *The Sufi Orders in Islam*. New York & Oxford: Oxford University Press, 1998, p.18.

ئابلز ئورخۇن(شىنجاڭ ئۇيغۇر ئاپتونوم رايونلۇق تەزكىرە كومىتېتى)؛ ئارسلان ئابدۇللا(شىنجاڭ ئۇنىۋېرسىتېتى فىلولوگىيە ئىنىستىتۇتى)؛ راھىلە داۋۇت(شىنجاڭ ئۇنىۋېرسىتېتى فىلولوگىيە ئىنىستىتۇتى)؛ ئەسەت سۇلايمان (شىنجاڭ ئۇنىۋېرسىتېتى فىلولوگىيە ئىنىستىتۇتى) ۋە يەرلىكتىن ھەمكارلاشقۇچى ئەلشىر تاشقۇلوف(پەرغانە ۋىلايەتلىك مەدەنىيەت گېزىتى)؛ ئىسمائىلخان مەھمۇدوف(ئۆزبېكىستان ئۈچكۆۋرۈك ناھىيە كاتتا كېنەگەس مەسچىتى)؛ زۆھرە تالىپ(قومۇل ۋىلايەتلىك قەدىمكى ئەسەرلەر، تىل-يېزىق ئىشخانىسى)لاردىن تەركىپ تاپقان. بۇ پىلان «شىنجاڭ ۋە پەرغانىدىكى مازار ھۆججەتلىرىنى تەكشۈرۈش، يىغىش ۋە تەتقىق قىلىش» دېگەن تەتقىقات نامى بىلەن تويوتا فوندىنىڭ 2005-يىللىق ئالاھىدە تەتقىقات تېمىسى بولغان «ئاسىيانىڭ چېگرا رايونلىرىدىكى ئەنئەنىۋى ھۆججەتلەرنى ساقلاش، يىغىش، تەتقىق قىلىش» پىلانىغا ئېلىنغان. كىتابنى نەشىر قىلىشتىن ئىلگىرى ئۆتكۈزۈلگەن خەلقئارا ئىلمىي مۇھاكىمە يىغىنى- «پەرغانە ۋە شىنجاڭدىكى مازارلار» 2005 -يىلى 11- ئايدا توكيو سۇندوباشدا ئۆتكۈزۈلگەن) بۇ تەتقىقات گۇرۇپپىسى ئۆتكۈزگەن تۇنجى ئىلمىي پائالىيەت بولۇپ، بۇ پائالىيەت تويوتا فوندىنىڭ بىر قىسىم ئىقتىسادىي ياردىمى بىلەن ئۆتكۈزۈلگەن.

5. بۇ كىتابتا تونۇشتۇرۇلغان ھۆججەتلەر توغرىسىدا

مەزكۇر كىتاب مازار ھۆججەتلىرى تەتقىقات پىلانىنىڭ ئاساسى بولغان ھۆججەت يىغىشنىڭ تۇنجى مېۋىسىدۇر. كەلگۈسى پىلانمىزدا ئەمەلىي تەكشۈرۈش ئارقىلىق، يوقىلىش ئالدىدا تۇرغان مازار ھۆججەتلىرىنى يىغىش، فاكسىمىل ھالىتىدە نەشىر قىلىش، مەزكۇر ھۆججەتلەرنى تېخىمۇ زور ھاياتىي كۈچكە ئىگە قىلىشنى باش ۋەزىپە دەپ قاراپ، قۇربىمىزنىڭ يېتىشىچە تېخىمۇ كۆپ ھۆججەتلەرنى نەشىر قىلدۇرماقچى. بۇ كىتابتا تونۇشتۇرۇلغان مازار ھۆججەتلىرىنىڭ تەپسىلىي مەزمۇنلىرى تۆۋەندىكى مەخسۇس تېمىلاردا تونۇشتۇرۇلىدۇ. بۇلارنىڭ ھەممىسى تۈزگۈچىلەر تەرىپىدىن ئەمەلىي تەكشۈرۈش جەريانىدا يىغىۋېلىنغان.

ھازىرقى ھالىتى ۋە ئۇنىڭغا ئائىت ئۇچۇرلار توغرىلىق ئومۇمىي تەتقىقات». باشلىقى: ياجما خىكونچى بىلەن بىرلىكتە.²

(2) 1998-يىلى. شىنجاڭنىڭ قەشقەر ۋىلايىتىدە ئېلىپ بېرىلغان مازار تەكشۈرۈشى. ساۋادا مىنورۇ، خورى سۇناۋو (شەخسىي تەتقىقات خىراجىتى بىلەن).³

(3) 2000-يىلى. شىنجاڭنىڭ خوتەن ۋىلايىتىدە ئېلىپ بېرىلغان مازار تەكشۈرۈشى. ساۋادا مىنورۇ، سۇگاۋارا جۇن: (ياپونىيە ھۆكۈمىتى مائارىپ مىنىستىرلىكىنىڭ ئىلمىي تەتقىقات خىراجىتى بىلەن): «ئوتتۇرا ئاسىيادىكى مەدەنىيەت ئورتاقلىقى ۋە ئىسلام تارىخى توغرىسىدا تەتقىقات». باشلىقى: شىنمەن ياسۇشى.

(4) 2005-يىلى. شىنجاڭنىڭ قومۇل ۋىلايىتىدە ئېلىپ بېرىلغان مازار تەكشۈرۈشى. سۇگاۋارا جۇن. (توكيو چەتئەل تىلى ئۇنىۋېرسىتېتى ئاسىيا-ئافرىقا تىل ۋە مەدەنىيەت تەتقىقات ئىنستىتۇتى GICAS قۇرۇلۇشى): «ئىچكى ئاسىياغا ئائىت ئۇچۇر مەنبەلىرىنى بەرپا قىلىش». باشلىقى: ناكامى تاتسۇئو.⁴

(5) 2005-يىلى. ئۆزبېكىستاننىڭ پەرغانە ئوبلاستى ۋە شىنجاڭنىڭ قەشقەر ۋىلايىتىدە ئېلىپ بېرىلغان مازار تەكشۈرۈشى. ساۋادا مىنورۇ، شىنمەن ياسۇشى، سۇگاۋارا جۇن، كاۋاخارا يايۇنى، ئاشىرىبەك مۇمىنوف، نادىرەك ئابدۇئەھمەتوۋ(ئارا يىپەك يولى تەتقىقات مەركىزى «ئوتتۇرا ئاسىيادىكى ئىسلام دىنىغا ئائىت مۇقەددەس جايلار تەتقىقاتى - پەرغانە ۋادىسىنى مەركەز قىلغان ھالدا») لار بىلەن.⁵

بولۇپمۇ، ئەڭ ئاخىرىدا كۆرسىتىلگەن ئارا يىپەك يولى تەتقىقات مەركىزىنىڭ ئىقتىسادىي ياردىمى بىلەن ئەمەلگە ئاشۇرۇلغان تەتقىقات پائالىيىتىنى قاتناشقان ئەزالارنىڭ كۆپلۈكى ۋە تەكشۈرۈش ئوبيېكتى نۇقتىسىدىن ئېلىپ ئېيتقاندىمۇ مازار ھۆججەتلىرى تەتقىقاتىدا ئەھمىيەتلىك نەتىجىلەر قولغا كەلتۈرۈلگەن بىر ھەقىقىي مازار ھۆججەتلىرى تەتقىقاتى دەپ قاراشقا بولىدۇ.

يۇقىرىقىدەك تۈرلۈك تەتقىقات پائالىيەتلىرى ئۈچۈن تەشكىللەنگەن بۇ گۇرۇپپىدا، بۇ كىتابنىڭ تۈزگۈچىلىرىدىن بىرى ھەمدە مەزكۇر تەتقىقات پىلاننىڭ باشلىقى بولغان سۇگاۋارا جۇن (توكيو چەت ئەل تىللىرى ئۇنىۋېرسىتېتى ئاسىيا-ئافرىقا تىل- مەدەنىيىتى ئىنستىتۇتى)؛ يەنە بىر تۈزگۈچىسى كاۋاخارا يايۇنى (ياپونىيە ئىلمىي تەرەققىيات جەمئىيىتى)؛ ساۋادا مىنورۇ (توياما ئۇنىۋېرسىتېتى)، شىنمەن ياسۇشى(چيۇئو ئۇنىۋېرسىتېتى)، سۇگاۋارا مۇتسۇمى (توكيوچەت ئەل تىللىرى ئۇنىۋېرسىتېتى)؛ ئاشۇربەك مۇمىنوف(قازاقىستان شەرقشۇناسلىق ئىنستىتۇتى)؛ نادىرەك ئابدۇ ئەھمەتوف(پەرغانە ۋىلايەتلىك مۇزېي)؛

² شىنمەن ياسۇشى، سانادا ياسۇشى، ۋاكا جىئەنشىن (تۈز): «شىنجاڭ ئۇيغۇرلىرىنىڭ بازار ۋە مازارلىرى» ئىسلام مەدەنىيىتى مەجمۇئەسى 70-، توكيو: چەتئەل تىللىرى ئۇنىۋېرسىتېتى ئاسىيا-ئافرىقا تىل-مەدەنىيىتى تەتقىقات ئىنستىتۇتى، 2002(ياپونچە) -غا قاراڭ.

³ ساۋادا مىنورۇ: «ئوردام پادىشاھنىڭ مۇقەددەس دائىرىسى توغرىسىدا» - ئىچكى ئاسىيا تەتقىقاتى 14-سان، 91-109 بەتلەر (ياپونچە)؛ ساۋادا مىنورۇ: «تارىم ۋادىسى ئەتراپىدىكى ئىسلامغا ئائىت تارىخىي يادىكارلىقلارنى تەكشۈرۈش دوكلاتى» - تېبۇكايا ماگاۋىن ئۇنىۋېرسىتېتى ئىنسانىيەت مەدەنىيىتى فاكۇلتېتىنىڭ يىللىق ئىلمىي ژۇرنىلى، قوشۇمچە سان، 49-70-بەتلەر(ياپونچە) گە قاراڭ.

⁴ ساۋادا مىنورۇ: «تەكلىماكاننىڭ جەنۇبىي چېتىدىكى مۇقەددەس قەبرىگاھلار» - تېبۇكايا ماگاۋىن ئۇنىۋېرسىتېتى ئىنسانىيەت مەدەنىيىتى فاكۇلتېتىنىڭ يىللىق ئىلمىي ژۇرنىلى، 2-سان، 160-182-بەتلەر(ياپونچە) گە قاراڭ. سۇگاۋارا جۇن: «شەھىدەن خوتەن» - توكيو چەتئەل تىللىرى فاكۇلتېتى ئاسىيا-ئافرىقا تىل-مەدەنىيىتى تەتقىقات ئىنستىتۇتى خەۋەرلىرى 101-سان، 10-17-بەتلەر(ياپونچە) گە قاراڭ.

⁵ ساۋادا مىنورۇ(تۈز): «ئوتتۇرا ئاسىيادىكى ئىسلام دىنىغا ئائىت مۇقەددەس جايلار تەتقىقاتى-پەرغانە ۋادىسى ۋە قەشقەر ۋىلايىتى» - يىپەك يولى شۇناسلىق تەتقىقاتى توپلىمى-28، ئارا: ئارا يىپەك يولى كۆرگەزمىسىنى خاتىرىلەش خەلقئارا ئالماشۇرۇش فوندى، يىپەك يولى شۇناسلىق تەتقىقات مەركىزى، 2007، ياپونچە، نەشرىدىن چىقىش ئالدىدا.

3. مازار ھۆججەتلىرىدىكى يېتەرسىز بېلبۇگىرافىيىلىك ئۇچۇر ۋە ئازغىنە توپلانما

قوليازما ياكى ئاددىي توختامنامە قاتارلىق يازما ماتېرىياللار ئىلگىرى سوۋېت ئىتتىپاقى بىلەن جۇڭگونىڭ ئىلمىي ئورگانلىرى تەرىپىدىن سىستېمىلىق يىغىۋېلىنىش نەتىجىسىدە ھەرقايسى ئارخىپخانلاردا مەلۇم مىقداردا ساقلانماقتا. لېكىن، مازار ھۆججەتلىرىغا مۇناسىۋەتلىك ئۇچۇرلار ۋە جامائەت ئورۇنلىرىدا ساقلانمىغان ھۆججەتلەر بەك ئاز. مازار ھۆججەتلىرىنىڭ ساقلانمىغان ئاست ئۇچۇر ھەمدە مازار ھۆججەتلىرىنىڭ مەزمۇنىغا مۇناسىۋەتلىك مەلۇمات خاراكتېرلىك ماتېرىياللار تېخىمۇ ئاز. بۇنىڭ سەۋەبىگە كەلسەك، خەلققە جىددىي كېرەكلىك بولمىغان ماتېرىياللارنىڭ ئىلمىي ئورۇنلار تەرىپىدىن يىغىۋېلىنىپ، خەلق ئورتاق قەدىرلەپ ساقلاپ كېلىۋاتقان مازار ھۆججەتلىرىنىڭ بۇ يىغىۋېلىش پىلانىنىڭ سىرتىدا قالغانلىقىدىن بولسا كېرەك.

دېمەك، ھازىر جەمئىيەتتە ساقلانمىغان مازار ھۆججەتلىرى جامائەت ئورۇنلىرىدىمۇ كۆرگىلى بولمايدىغان قىممەتلىك ماتېرىياللاردۇر. بۇ خىل خەتەرلىك ئەھۋال ئاستىدا، مازار ھۆججەتلىرىغا ئاست خەۋەرلەرنى خاتىرىلەپ تەتقىقاتقا پايدىلىنىش مۇھىتىنى يارىتىشنىڭ ئۆزى ئەڭ ناخىرقى پۇرسەت بولۇپ قالغۇسىدۇر.

4. مازار ھۆججەتلىرىنى يىغىش

بۇ كىتابنىڭ تۈزگۈچىلىرى باشچىلىقىدىكى يۇقىرىقىدەك ئورتاق چۈشەنچىگە ئىگە بولغان تەتقىقاتچىلار مازار ھۆججەتلىرىغا بىۋاسىتە ئالاقىدار يەرلىك خەلق بىلەن ھەمكارلىشىپ، مازار ھۆججەتلىرى بار ئورۇننى تەكشۈرۈپ تەتقىق قىلىش ئىشى بولغان مازار ھۆججەتلىرى تەتقىقات پىلانىنى قولغا ئالدى. بۇ پىلان پەرغانە ۋە شىنجاڭدىن ئىبارەت ئىككى رايوندا مازار ھۆججەتلىرىنى ساقلاش شارائىتىنى يارىتىپ، شۇ رايونلاردىكى مازارلار مەركەز قىلىنغان ئۆرپ-ئادەتلەرنى ساقلاپ داۋاملاشتۇرۇشقا ھەسسە قوشۇشنى مەقسەت قىلىدۇ. يەنە ھەر ئىككى رايوندىكى مازار ھۆججەتلىرىنى تەتقىق قىلىپ، مازارلار مەركەز قىلىنغان يەرلىك تارىخىنى قايتا بەرپا قىلىش ھەمدە ئىككى رايونغا ئورتاق مەدەنىيەت قاتلىمىنى ئېچىشقا ئۇرۇنۇپ كۆرۈشتىن ئىبارەت.

بۇ تەتقىقات پىلانىنىڭ بارلىققا كېلىشى، بىر نەچچە گۇرۇپپا ۋە شەخسلەرنىڭ ھازىرغىچە مازار ۋە «مازار ھۆججەتلىرى» تەتقىقاتى توغرىسىدا ئېلىپ بارغان تەتقىقات ۋە تەكشۈرۈشلىرى، ئۇلارنىڭ بۇ ھەقتە قولغا كەلتۈرگەن تەتقىقات نەتىجىلىرى ئاساسىدا داۋاملاشقان دېگەن نۇقتىنى بۇ جايدا ئېيتىپ ئوتۇشكە توغرا كېلىدۇ. تەتقىقات گۇرۇپپىلىرىنىڭ پائالىيەتلىرىنىڭ ئاساسلىق مەزمۇنى تۆۋەندىكىچە :

(1) 1996-يىلى. شىنجاڭنىڭ قەشقەر، تۇرپان ۋىلايەتلىرىدە ئېلىپ بېرىلغان مازار تەكشۈرۈشى. شىنمەن ياشۇشى، سانادا ياشۇشى، ۋاڭ جىيەنشىن (ياپونىيە ھۆكۈمىتى مائارىپ مىنىستىرلىكىنىڭ ئىلمىي تەتقىقات خىراجىتى): «ئىسلام دۇنياسىنىڭ باشقا مەدەنىيەتلەر بىلەن ئۇچرىشىش مېخانىزمى-ئىنسانىيەتنىڭ

مازارلارغا چوقۇنۇش ئادەتلىرى ھېلىمەم مەۋجۇت. ھەر ئىككى رايوندىكى مازار ھۆججەتلىرى يۇقىرىدا ئېيتقاندا كىشىلەر تەرىپىدىن قەدىرلىنىپ كەلگەچكە بۈگۈنگىچە ساقلىنىپ كەلگەن. بىراق، بۇ مازار ھۆججەتلىرىنىڭ كەلگۈسى ئىستىقبالىدىن سۆز ئېچىش تەس. 20-ئەسىردە يۈز بەرگەن ئىككى چوڭ ئۆزگىرىش يەنى سوۋېت ئىتتىپاقىنىڭ پارچىلىنىشى بىلەن ئوتتۇرا ئاسىيادا مۇستەقىل مىللىي دۆلەتلەرنىڭ بارلىققا كېلىشى؛ جۇڭگودىكى «مەدەنىيەت زور ئىنقىلابى» نىڭ ئاخىرلىشىشى بىلەن بارلىققا كەلگەن ئىسلاھات ۋە ئىشكىنى سىرتقا ئېچىۋېتىش ھەرىكىتىدىن كېيىن، ھەر ئىككى رايوندىكى ئەنئەنىۋى مەدەنىيەت قايتا جانلىنىشقا ۋە ئىككى رايون ئوتتۇرىسىدىكى مەدەنىيەت ئالاقىسى ئەسلىگە كېلىشكە يۈزلەنمەكتە. بىراق، يەنە بىر تەرەپتىن قارىغاندا، يۇقىرىقى ئەھۋاللارنىڭ دەرىجىسى ئوخشاش بولمىسىمۇ، دىندىن يىراقلىشىش ئەھۋالى ناھايىتى تېز بولماقتا. بۇ خىل ئەھۋال ئەنئەنىۋى دوڭمۇپىنتلارغا خەتەرلىك ئاقىۋەت ئېلىپ كەلمەكتە.

پەرغانە رايونىدا، سوۋېت ئىتتىپاقى پارچىلىنىپ بەش مۇستەقىل دۆلەت بارلىققا كەلگەن ھازىرقى شارائىتتا، پۈتكۈل مەملىكەت بويىچە ئەنئەنىۋى مەدەنىيەت ۋە تارىخىنى قايتا تونۇشنىڭ مۇھىملىقى تەكىتلىنىۋاتقان بولسىمۇ، لېكىن تارىخىي ماتېرىياللارغا كۆڭۈل بۆلۈش تازا ياخشى ئەمەس. مۇشۇنىڭغا ئوخشاش، يېقىنقى زاماندىكى ئىسلام دىنىي ئېتىقادى قايتا جانلىنىپ، مازارلارغا قىزىقىش كۈنسېرى ئاۋاتلىشىۋاتقان بولسىمۇ، لېكىن خەلقنىڭ مازار ھۆججەتلىرىغا تۇتقان پوزىتسىيىسىدە ئېغىر ئېگىز-پەسلىك بار بولۇپ، ياشلارنىڭ مازار ھۆججەتلىرىغا بولغان چۈشەنچىسى ناھايىتى تۆۋەن.

شىنجاڭدا بولسا، جۇڭگونىڭ يېقىنقى مەزگىللەردىكى دۆلەت پىلانى بولغان «غەربىي رايوننى كەڭ كۆلەمدە ئېچىش» پىلانىنىڭ تەسىرى بىلەن نوپۇسنىڭ سۈنئىي كۆپىيىشى ھەددىدىن زىيادە تېزلىشىپ، ئىجتىمائىي مەدەنىيەتتە تۈپلۈك ئۆزگىرىش دولقۇنى پەيدا بولۇپ، ئەنئەنىۋى ئۇيغۇر مەدەنىيىتى يىمىرىلىۋاتىدۇ، دېسەكمۇ ئارتۇق كەتمەيدۇ. مۇشۇنداق ئەھۋالدا بۇ رايوندا كۆپ ئۇچرايدىغان دىنىي قۇرۇلۇشلارنىڭ كۈندىن كۈنگە ۋەيران بولۇشقا قاراپ يۈزلىنىۋاتقانلىقىنى كۆرۈۋېلىشقا بولىدۇ. مەسىلەن: يېقىنقى يىللاردىكى ئەھۋالنى، جۈملىدىن ئىشكىنى سىرتقا ئېچىۋېتىش، ساياھەتچىلىكنى تەرەققىي قىلدۇرۇش مەقسىتىدە مازارلارنى ساياھەت ئورنى قىلىپ بېكىتىش ئەھۋالىنى بۇنىڭغا مىسال قىلىش كۆرسىتىشكە بولىدۇ. مازار قۇرۇلۇشى، خەلقنىڭ مازار تاۋاب قىلىش پائالىيەتلىرى ھازىرقى ساياھەتچىلەرنىڭ زىيارەت ئوبېكتى بولۇپ قالماقتا. شۇنىڭ بىلەن يەرلىك جەمئىيەتنىڭ مازارلارنى ئەنئەنىۋى باشقۇرۇش ئۇسۇلى ھۆكۈمەت تەرەپنىڭ باشقۇرۇش ئۇسۇلىغا قاراپ ئۆزگەرمەكتە. مۇشۇنداق دىندىن ياتلىشىش يۈزلىنىشى پۈتكۈل شىنجاڭغا ئومۇملاشماقتا.

دېمەك، پەرغانە ۋە شىنجاڭدىن ئىبارەت ئىككى رايوندا ئەنئەنىۋى مەدەنىيەتكە بىرسى مۇستەقىل دۆلەت مەيدانىدا تۇرۇپ مۇئامىلە قىلىۋاتقان، شىنجاڭدا كۈچلۈك جۇڭگو مەدەنىيىتىنىڭ سىڭىپ كىرىشى ۋە ئاقما نوپۇسنىڭ ھەدەپ ئېقىپ كىرىشى بىلەن ئەنئەنىۋى مەدەنىيەت يىمىرىلىۋاتقان قارمۇ قارشى ۋەزىيەتتىمۇ مازار ھۆججەتلىرى يەنىلا يوقىلىش خەتىرىگە دۇچ كەلمەكتە. مۇشۇ نۇقتىدىن قارىغاندا ھەر ئىككى رايوندا مازار ھۆججەتلىرىنىڭ تەقدىرى ئوخشاش. مۇنداق ۋەزىيەتتە مازار ھۆججەتلىرىنى يىغىپ ساقلاش— ئىككى رايوننىڭ ئەنئەنىۋى مەدەنىيىتىنى ساقلاش، ئەنئەنىۋى يەرلىك جەمئىيەت ئەھۋالىنى چۈشىنىشتە جىددىي قىلمىسا بولمايدىغان تەخىرىسىز ۋەزىپىدۇر.

بۇ خەتلەر پەرغانىدىكى ۋەلى ئەۋلادلىرىغا شۇ چاغدىكى ھاكىمىيەت تەرىپىدىن بېرىلگەن باجدىن كەچۈرۈم قىلىنغانلىق قاتارلىق ئالاھىدە ئىمتىياز خەتلىرىنى ئۆز ئىچىگە ئالىدۇ. يۇقىرىدىكى 3- تۈر ۋە مۇشۇ 4- تۈردىن مازارلارنىڭ جەمئىيەتتىكى سىياسىي ئورنىنى بىلگىلى بولىدۇ.

5. ۋەخپە نامەلەر

ۋەخپە نامەلەر مازار ۋە مازارغا قاراشلىق مەسجىت، مەدرىسىلەرگە قىلىنغان ۋەخپەلەرگە ئائىت گۇۋاھلىق خەتلىرىنى ئۆز ئىچىگە ئالىدۇ. بۇلار يەرلىك خەلق بىلەن مازار ئوتتۇرىسىدىكى ئىقتىسادىي مۇناسىۋەتلەر ۋە باشقا كونكرېت مۇناسىۋەتلەرنى چۈشىنىشتىكى مۇھىم ماتېرىيال ھېسابلىنىدۇ.

6. ئەرز، دەۋا - دەستۇر ھۆججەتلىرى

بۇلار شەيخ تەيىنلەش ماجراسىغا ئائىت ئەرز، پەتىۋا- ھۆكۈملەرنى ئۆز ئىچىگە ئالغان ھۆججەتلەر بولۇپ، مازارنىڭ جەمئىيەتكە كەلتۈرىدىغان پايدا-زىيىنىنى تەپسىلىي بىلىشتىكى مۇھىم ماتېرىيال.

7. مۇقەددەس جايلارنى زىيارەت قىلىش كىتابى

مازارلارنى زىيارەت قىلغۇچىلار ئۈچۈن تەييارلانغان ئەسەر. مازارنىڭ ئىسمى، دەپنە قىلىنغان كىشىنىڭ ئىسمى، ئورنى قاتارلىق ئاساسىي مەلۇماتلارغا يەنە مازارلارغا مۇناسىۋەتلىك تارىخ، ئەپسانىلەر، شۇ مازارنى زىيارەت قىلىشنىڭ ئەھمىيىتى، زىيارەت قىلىشتىكى پەرھىزلەر قوشۇمچە قىلىنغان ماتېرىياللار.

يۇقىرىقىلاردىن باشقا مازار ئەتراپىدىكى مازارلارغا زىچ مۇناسىۋەتلىك بولغان توختام خەتلىرى، يەر سېتىش، سېتىۋېلىش، ئىجارە خېتى، ئۆتۈنۈپ بېرىش خېتى، مىراس، ۋەكىللىك خېتى قاتارلىقلارنىمۇ كەڭ مەنىدىن ئېيتقاندا مازار ھۆججەتلىرى دەپ ھېسابلاشقا بولىدۇ. بۇ ھۆججەتلەر مازارلارنىڭ شۇ جەمئىيەتتىكى ماددىي ۋە مەنەۋىي فۇنكسىيىسىنى يۇقىرى كۆتۈرۈشتە مۇھىم رول ئوينايدىغان جانلىق ماتېرىيال ھېسابلىنىدۇ. بۇ خىل ھۆججەتلەر ھازىرقى رېئال ئەھمىيىتىدىن سىرت، ئىلمىي جەھەتتىن ئېيتقاندا يەنە مازارلارنىڭ كېلىپ چىقىش تارىخى، جەمئىيەتتە ئويناپ كەلگەن رولى قاتارلىق ئۇچۇرلارنى ئۆز ئىچىگە ئالىدۇ.

2. خەتەرلىك ئەھۋال ئاستىدىكى مازار ھۆججەتلىرى

ئالاي تاغلىرىنىڭ ئىككى يېقىغا جايلاشقان شىنجاڭ ۋە پەرغانە رايونىدا مازارلار كۆپ بولۇپ، خەلقنىڭ

مازار ھۆججەتلىرى مازارلارنى ساقلاپ كەلگەن شەيخلەرنىڭ ھەققىيلىكى(مازارلاردا ياتقان ۋەلىلەرنىڭ بىۋاسىتە تۇغقانلىرى ياكى مۇرىتلىرى)نى ئىسپاتلايدىغان ھۆججەتلەر؛ مازار قۇرۇلۇشى، كۆلىمى ھەققىدە مەلۇمات بېرىلگەن ھۆججەتلەر؛ مازار ۋە قەبرىگە مۇناسىۋەتلىك ياكى مازارنىڭ كېلىپ چىقىش تارىخىغا مۇناسىۋەتلىك مەلۇماتلارنى ئۆز ئىچىگە ئالىدۇ. بۇ ھۆججەتلەرنىڭ بىر قىسمى 17-18- ئەسىرلەردە يېزىلغان. قالغانلىرىنىڭ كۆپىنچىسى 19-20-ئەسىرلەردە يېزىلغان.

ھۆججەتلەر يېزىلغان دەۋرلىرىگە قاراپ، پارىسى ۋە تۈركىي تىللاردا يېزىلغان بولسىمۇ لېكىن بەزىدە ئەرەبچە جۈملىلەر ئارىلاش كەلگەن ھۆججەتلەرمۇ ئۇچرايدۇ. كېيىنكى دەۋرلەردە رۇسچە ۋە خەنزۇچە قوشۇلۇپ يېزىلغان ھۆججەتلەرمۇ ئۇچرايدۇ.

مازار ھۆججەتلىرىنىڭ مەزمۇنىدىن قارىغاندا، ھۆججەتلەرنىڭ تۈرلىرى تۆۋەندىكىچە:

1. نەسەبنامە، شەجەرە ياكى جورۇمخاي

ھۆججەتلەر ئارىسىدا مۇھەممەت پەيغەمبەر بىلەن ھۆججەتنىڭ ئىگىسى ئوتتۇرىسىدىكى قانداشلىق مۇناسىۋەتنى بىلدۈرىدىغان نەسەبنامىلەر بار. گەرچە مازارلاردا ياتقان بىر قىسىم ۋەلىلەر ئىسلامىيەتتىن ئىلگىرىكى كىشىلەر بولسىمۇ، ئەمما ئۇلارنىڭ نەسەبى مۇھەممەت پەيغەمبەرگە باغلاپ قويۇلغان. نەسەبنامىلەر شەكىل جەھەتتە دەرەخ شەكىلدە شاخلىتىپ ۋە يىلتىز تارتقۇزۇپ بايان قىلىش ئۇسۇلى ۋە ئاددىي بايان قىلىش ئۇسۇلىدىن ئىبارەت ئىككى خىل شەكىلگە ئىگە. نەسەبنامىلەر ئاساسەن تۈرمىلەك شەكىلدە يۆگەلگەن بولۇپ، بەزىلىرىنىڭ ئۇزۇنلۇقى 10مېتىردىن ئاشىدۇ.

2. تەزكىرىلەر

دەپنە قىلىنغان ۋەلىيلەر ۋە ئۇلارنىڭ ئاتا- بوۋىلىرىغا ئائىت ئەپسانە -رېۋايەتلەرنى ئۆز ئىچىگە ئالىدۇ. تەزكىرىلەردە مازاردا ياتقان ئاساسلىق شەخسنىڭ كارامەتلىرى، دىنىي پائالىيەتلىرى ئەتراپلىق تونۇشتۇرۇلىدۇ، تەزكىرىلەرنىڭ يەنە مازارنى ساقلىغۇچى شەخسلەر ۋە ئۇلارنىڭ ئەۋلادلىرىنىڭ جەمئىيەتتىكى دىنىي ئىمتىيازىنى يۇقىرى كۆتۈرۈش رولى بار.

3. شەيخلىككە تەيىنلەنگەنلىك خېتى

پەرغانىدە شەيخلەرنىڭ كۆپىنچىسى شۇ دەۋردىكى ھاكىمىيەت تەرىپىدىن بەلگىلەنگەن .

4. ئالاھىدە ئىمتىياز بېرىلگەنلىك خەتلىرى

مازار ھۆججەتلىرى تەتقىقاتىغا كىرىش

سۇگاۋارا جۇن

1. مازار ھۆججەتلىرى

مازار (ئىسلامنىڭ مۇقەددەس جايلىرى) ئىسلام ۋەلىلىرىنىڭ ئېتىقادى نىشان قىلىنغان ئىسلامىي ئېتىقاد ۋە كېسەل داۋالاش، بالا تىلەش قاتارلىق رېئال مەنپەئەتنى ئاساس قىلغان ئاممىۋى ئېتىقاد بىر گەۋدە قىلىنغان قۇرۇلما بولۇپ، ئۇزاق تارىخىي جەرياندا مەنىۋى ئوزۇقلۇق رولىنى ئويناپ كەلگەن. شۇنىڭ بىلەن بىر ۋاقىتتا مازارلار، تاۋاپ ۋە تىلاۋەت مەقسىتىدە كەلگەن ئۆزىنىڭ تار تۇرمۇش دائىرىسىدىن ھالقىغان كەڭ جامائەتنىڭ ئۇچرىشىش ئورنى بولۇش سۈپىتى بىلەنمۇ، جەمئىيەتتە مۇھىم ئورۇنلۇق ۋەزىپىسىنى ئۆتەپ كەلگەن¹.

بۇ كىتابتا تۈزگۈچىلەر تەرىپىدىن ئىشلىتىلگەن «مازار ھۆججەتلىرى» دېگەن بۇ ئاتالغۇ كىشىلەر ئەۋلادتىن ئەۋلادقا ساقلاپ كەلگەن، مازارنىڭ كېلىپ چىقىش تارىخى، مازارلارنىڭ قوغدىلىش ئەھۋالى، باشقۇرۇلۇشى، دىنىي مۇراسىملارنىڭ ئۆتكۈزۈلۈشى قاتارلىقلارغا مۇناسىۋەتلىك ھۆججەتلەرنى كۆرسىتىدىغان ئاتالغۇدۇر. مازارلار جەمئىيەتتە ئالاھىدە رول ئويناپ كەلگەنلىكى ئۈچۈن بۇ ھۆججەتلەر شۇ مازارلارغا بىۋاسىتە مۇناسىۋەتلىك كىشىلەرنىڭ قولىدا تاھازىرغىچە ساقلىنىپ كەلگەن. ھۆججەتلەرنىڭ سانى، ساقلىنىش ئەھۋالى، مەزمۇنلىرىمۇ ھەرقايسى جايلاردا ئوخشىمايدۇ. بولۇپمۇ بۇ كىتابتا تونۇشتۇرماقچى بولغان پەرغانە ۋە شىجاڭدىن تېپىلغان ھۆججەتلەر ئوتتۇرىسىدىكى پەرق بەك چوڭ.

¹ مازارنىڭ جەمئىيەتتىكى فۇنكسىيىسى ۋە تارىختا ئويناپ كەلگەن رولى توغرىسىدا: شىنمەن ياسۇشى، سانادا ياسۇشى، ۋاڭ جىيەنشىن (تۈز) «شىنجاڭ ئۇيغۇرلىرىنىڭ بازار ۋە مازارلىرى» (ئىسلام مەدەنىيىتى مەجمۇئەسى 70)، توكيو: توكيو چەتئەل تىللىرى ئۈنۈمىيىتى ئاسىيا-ئافرىقا تىل-مەدەنىيىتى تەتقىقات ئىنستىتۇتى، 2002، ياپونچە؛ راھىلە داۋۇت «ئۇيغۇر مازارلىرى»، ئۈرۈمچى: شىنجاڭ خەلق نەشرىياتى، 2002-يىلى نەشرىگە قاراڭ.

حیت خلعت جنت اور از ننگ رقل قمر حیت آق محمد بابی

دولت آدینه جوڑہ سرتق لیبہر قحیت

جماعہ پالمن روم

عوز خدیو شاد او علی بابا نو نافرما بقان بوقان خدیو با ایش نظرہ عرا خدیو قبا نیمبر
اد علی قمر شاد اولیا کجا انا لفق نازیا آئی یقیا

عشورابی قلہ محمد بای حاجی مراد تاش شینخ الیزباہر

حیت خلت جنت اور از شکر قلہ قرہ حیت اق محمد بای

عشورابی ملا جو مان خال نظر بای البشر نظر بای تنای بای

ینگلی بای اقدیار شتک ہم سے شادمان دین اور شکا ہمال

بال غالی جلا پیر ایتم بای البشر بردر شیخ اہل قباقی بای ہمال

عشورابی قلہ محمد بای حاجی مراد تاش شینخ الیزباہر

حیت خلت جنت اور از شکر قلہ قرہ حیت اق محمد بای

موتھین بیک آن بای جگہ کے خلیا بای حافظ شریو تہ بای حسن بای

حسین بای رحمن قن بای جماعہ جوہ لابی خالد ارا بای اوغلی دہم فظ

اوغلی قدم حافظ افتد بار بای بای میرزا سنگم اوغلی حسین بای س

شادمان جوہ لابی اوغلی توردی قل قربان بای حافظ امیر نظر بای افتد نظر

مشور بای ملا جو مان خال نظر بای امیر نظر بای تفتای بای

سینکی بای افتد یار مشتک ہم سے شادمان دین اور شکا ہمال

بال غالی جلا میرا شیم بای امیر بدر شیخ ریل باقی بای ہاں بای

مشور نامی واد مج نامی، حا حرماد ہا شمشیر الزناد

بیگ نظر ایس کیلدا بای محمد آلی عبد القادری سرحد بای ضوہ نظر

کوہر بای محمد نظر ضرای بای الیز با سہر مہادور اہر نظر جماعہ خان

جنالی مینگ نور باتور دوتہ بای عشور بای الش محمد ضرای بزرگ

ضوہ بای ائی بکش بای عویز بزرگ ضرای بزدی ننگر بزدی خانی

بنلو ملوال نور و رقل سوزنی جماعہ قانگی قیوش قانلی دانیا

بیل محمد بای اسن محمد تغای محمد بالنتہ بای لادینہ محمد فریال بای ائی محمد

نور ت ارق محمد علی محمد دیار خوش حال بای خال مراد روزر بای

بزدی یار حافظ افتد بزدی بای خال محمد حال محمد وفابای اودینہ

جمالی اور و محمد دور مدد قوش تمغالی ضرای نظر حفظ فر محمد

سافولات مابى ولى پېك سرلى بابى الشىء محمد حافظ اوده مالى هر

اورازعالى خال بابى قادر بردى حيت بابى اوراز بابى خدا بردى

جيين تفاسى عرب بابى شکر بر دبابى بار محمد خال محمد نور محمد اوراز بابى

عوبير بيل الشىء قل بابى محمود بابى نولى بابى كو صبر بابى اسلام قل بابى

نور ذر بابى نور محمد قربان بابى خال قل بابى نياز قل بابى ندير قل بابى

نانگ محمد تاش محمد بيگ محمد نياز قل ارال بابى على بابى نور دبابى

ايو بابى ايش كبل بيرغاق بلنجى بابى قرصو بابى اوده بابى خداى قل بابى

ايش محمد قربان بابى نظر بابى بازار قل اتاليق خداى قل اتاليق بوزه خود

جيين بهادور ارال بابى نياز قل بابى جوبه لاجى صابن اندر بابى ايرين

بيگ نظر ايش كبلر بابى محمد امى عبد الله بابى سرجه بابى خوجه نظر

قرمان فولات انینگ اوغلی خوجم قل نیاز قل بیگ ایش پولات یاول
اوغلی عبداللہ بابی قوتلوق بابی بو یاغی تنگری بردی جو لاق بازار
آدینه بابی حیت قل بابی انینگ بابی ایش محمد انینگ اوغلی

خدای بردی بابی انینگ اوغلی الجین بابی قرمان بابی آدینه خلفه انینگ
اوغلی مینگی بابی انینگ نورد در بابی یادگار بابی اوغلی خال بابی انینگ اوغلی

نور بابی حاجب بابی برات برادور دوس محمد بابی بابی پولات بابی
تیمور قراق انینگ اوغلی برات ایش محمد خال بابی شنگلی خوجم برات برد

مرات ایش مراد آوروغلی بلنگ ایش ایتر بابی دوس بابی

نوروز بابی خدای بردی بابی عبداللہ بردی نظر بابی ایتر قل بابی

امان بابی اوتہ کن صاتیب الدی صدیر بابی نذیر بابی نفس بابی

صوفی نامی از ۲۴ اوروغی سجاد تاروغلی جلا سیر خدای پردی با

توسون بای صوفی ایریس بای حسن بای دوغلی منکلی قل بای تهمان

سیرات اشکی قرنت بای عوینر صوفی بار محمد بای قربان بای جغت خط

ایر نظر بای عشور قل خواصی فر اول بیکی اچت قر اول بیکی جیلر

تالکرت بای آن بای ایش بر در بای بار محمد بای خدای قل بای خدای

تالکرت پردی بای ایش محمد بای دوسوم بای اوراز بای اوراز بای

عوینر بای حسن بای رجب بای ایر نظر بای ایریس قل خال نظر

خوجه کیلری ایریس محمد قربان بای خدای قل بازار بای بورت بای

بالته بای پاشتن بای خال قل بای ایش نامی بای عشور بای سار

نبار قل بای خال محمد بالته بای اوزارک اقد نظر خال نظر خال بای

ایش مراد پر محمد خدای برد بای عوینر بای عیت محمد دولت محمد اس

ایش محمد عشور قل علی بدل ستمن بنیت منکلی اوراق بای

قل محمد انا لبق نبار حکاری اورون بای محمدی عشور قوت با

الاصل الاول
 نسخة الاصل الاول
 وهو موجود في
 مكتبة جامعة
 القاهرة
 رقم 1268/1851
 والعدد 9
 والعدد 10
 والعدد 11
 والعدد 12
 والعدد 13
 والعدد 14
 والعدد 15
 والعدد 16
 والعدد 17
 والعدد 18
 والعدد 19
 والعدد 20

ملاحظات:

1. نسخة من دفتر الحسابات
 توجد في مكتب
 القاهرة 1268/1851
2. نسخة من دفتر الحسابات
 توجد في مكتب
 القاهرة 1280/1863

و سلم المکمل انما و کتبه منی این تقبول است پسین و اعط

و در آیتی آنکه حضرت رسول اکرم صلی الله علیه و سلم فرمودند که هر کوی بیایم باکم

و من در اجابت نمودم بدینیکه من در میان شما دو چیز بزرگ است

یکی از دیکوی بزرگ قرآن و اولی من بعد از ما آن دو هر کوی بگوید

باید که آن دو را بخواند و در حق آنها بگوید که این دو هر کوی بگوید

شده در لاجرم که نترسند

روحه الاحباب الیه صلی الله علیه و سلم
و من در اجابت نمودم بدینیکه من در میان شما دو چیز بزرگ است
یکی از دیکوی بزرگ قرآن و اولی من بعد از ما آن دو هر کوی بگوید
باید که آن دو را بخواند و در حق آنها بگوید که این دو هر کوی بگوید

بسم الله الرحمن الرحیم
الحمد لله رب العالمین
والصلاة والسلام على سيدنا محمد وآله الطيبين الطاهرين
الذين هم خلائقنا الطيبين
و من در اجابت نمودم بدینیکه من در میان شما دو چیز بزرگ است
یکی از دیکوی بزرگ قرآن و اولی من بعد از ما آن دو هر کوی بگوید
باید که آن دو را بخواند و در حق آنها بگوید که این دو هر کوی بگوید

استند به حقیقت ثابت الیه او لا حضرت عاکرم الله وجهه بوده مع هذا از جمله شیخ الشافعی بحضرت امام شافعی
طیبه من از فایض الانوار نوره العظیم رضوان الله تعالی علیه و علاقه داران قدوم الایام الالهیه انما عن
بطنا بعد طین از بسط طین ماضویه و حکما جلید فیما عالی در ادبی ایشان بوده و در تدریس او و تدریس علی علیه السلام نام زده شده
از ابتدا احوال تا این هنگام آمدن خود او و قاف و عقارات من از من و کور را منصرف میگردید و بجهت آنکه از بعد از مرتبه
بگویند که این عاقله و الاجتیاح بواج خود با حرف ختم باشند کف حطی که در علم علی است و اینها
اولی الایام الالهیه موجود است و در این صورت در اولی الایام الالهیه در هر دو مرتبه در هر دو مرتبه در هر دو مرتبه
منه الایام الالهیه موجود است و در این صورت در اولی الایام الالهیه در هر دو مرتبه در هر دو مرتبه در هر دو مرتبه
و من در اجابت نمودم بدینیکه من در میان شما دو چیز بزرگ است
یکی از دیکوی بزرگ قرآن و اولی من بعد از ما آن دو هر کوی بگوید
باید که آن دو را بخواند و در حق آنها بگوید که این دو هر کوی بگوید

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

فَاكْفُرْ بِالْبَدَنِ بِاسْمِ اللَّهِ عَلَيْهِ صَلَواتُهُ

شرف ابداوات

وفي الحديث لا يجوز ذهاب اليمان من الايمان عليهم السلام وادوات

رضوان الله تعالى عليهم جميعين واولاد رسول الله عليه السلام وادوات وادوات

وان كان رويته وادواتهم بشهادة وشاره على رسول الله عليه السلام وادوات

التي عليه السلام صدق وهو يكون كما قاله اما حق باير لهما والمؤمنين لا يقول لا

انه من آل الله دون آل الله واما قوله فقول من مات مؤمنا فهو مؤمنا كما فرأ

شرف ابداوات من نفسها

فوق النار

وشرف النبوة آورده که حضرت رسول صلی الله علیه وسلم فاطمه اذان با زمانم که دم که وی

و دوست داشت که آن ازدواج بد است انچه لان نعلم افضل الفاطمه معنی الطوبیة
شرف ابداوات

بسم الله الرحمن الرحيم

الحديث الذي في مشرق والهداية والنافع والهادي بابا فان ان الله حرم صدقة

واك محمد فانما هي اوساح العايس ووعوم منها ليس النعمه شرف ابداوات

اللهم ربنا اني في الاكسفة اللهم صل على محمد وعلى آله

18

19

20

بسم الله الرحمن الرحيم

في شرح الامام محمد بن الرضا رحمه الله عليه السلام على قوله تعالى عن الفقه والعقود
 الاول انك لا تعرفه وقال فيهم انهم اهل الاطراف واهل الافكار ونحو ذلك هو الفقه والفقهاء
 لا يزالون يتكلمون بهن واهل العلم لان كسوف العلوم كسوف نبيينا سلم الله عليه وسلم وروى الترمذي وغيره
 ول بعد الامامة استراحت اهل العلم وفضل كسوف العلم وذا اهدى اهل العلم وروى فيهم انهم كسوفوا
 وعلو اهل البيت بود غير ما كسوفوا وفضل كسوف العالم نزلت كسوف فيهم فيهم فيهم فيهم
 در اهل جن در جن و جايد و جايد و جيم علمي در جيم قبايل نزلت كسوف فيهم فيهم

در جيم

عليه السلام فضل و باب علم و صلوات الله على اهل بيته و اهل بيته و اهل بيته و اهل بيته
 و در اهل بيت رسول خدا صلى الله عليه و آله و سلم و در اهل بيت رسول خدا صلى الله عليه و آله و سلم
 مذکور است بطله جل جلاله اين را در ايات خود است كما قال رسول الله صلى الله عليه و آله و سلم
 اولاد

نسخه

سراج

شرف اهل بيت رسول الله صلى الله عليه و آله و سلم

بسم الله الرحمن الرحيم

الحمد لله الاول في اركان الدين و اهل بيته و اهل بيته و اهل بيته و اهل بيته
 ان نبينا ان الله سبحانه و تعالي عليه السلام و اولاد اهل بيته و اهل بيته و اهل بيته
 فكل من اهل بيت رسول الله صلى الله عليه و آله و سلم

بسم الله الرحمن الرحيم

بادو اگر این منزه تر کنی جواب ندند و این عاقبت است و قول است و لا یبارک و لا یزداد و در حدیث

انما یکم الاهی گویند و نه انکه این آیه که یکم یعنی دارد است که این بطلان

سرفک لشکر پیدا یعنی گرفتن خدای تعالی سخت با بال سرفک حال کن یا قال ^{فی}

حال کن ترا که فرود آید با عاندان ایشانست پیش ما شرم سازند و ی یا چنانچه درون

ماز میگوید در پیرو ما از تعظیم یا چنانچه بیرون آید که میسختی درون ما زتر کن عیاد با الله
سرف ابدان

بانت در شوم بنظم ربونی مانون و صامت رضی الله عنهما قال الله تعالی و بی

مریم و قال الله تعالی و فصلنا هم علی غیر ذنوب خلق تعسیر المعنی فی فصلنا هم با هم تا هم لم یذنبوا

و لیسین یا بی عالم می الله عنهما که اگر الله تعالی و من ذریه و اولاد و اولاد و اولاد و اولاد

و هارون و کذا است بحسبین و ذکر با نومی و علی لایه بی که معوم علی ان از نیت سرف

الام ۱۴۱۰۰ جعل من ذریه نوح علیه السلام و هو لایه بالام و نه و اجنت بجمع من انکران

اولاد العالم اولاد رسول الله علیه السلام قول رسول الله صلی الله علیه و آله و سلم که عرفت

فرشع الامم غیر الدین الرئی مجزاه علی ان کس کلیم علی ربه و اب عن الغفوا و غیره هم که لک و غیر هم

عقبات

۱۴

بانی

۱۵

۵۲

و در او به بل بنی الحلاله لادن با وجود ^{خس} شرف ایشات ^{شرف ایشات}

الجدیت الاول فرمشارق و الملاح و شرف هجوة و الادرو و مانج الابیر و غیره کتانی مار فرنگ

و متفقین کن بامد و عمره و فان سکیم چنهما لن ینبو علی لهدی ^{شرف ایشات}

الجدیت الکتان فر اکتان ف الامین مات علی بنی آل محمد مات کافر لولا ان مات علی بنی آل محمد

چا بوم القیامه کتب بین یونس من بکر الله الا ان مات علی بنی آل محمد لم یتم کما لکنه ^{شرف ایشات}

باب سیم ذریات اولاد رسول صلی الله علیه و سلم قال الله تعالی محمد و آل محمد و المسلمون و اولادهم

القریبی الایه ای ذوالقریب یعنی مقدر که ده شده اند بر همه مردم و یکدیگر زیرا که مقتدا می دینند

فی مکنت و یقیدمون علی سائر الناس لانهم اسوه ای مقدره ^{و در المذبح}

و یقیدمون علی سائر الناس ترجیحاً لقرابته ایسی کی آمد علیه السلام قرابتی و فرزندی مصطبر ^{و در المذبح}

بسم الله الرحمن الرحیم

و علم و تعوی در صحت استیا حاتم است احمد لعل اما امام ابو القاسم ^{رحمته الله}

از ان کفایت که در عاز کونید ای بار خدا یا بر اولاد و همه در و کوی هجرو عاز استکبار

کنند بر این و نمودر بجا و دولت و مال و مملکت شوند و اگر بر سر کار بودند برینند لعنیه بر این

الابن الاموات على جبال محمد ماتت يا ابنا الاموات على جبال محمد ماتت سمية الاموات

ال محمد بن زوال الى الجنة كما تنزل الغرس التبغ وحب الاموات على جبال محمد ماتت سمية الاموات

الاموات على جبال محمد جعل الله تقابره عزرا لا تكثر الرضعة شرف ابدا العسما

قال بهال الله سي انه يسلم طوبى لمن ماى حبت ابنت اوله لا تكثر سمية الاموات

العمال ورايب اذا رافذو ووجوه على ابدا واطحوا يستعجلون فغلب الام على امرهم بالاعظم

صلى الله عليه وسلم واطحوا يستعجلون فغلب الام على امرهم بالاعظم عيط العمان

و فرسالم السران فضيلة لا بافخرة الابناء كروستور الحيات و جبال السروح المتقعة والبدرة

واما صل خلفا الالى على ترتيب محله فنه فبعد هم اولاد رسولنا صلى الله عليه وسلم على كاهن الاموات

باتفاق اولاد ابا القاسم من رسول الله عليه وسلم و شرف اولاد خلفا فقه جلفوا وقال بعضهم لعقولهم

شرف ابدا العسما قال النبي صلى الله عليه وسلم انما ابدا العسما قال النبي صلى الله عليه وسلم انما ابدا العسما

قال النبي صلى الله عليه وسلم كل مولود له على الفطرة فاعلم ان الله خلقكم على الفطرة فاعلم ان الله خلقكم على الفطرة

قال النبي صلى الله عليه وسلم و هو انه لا تفرقه بين ابنته و جوارح ابنته كى شرف ابدا العسما

وقى اعلام الله و طيفه اشبح اسحق من كان فخره حب رسول الله صلى الله عليه وسلم لا يذم من يحب لاده

و على ان الحسن والحسين اولاد علي بن ابي طالب و اولاد علي بن ابي طالب اولاد علي بن ابي طالب

قال النبي صلى الله عليه وسلم انما ابدا العسما قال النبي صلى الله عليه وسلم انما ابدا العسما

انجوم ابدا العسما قال النبي صلى الله عليه وسلم انما ابدا العسما قال النبي صلى الله عليه وسلم انما ابدا العسما

شرف ابدا العسما

9

اذا اخذوا واطحوا

10


11

ابدا العسما

12

انجوم ابدا العسما


چنانکه کتب از ایشان نشاید یافت کردن همچنان که در ابوعلوی تقدیم شد به الحداث الاول فرخنده

انتهای کسوف النجوم از تالیف امام شیخ ابوالفتح و همی تو بنده نوبت اول از کتب فرخنده ابدان 

لذی بنی و افاضی بوی حکیم و اسرار غنی و غار هم و بلیغ بقدر پستی منصفی صلی الله علیه و سلم فرموده اند

چهار کسوف که ایشان در اشاعت کنند سه روز قیامت اگر چه آمده باشد مکنها

روی زمین یکی که مردانند اولاد کن دویم بر او ندهد چنانچه ایشان کسوف گویند


که با ایشان چهارم ذوبت دارند و هر ایشان زنده بول جان و زبان و فرزند ایشان بدل 


و فرموده در هم علی الور فیهم الی تی یعنی اولاد رسول صلی الله علیه و سلم محبت نامه بطنی زکریا

بمقتضی ادب است که از کتب اول است که علم بر جلاله و القوی قول است در هم حضرت محمد ^و

و بعضی معصوم سادات گویند که در کسوف ایشان درین ایشان

کسوفت قرب ایشان با کلمات و عمل عسرت هر که در اینکه آفریده اند این نواب است

والله بدینست فرسوف ابدان همی 

الحديث الاول من کتب الآسمیات می چیل محمدات مؤمنه الامن مات علی جبال 

7.

8.

در سلسله شصت مطهره نژاد و مملکت نیستند و بیضا و کهنه سکن و با در

و اتفاق در میان بنای غلام محمد بنان ذوالحرام بعد از بیضا و رسول است

عبدالمطلب بعد از خلفا در ششون از بعد از خلق اولاد رسول صلی الله تعالی علیه وسلم بعد از آن اولاد

اولاد اولاد اولاد اولاد رسول اکرم صلی الله علیه وسلم علی ترتیب بیضا بعد از آن با بعد از آن

الایمانی سلواتا

الی ما سلواتا غیر از آن که باشد بحر ایلایه و در بین مورخین از ذوالحرام و بیضا اولاد که درین سلسله

تعظیم حضرت رسول صلی الله علیه وسلم و کتب معتبره اند که در سلسله بیضا و بیضا در سلسله بیضا

در همین مورخین است که حضرت رسول صلی الله علیه وسلم در سلسله بیضا و بیضا در سلسله بیضا

نفس ظلمی است بیضا همان لازم باشد که بیضا و بیضا در سلسله بیضا و بیضا در سلسله بیضا

اولاد بیضا که در سلسله بیضا و بیضا در سلسله بیضا و بیضا در سلسله بیضا

توزیع بیضا و بیضا در سلسله بیضا و بیضا در سلسله بیضا و بیضا در سلسله بیضا

و بیضا در سلسله بیضا و بیضا در سلسله بیضا و بیضا در سلسله بیضا

ما قولنا الا لعلماء الاسلام

بسم الله الرحمن الرحیم

و اتفاق در میان بنای غلام محمد بنان ذوالحرام بعد از بیضا و رسول است

عبدالمطلب بعد از خلفا در ششون از بعد از خلق اولاد رسول صلی الله تعالی علیه وسلم بعد از آن اولاد

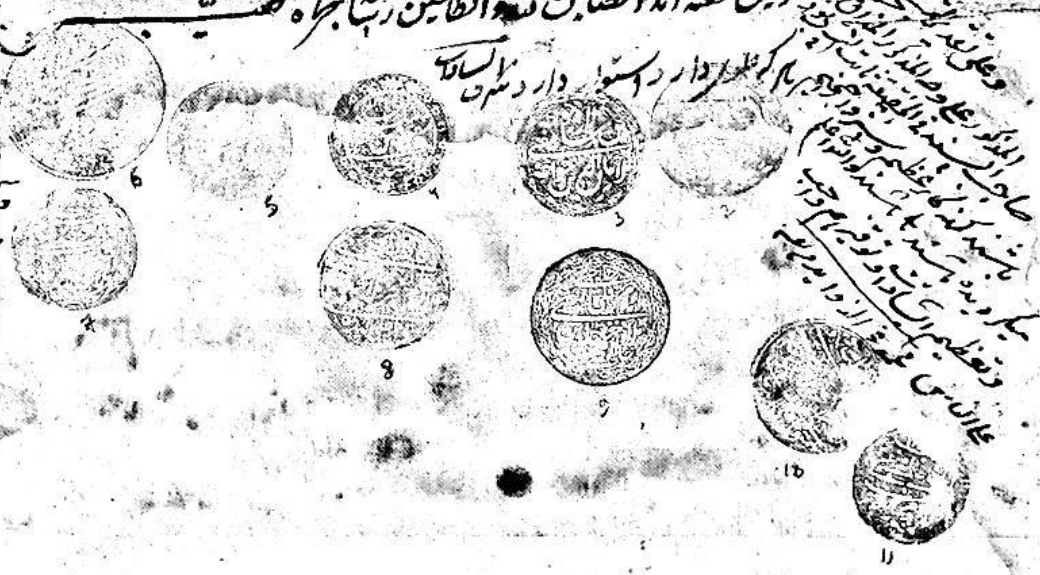
اهل بيت فرسانا و قد اجمع الائمة و الائمة على انهم افضل من سائر خلق الله
 الالهة و سائر الخلق و هم في كل عصر ائمة و سادات الخلق و سادات الانس و الجن و
 بني اسرائيل عليه و سلم و هو اولهم و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم
 فتدبروا و فصل اولاد فاطمة و اولاد ابي بكر و عمر و عثمان و علي و
 عنهم اخيرة الطاهرة و الذرية الطيبة الالهة و الهة عندهم و طهرهم تطهيراً
 سجع اماناً و اوجب على الائمة و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم
 فخرج و له القبول و اجمعهم و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم
 سيد و هداية و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم
 خاتمة و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم
 و من قال اننا سيد فقال الاخر كسبت فهو اثم و يجب بموته القتل
 و ان كسب خود را علو كوي قبل از تحقيق استوار دارند كسب سادات
 و من مات على نقض آل محمد مات على نقض آل محمد شتم و تحقير
 لثقت و يمانية خون كفر و جرم بالنتوة و تجديدهم و انكسار اجيال و سواد
 العلو فضل من العالم و ان كان اميالا من اولاد اهل الله و سلم ان يكون
 الله صل الله عليه و سلم فضل و شرف من المخلوقات و اولاد اولاد كسب
 فادري بانه و انكسار فضل على كسب القبيلة و شرف رسول الله صل الله عليه و سلم
 محظوظ به لا يجوز لاصل العالم او لغيره ان يكسب في حق كسب الائمة و اولهم
 و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم
 كسب سادات و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم
 انكسار و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم
 و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم و اولهم

الحسين
 بن علي
 بن ابي طالب
 بن عبد المطلب
 بن هاشم
 بن عبد مناف
 بن قصي
 بن كلاب
 بن مرة
 بن كعب
 بن لؤي
 بن غالب
 بن فهر
 بن مالك
 بن النضير
 بن كنانة
 بن خزيمة
 بن مدينة
 بن سعد
 بن عبد مناف

اهل

بوده باشد و در هر مکانی که حق تعالی بر آن علیه ایچ هر ملک
 واقعات منجلی عالم معلوم او لعلو عولور قاصد ابه الامتاج المصنوع
 الخط محه قویه بدیته کانت او قدیته لامور الدنیا کالوثیقه لکسرعه اولاد امور
 للاخرة کشجرة البساتین و ما کنتم فیها منکم یجب ان یوخر جم
 مکان لغرض الفسک المسجل فاعلم ان السامین لان حکم القاطن ینفذ امره
 و مناطه قاضیاً و القضاة لعلی ما لکنتم لدر رسول الله صلی
 علیه و سلم الی یومنا هذا من غیر تکبر و کان کن بالهک کتابه شیخ السبا
 اللاحق صد اب المجلس العلماء لان الی علم عم اولاد علی سادات ان ذکره اولاً
 ایشان عین عرفان و عبادت ایشان فی نفس کفر و کفر ایشان که سادات اولاد
 و وجه اعیان عالمند از حرمت و در دار ربیب از این جهت که خواج
 و زمین گفته اند انصارین شعبه الطالین ربیب شجرة طیبی

العلماء
 و جمیع
 و علیه
 تاج الاسما



4. جب ایبادات فضل العبادات و بغضهم عظم استیا کفیه و لما کما جب
 اول لب فرما لانه و قد حج الاله و لانه کما کما بعضه کما

و کما ان شجرة طیبی
 و کما ان شجرة طیبی
 و کما ان شجرة طیبی

و علی قدر
 صاحب المذکر
 و علی قدر
 صاحب المذکر
 و علی قدر
 صاحب المذکر

والوالد قطع الولد تعلم تعظيم الوالد وحقه بحقير الوالد شانه و...
 صحاح النيب بر جميع مسلماني الامم واحترام ايشان واجب بر اول
 عليهم السلام اگر مواد لادی القابلین شدو الطالمین لی و بجز آیه که
 اتنا یرید الله لینهب عنکم الکرهین بن بیت و بظهر کم تطهیر ادا الله
 و علم بالصدور

ما قولهم الامم
 علی جماعتهم
 الامم الامم الامم الامم

در همین سلسله که جماعه سادات کام از انجمن اولاد

الاحترام حضرت امام باقر علیه السلام که ابنا عن جده علی بن ابی طالب
 ماضیه در نزد حکام موفو و محترم بود و در شجره طیبه علویه با سلسله نیا ایش
 متصل میگردید چنانچه با تفسیر نسیب به مکتوب شد قضایه استرام
 و حکام ادلی الاحترام خویش خود بار در این نسیب فرموده اند که الحال
 در ایدایش است **حرمیت مطهره** غراب بنویسند و در انها القای

در شجره مذکوره بر بنفیسون حجت شرعیه بوده عزت و احترام و تکریم
 سادات مذکورین بکافه نام لازم باشد و امانت و استحقاق انجمن
 موجب خیران اید با سلسله و نیز ایشان مصرف خراج باشند و وجب
 باشد بر من له الولاية که خواجه از خیر ایشان را باری که از نزد حکم طریقه
 بوده باشد و در مکالمه حق تعالی اما در این...

چونکه عند انکار بودن ما کرده شده که از کبریا بر ملازمت اولاد سابقین و بعد از انستما در انما
 کسب السیرة المعتبرة حکم کرده شده صحیح الیه اولاد بودن انما حکم صحیح حاشیه
 نخبه مانند کسب استند ثواب انکار و سحره اولاد و آفرین زود جافعی ملا صدق کوزنایت
 شده و نیتق مزید هم بود قضاة اولاد و حکم ذور الاجتهاد نیتق یافته و اجاد مرتقا
 خواجه مدکور نسبت اولاد خود ضایع نشود و کویله احادیث در تاورج ما محمد اول اول
 ۱۲ ساله انرا از سعید و از دی بود که از بالای شیخه انما امتساح گرفته بعبه
 ۱۵۹۶ و در دهه ۱۲ زیاده نوشته ضعیف کرده که در کتب کبیر و الورد



انقلوا فی کتبنا فی فضلنا و کتبنا علیکم و
 الحقا الاشدون و بعد هم اولاد رسون صلوات الله علیه و سلم ثم اولادهم علیهم
 لان ذمهم الله لا یفعل الا بائنا و مقاصد الانباء زاهدی و عتق اولاد

2.

بوضار ارباب دین و دولت و بزرگان تقاضا و ملت خفی و پسر میادگی
 از کسانان خواجگان متوطنان امام شاه قلیله مزار فایض الانوار جباری
 خواجگان و دوسف صاحبان این و اسما خواجه این و اسما خواجه این
 مذکورند پس همانند سر مساق اینان چه کما ملین و نشانی خوار
 و فرزند خوار و از سر خوار اینان یک پسند اعجاز
 و از نشانی خوار مذکور یک پسند شال خوار و از فرزند خوار مذکور و
 ابواب خوار و در سونوا خوار اینان مذکور در صدر رسیده صحیح است
 اول حضرت رسول اکرم صلی الله علیه و آله بودند از آن پس چنانکه سند عالی و
 سر عدالت مذکور در آن باغت این است و یونان الیکه و سوره اخلاصی که
 اینست که نامهای ابا و اجداد بزرگ ماضی و سادات ما تقدیم زمانه است
 تشبیه باین حدیث نبوی صلی الله علیه و آله و سلم *الولد خیر الوالد* قطع است
 الوالد بنو عبیداسر آنها مقدم کرده است بر ضایح حکم عطا و قضاة ذوالاکرام
 و علماء اسلام عاملون و علامتا بر سایر خوارهاست و توفیق میابد که در تاریخ
 ماه ربیع الاول ۹۳۰ هجری در دو صد نود و دو روز شنبه شب عالی نام
 برده شده که در کتب در ذوقی ملا صایح *رحم صوف کوا* در املا بر
 و در عین صفت خوار و ولد ملا شمس بر کد این معدل و مقبول الشهادت بودند
 چونکه عندانی رسیده نام آورده شده که از کتب ملا زحر و ملا شمس و ...

ويعلم ان هذا الكتاب قد تم تصحيحه وراجعته
على الامام والابجد
والله اعلم بالصواب
في يوم الاثنين
العاشر من شهر
الرمضان سنة
١٢٠٠

حضرت عظام الكدور ومع ذلك از جمله شیخ المسایح حضرت امام شانه قطبه مرزا باغبی الاول
 نوره الرحمان رضوان حدیقا عنهم کما ان سبنا تام وعلاقه دار از قدیم الایام الی
 بند الهکام ابا وجد ابنا بعد بلین از سلطان ماضویه و حکم علیه بودند نذورات و هدایا و
 ان عطیه علیه نام زد شده از از وجهین مذکورین از ابتدا مجال تا اینکام اخذ نموده
 کرده اند ~~سند مطهر غفر بنوی صیاد الله علیه وسلم~~
 علی شایعها الصلوة والتجهه در منصوره رسد و ولایت بابک مراد صاحب السند
 مذکور که نذورات مذکوره را در هر شهری و در هر بلده فی انی مکان موجود یا بنده اخذ
 بجوای خود با کیفیت شایع و مخرج نمایند و علی تقدیر الاخذ و تعرف الاخذی علی ما و
 بلا سند کسری منع نموده ما اخذ از استه داد نموده اخذ نماید اسطفا
 و علی تقدیر التسخیر و الهزل علی اسند المذكور و به المراقب حوخته سند صاحب السند
 فی الحقیقه ثابت بوده بابک کنگه و عظم و اسرا و از حجیم جمع سیده بابک
 اسطفا سور و توفیر نمود و رسد و باشد واحد علم



النذورات المخصوصة فیها
 فان مات منتقل الی ولده و ولد
 ولده بطریق الارث جوامعها

بجز آنکه در این اسطفا او نایب علی عمل من اعمال اله نبویه و هو منصور علیه و الاخر
 پس فی یه شی من اسند فصاحب السند اولی و من تعرف علیه بدون اسند فموقوف
 الاولی والایق فی نذورات مقبرة اولیا الاولی
 ولا يجوز اخذ بالاجنبی ان یتصرف فیها مع وجود اولاد المذكور حتی یتزوج سلا و اولاد ان
 یتزوج الا اجنبی عن التصرف فی نذوراتها فی حیطه و النذورات الهیئة فی مشایخ صواب
 السند فی مقبرة الاولیا و المتقدمة بطنها بعد بلین و لهم الاخذ النذورات المذكور
 و تعرف فیها

النذورات التي باوت الناس بها
 مما قبوا الاکسباخ کما ان
 يعرف علیه من عاقبویم و لا
 بعض من بعض الارباعم و
 عمده الاحکام

و من ارباب نمودم بد ایند که من درین شامه دو اعظم میگذازم یک از دیگری بزرگ است
 قرآن و اول بند من بعد از آن من با آن دو هر یک سکن خواهند کرد و در حق حقوق آنها کونه
 خواهد بود که آن دو هر یک یکدیگر خواهند شد در لب جوش کوزه من رسند **در اول باب**

13.

بسم الله الرحمن الرحيم
الحمد لله الذي جعل في
العلماء نوراً يضيء
الظلمة و يهدى السالكين
إلى صراط مستقيماً

خواجگان مشروطه حضرت امام شاه قطبیه مزارها بغیر الانور صحیح النسب در اول حضرت
 اکرم صلی الله علیه و آله بودند ظلمت الشمس جفا می پسند و نتیجه اینست مذکور تا طی سبب آن
 افضل از عالم و از خلوتی و از جمیع سایر انفس با بسند اطراف آینه و و تو هر باشد
 و ائمه **ع**

14.

العلوی فضل من العالم وان كان امثالاً من اولاد الرسول صلی الله علیه و آله و سلم و فضل و آبر
 من المخلوقا و اذ اولاده لمكان الجلالة فتاوی ربانه و العلوی فضل من جمیع القیود

بسم الله الرحمن الرحيم
 الحمد لله الذي جعل في
 العلماء نوراً يضيء
 الظلمة و يهدى السالكين
 إلى صراط مستقيماً

بسم الله الرحمن الرحيم
الحمد لله الذي جعل في
العلماء نوراً يضيء
الظلمة و يهدى السالكين
إلى صراط مستقيماً

15.

خواجگان باکنان مشروطان قریه امام شاه قطبیه صحیح النسب از اولاد
 حضرت عظام الله و ...

در شرف النبوة آورده که حضرت رسول صلی الله علیه و سلم فاطمه از ان باز نام آوردم
و در وقت و اشتکان از دوزخ جدا گشته اند لان اعظم فضل و اعظم مغیر لفظونه سرور
الجیدت از اربعه الشارق و الهدایه و النافع و الهادی ابان فاع ان الله صوم قد طرد ال
محمد فاما بی من روح الناس و عوهم منهناس النور
شرفات ادا

الجیدت اشکاف الکشف فی اللهم صل علی محمد و عتاه از داج و ذریه ک صلیت و علی ال ابراهیم
انما حیدر مجید شرفات ادا و شرفه الاسام فی بار غیر و تقدم اولاد

بهر لاشی و جلوس فی فیة ایضی فی با الحکمه و اعظم اولاد رسول صلی الله علیه و سلم و بعرفه و حکم
و بحکم فی قلبه و شرفه و تقدم علی نفسه فی کل شان فی تشیح امام فخر الدین فری الله عنهم لاجز
لا یزل الهم و یستقرن مجلس فی الله الای و ایدیه لای ان هودة ذاک
شرفات ادا

در بیان جملہ الفتاوی و دلالاته من مولانا با جلاله مخلوق من فاعه که اوله العلویه من جبار غیر
او بکنج لایه خل ملک مولانا با جلاله بجز ربیع کرامه و شرفا طهره محمد رسول الله صلی الله علیه و سلم
دلالت فی حکم اجد من اشخ الفتاوی القابیه و له الصلوة من جاریه غیر خاص لای فضل
مولانا با جلاله بجز میده فرج جانب الایب عمت با جلاله محمد رسول الله صلی الله علیه و سلم و علی ال که

و صاحب جمیعین شرف الایات

اعوذ بالله من الشیطان الرجیم و لایستوی محنته و لایستوی بموا بوشیت و یسک و بد در مجازات
و مکافات و در تفسیر و وطن بن عین مذکور شده که در حینه دوستی ال محمد صلی الله علیه و سلم
و الکها و اعتما و سینه و شمره و شتر از ایشان
تفسیر مولانا بن علی

در و ابی انکه حضرت حضرت رسول اکرم صلی الله علیه و سلم فرموده اند که مرا کو یا علم بالانوار
و من اجابت نمودم بد اند که من در ان عطا

ومن ذرية داود سليمان واليوب ويوسف وموسى وهارون وكذلك نجح الحسين وذكرنا وكثير من
الائمة حتى كرمهم ليس على ان ائمتنا شئت من قبل لام ايضا انه جليل من ذرية نوح عليه السلام وهو
الابلام وهذا حجب حجاج حين انكر ان يكون اولاد الفاطم اولاد رسول الله صلى الله عليه وسلم

دليل الله على عام كحرف شرف

والتادات من لهما
وشرح الاله فخرنا الله الرحمن كل عام بقية مراتب عند الفقه وتفرم كذا لاول شرف
الاشرف والعالمة عنهم طرف اللطراف في خط الالفاطم بخذ كان هو الفقه واطول لا يزال تبارك
واجرا العصالان شرف الكون في نبينا صلى الله وسلم وشرق الغر زول بعيم الاجتبا
فضل كيرم بر جند عالم وذا بد باشد اگر عجز بود فرزندش با عجز كفو بود وعلو را كجرا حتى بود غير با
كفون فضل كير عالم نوديك لعبر ورتبيله خود ما من رتب نبى ائمتنا در اس و جن و جايك
در جايك حجام علو ورتبيله قبايل فاضل رت شرف مولنا صلى الله عليه وسلم فضل در باب سما و صفا
چنانچه آيات و اشهاد فضائل نازل است لعون مايم نيز در سا ايشان و آيات و اشهاد فضائل رتبا
ولكن در زام و نجات ، سبحان لفض صرح و حديث صحاح ذكر رتبت بلكه مجمل طراح اش را
رعابات فرموده است كمال مولنا صلى الله عليه وسلم كرام اولاد الصالحين الله والطييبين

شرف الادات

الحديث الاول في الكرامات الحسين فاضلان في الدنيا والاخرة وابرهم غير منها وفيه ايضا
نبيا من آل ابي ابيهم عليه السلام شرف الادات

وذا الله استودر الحقايق لا يجوز زوال الايمان من الالباب عليهم السلام واثرة المكرة زوال
الله على جميع اولاد رسولنا صلى الله عليه وسلم واذ اصد واجه و ابن بدر و صد ابن صير
وامتاع به الشهادة و ايشاره على رسولنا صلى الله عليه وسلم واذ اصد فيقول النبي صلى الله
عليه و هو يكون كمال امامي حتى يبي الصحابة والمؤمنين لا يقول لاص بعينه انه من آل الجنة
او من اهل النار واما في قول من مات مؤمنا فهو في الجنة ومن مات كافرا فهو في النار

المحدث الأول المشرق والمغرب وشرف النبوة والهدى والهدى والهدى والهدى
 كتاب الله وقرآن من كتبكم منها من لينون من بعد
 شرف الالهات من بعد

الحديث الثالث ذاك المشرف الا من مات على بعض آل محمدات كان اولاد من مات على بعض آل
 محمد جايم القياية كتبت بن علي بن محمد اس من رحمة الله الا من مات على بعض آل محمد كشمس الجوهرة

شرف الالهات من بعد

باب يوم ذريات اولاد رسول صلى الله عليه وسلم قال الله لك خمسة وللرسول كذا القرالاية
 اي ذرية القرية بغير مقدار كده شد انه بر بمر دمان و بكر زر اكر معتد ادين انه ذالك شرف
 ويقدر من على سائر الناس لانهم اموه اي قده و
 ويقدر من على الناس زوج القرية النبي صلى الله عليه وسلم قرآني و ذرية مصطفى صلوات الله عليه وسلم
 از علم تقوى راجح است تا ماه انشا الله لك ان اهم ابو انهم بغير ما نيد عجيب من اعجاب
 كسب است كه در نماز كو نيد اي بار خدا يا بر اولاد محمد و در كوي و پيران نماز است كه كند
 برايش و مغرور سجود دولت مال و مملكت شوند و اكر بر كعب رود به بنسبت لغت و پيشان
 و اكر عرض تعريف كنند جواب ندهند و اين خاصيت خاصه فرعون است و خلاف با كنند
 و انار كيم الا على كو نيد و نه اند كه اين آيت كه بجه مغرور و در شده كه ان بيشرك يك شديده
 يعني كفتن خدا است سخت با ما موافق قال كن يا قال را بواش حال كن تو اكا ذرا خط
 با خانه دان ايشان بيشتر تا شرم بشن كروي يا چنانچه در درون نماز ميكويد و در پيران نماز
 قطع يا چنانچه پيران است كه در درون نماز نيز كن عباد الله
 شرف الالهات
 باب نجم در ثبوت هيب علوي بسوي فانون قيايم رضا الله عنها
 قال الله تبارك و تعالي و ما من موم قال الله لك و فضلنا هم على كثير من خلقنا تفضيلا
 و ان الله اعلم بما نتم نعموا الحسين و بنو علي ما طره رضا الله عنهم و عن غير الله عز وجل

و في الدعوى على الورق فمعلوم ان ما يقع اولاد رسول صلي الله عليه وسلم حجت الله برطق زركه تحقيقاً
 و ذلك كما اقول لا اسئلكم على اجراء المودة في القربى قول الله عز وجل من غيرهم ومن بعضهم
 معتمدين بغير ايات كذا وهي انه قد استبيحت ايتان دين ايتان كلفت و قرأتين بايتان
 و محل عصمت هر دو اينند استبرئ انما ايتان استبرئ انما ايتان استبرئ انما ايتان استبرئ انما ايتان
 المديت الاول من الايتان و الايتان استبرئ انما ايتان استبرئ انما ايتان استبرئ انما ايتان
 الايتان الايتان استبرئ انما ايتان استبرئ انما ايتان استبرئ انما ايتان استبرئ انما ايتان
 على ايتان استبرئ انما ايتان استبرئ انما ايتان استبرئ انما ايتان استبرئ انما ايتان
 استبرئ انما ايتان استبرئ انما ايتان استبرئ انما ايتان استبرئ انما ايتان استبرئ انما ايتان

قال رسول الله صلي الله عليه وسلم طوبى لمن مات في حبه و اهل بيته او صل بحبه شرف ايتان
 العمل اذا اذنا و اذنا و اذنا و اذنا و اذنا و اذنا و اذنا و اذنا و اذنا و اذنا و اذنا و اذنا
 صلي الله عليه وسلم و يعلم و عسرة لمن يحسب ان تغزير البليغ و الوجع
 و في معالم اهل فضيلة الايتان في الايتان و في و استبرئ انما ايتان و ايتان و ايتان و ايتان
 و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان
 و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان
 و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان

شرف ايتان استبرئ

قال النبي صلي الله عليه وسلم كل مولود يولد على الفطرة الا ان يمجس او يمجس او يمجس او يمجس
 قال النبي صلي الله عليه وسلم اجاب الله لانه من يمجس او يمجس او يمجس او يمجس
 و في اسلام الله صلي الله عليه وسلم في حبه رسول الله صلي الله عليه وسلم لا يله
 من حبه اولاده شرف ايتان و عينا الفريان حسن و حسن اولاده فامر الله صلي الله عليه وسلم
 اولاده و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان
 و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان و ايتان

الارض و بعدون شرف ايتان استبرئ

المديت الاول في الشارح و الما صحرش : ان ...

اولاد رسول الله استقام بنفس رسول الله بشارة الطيبات بنوا قحور و اولاد عبد الله و اولاد رسول الله صلوات الله عليهم

ما فوقك يا رسول الله

و اجمعوا اهل الحق حرم الله تعالى ان يفضلوا بترتيب افضل العالم محمد رسول الله صلوات الله عليهم
ثم آدم عليه السلام ثم اولاد نوح ثم اهل بيت رسول الله صلوات الله عليهم و سلم و ساير اولاد
ثم اهل بيت نوح ثم اهل بيت ابراهيم ثم اهل بيت اسحق ثم اهل بيت يعقوب ثم اهل بيت اسرائيل
و من خلف هذا افضل سوا اهل شرف الالهة و امر لنفسها

در آنچه شرفيت مطهره غرض شرف اولاد سيدان بان اولاد و اولاد شرف حضرت صلي الله عليه و سلم
و ما بالذات لا يذول بعمره كغير الطيب بنوا قحور
زيرا كه شرف او صاحب است بس حضرت صلي الله عليه و سلم و ما بالذات لا يذول بر چند جناب كه
چون قطع نبتي نشود شرف اينك زایل نكرد و تفسير امام ضياء كه بن بست بر محمد صلي الله

في شرف الالهات

در روايتي آنكه حضرت رستم بن هكاه الله عليه و سلم سادات را بر ابرو قرآن ذكر كرد و در آن وقت
چند نوح آيات قرآن بر ساير كتب قابل ندا كه هر حكيم و حكيماني و ديودي از معاني فرود
بائسي كه ذلك على افضل رسول الله صلوات الله عليهم بعد از خلفا بر ساير مردمان قابل ندا كه كافران
و اينكه نوحا چنانكه كتب ابرو قرآن نشاء يذوقم كردن همچنان ديگر بر ابرو علو تقدم نشاء يذوقم
اولاد اخبار شما و شرف النبوة اربعه شفع يوم القيا و لو ان ذنوب اهل الارض كم كم و ان شرف الالهات

لذيتي القاسمي لولا محبهم و ابا عنده منظر ابرهم و محبهم بقبلة نبش اعين مصطفى صلي الله عليه و سلم
فروده اند كه جبر كس اند كه ايشان ان اشفاعت كنده ام روز قيامت اگر آمده باشند
بكنه هاي روي زمين تا كه در آورنده اولاد من دوم بر آورنده جاتا ايشان هموم كوشنده كار
ايشان چهارم درست دارنده مر ايشان نرانه بول جان و زبان و شرف الالهات

حب عبادات آل العبادات و بعضهم عظم استجاب گفایه و لا کانه حب است
 فضلا از مادد حاج الاله و الاله که ما کون من بعضه کانت شرم طیبه الاله شرمه از
 و هم نه کس محرابه و خلق عبادات اکس کيفه لا و بنی علی الله علیه و سلم
 و آخر ابواب اسم و در فضیله برضا هم و فیض بفضله فتا و در رسه و بعضا اولاد
 اولاد ابوبکر و عمر و عثمان و محمد و محمد بن ابی طالب و در الذریه الطیبه اذ هب الله علیه سلم
 قطبیا عس الاملا الواجب الام تولى اخراج بقیه اولاد و غیر هم من این اخراج
 و هم القبول زاهد رسه و لا بجز از اخراج من العکس سید و هدایه و لا بجز
 اخذ اخراج و غیره من العکس و انوشی نهایی و لوقال لیسید علی بن ابي طالب
 ثبت نسبه کما سرفان ات و من قال اما سید فقال لا احب سید
 منوا و کما صیغته العباد و اگر کسی در عکس اولاد که بعضی استوار دارند سرفان

و من است بعضی از عبادت که از دنیا تا بعضی از عبادت که از دنیا تا بعضی از عبادت که از دنیا تا
 دنیا تا بعضی از عبادت که از دنیا تا بعضی از عبادت که از دنیا تا بعضی از عبادت که از دنیا تا
 ان رسول الله صلی الله علیه و سلم و اولاد ابی طالب و اولاد ابی طالب و اولاد ابی طالب
 که در عکس سید و هدایه و لا بجز از اخراج من العکس سید و هدایه و لا بجز
 اولاد ابی طالب و اولاد ابی طالب و اولاد ابی طالب و اولاد ابی طالب
 و من است بعضی از عبادت که از دنیا تا بعضی از عبادت که از دنیا تا بعضی از عبادت که از دنیا تا
 دنیا تا بعضی از عبادت که از دنیا تا بعضی از عبادت که از دنیا تا بعضی از عبادت که از دنیا تا

در نسبه شریف مطهره غر او و مبت حسیفه مضیا و بعد بسبب اراج و بادی برود
 و اتفاق رویا شریف علی عظیم و مجتهدان ذوی الاجرام بعد از بنی و رسول خدا صلی الله علیه و سلم
 بعد از مضیا و در شد فلان او بعد فضل خلق اولاد رسول صلی الله علیه و سلم بعد از ان اولاد اولاد
 رسول اکرم صلی الله علیه و سلم علی توجیه بطن بعد بطن و قوما بعد قون ابد الاما و انما انما انما انما
 کبر ایطی یا دورین صورت اخرا و اکرم و اولاد مذکورین مستلزم تعظیم حضرت رسول صلی الله علیه و سلم
 علیه و سلم و غیر آنها بر بخت نبی صلی الله علیه و سلم میشد باشد کبر ایطی یا دورین صورت ال محمد
 و معرفت ال محمد که حسیه موجودات طایفه انند لولا که ما نفقت الاصله قطع است جمع سبکها
 لازم باشد بقر ایطی یا دورین تقدیر امدی از اعداد شخصی از شخصان سمانان اذی و ابا مذکورین
 واجب لازم باشد بوجه کمالین زمان عا مکنه را که آن با ادب تعزیر بیخ و ضریه جمع
 نموده است تعظیم و نمایند کبر ایطی یا دورین صورت اخرا و اکرم و اولاد مذکورین مستلزم تعظیم
 اولاد رسول الله صلی الله علیه و سلم استلزم تعظیم رسول الله صلی الله علیه و سلم استلزم تعظیم رسول الله صلی الله علیه و سلم

خاتم حمه بار در آن فرموده اند که الحال در ایدی این است که
 مطهره غرا و بنویسند و همها الف صلوة و تحیه شجره مذکوره بمصوم علی بن علی
 بوده عزت و احترام تو قدر اکرام سادات مذکورین که کافه نام لارم با هم
 و امانت در استحقاق این جماعه موحرران اند ما که و نیز این
 مصروف خرج باشند و واجب است بدین الولاية که خراج از حضرت
 باین گذارند **الطبخ** بوده باشد و ربه
 مکن در حق بیگ مال برک علی علیهم السلام که کان حق و انما من قال العالم عو لیم او

لعل عو طور قاصدا بیه الا حقا کفر شی الله الخ طح حرة قویه منته کایون عمه لاوران
 کایون بقه اعتر او لاوران لاوره کحیره اذک لایع و ما کایون و ما کایون و ما کایون
 کایون کایون کایون کایون کایون کایون کایون کایون کایون کایون کایون کایون
 و انما یعمون کایون کایون کایون کایون کایون کایون کایون کایون کایون کایون کایون
 کایون کایون کایون کایون کایون کایون کایون کایون کایون کایون کایون کایون
 سادات اند که ولاد این عین عرفان عداوت این محض کفر و کفر است که سادات
 نوزده اعیا عالمند از حرم محمد در پیش از این که حرام گوین گفته اند انما



اداره شهادت تمام است اشرافاً لعلها معتبره حکم کرده شد صحیح است و اولاد بدون نام بوده اند

کمان مذکورین را بایشان مذکورین حکماً صحیحاً شرعاً این بود صورت واقع که بدین

توسعه نظم تمیز یافت بجز من العدل ان القاد
انفساً شرعاً با اعلان افضل الخلق بعد نبينا اللطيف و قبله



الخطا، الأشدون و بقوم اولاد رسول صلى الله عليه وسلم غم اولادهم عارهم
لان مقام افضل الانبياء و رابع دعوتهم الولد خير، الأولاد
الولد استلم معتم الولد و تحفه خیر الولد نشاء در آنچه صحیح است
بر جمع مسلمانان اکرام و حرām ایشان واجب است بفرقه علیهم السلام اگر
اولاد الصالحین و الطالحین و نجس آئینه گویند تا بریدند از سبب است بر
ابیت و بظهور تمطیراً و الله اعلم بالصواب ۱۲۲۰

بسم الله الرحمن الرحيم
الحمد لله رب العالمين
والصلاة والسلام على سيدنا محمد
والآله الطيبين الطاهرين
الذين هم اصحابنا
والمؤمنين و المؤمنات
والمسلمين و المسلمات
الذين هم اولادنا
والمسلمين و المسلمات
الذين هم اولادنا

در سلسله که جماعت کرام از اجتهاد او
الاجرام حضرت امام شاه قطیبه رضی الله عنه که با عن صید مطهر عواطف طین
ماضیه در نزد حکام موقر و مخیر بوده بکبره طیبیه علویه سلسله نسیب ازین
میگردید جناب نجیب بن موسی نسیب مکتوب شد قضاء اسلام و حکام اولاد
نسیب ازین سلسله از اولاد او

3

هذه هي اسما فرعون

ابوالاعلیٰ اعظم و صاحب الحج و اکرم اعدا الملین الزمان و شیخ خواقین لدوران فط
 اربک و ضابط الممالک و شارح الاسلام من الممالک مع البغاة و حار الغزاة بغیات
 ابن استودالدین معین ابن الاسلام و امیرین ابوالفوارس حضرت امیر شاه قطیبه
 مسلم بن عمر بن علی بن ابوالحسن به رایت الاسلام و ارتفعت لوجهر فی روضه الاعضا
 و لوجود فالعدل مریه بجزا مننته و لظلم مریه بحبل القهر مشه و دوانیه صاحب التاج و
 الامیریم و واجب الغر و القیوم سید عبد اللہ الملقب بن فخر بن قاسم بن ابی انبیه بدری
 حضرت شاه ادریس علی و ابیه معارفی استکامی شاه قاسم ابی انبیه شاه
 قاسم عسکری و ابیه امیر سید شاه الفار و ابیه امیر سید شاه رشید و ابیه امیر سید
 شاه قاسم میر و ابیه بدر المله و الہ بن الامام سید مذاب علی بود و ابیه لخصو
 من اللہ بعبقیر الکبری و لم یمنله من الاولی و الامام حضرت علی الامیر قدس کتیر و ابیه
 محمد و ابیه امیر سید اسما و ابیه امیر سید محیی ابیه و جید الزمان فرید الدوران شاه
 اسحاق علی و ابیه شاه امیر سید صلاح الدین و ابیه شاه امیر سید فضل و ابیه امیر سید
 صالح و ابیه شاه امیر سید و ابیه شاه امیر سید عبد اللہ و ابیه شاه امیر سید علی
 و ابیه شاه امیر سید عابد شاه و شاه امیر سید کتیر شاه و از عابد شاه فوز مذی بود و شاه
 ابی جبار و ابیه امیر سید و ابیه امیر سید و ابیه امیر سید و ابیه امیر سید و ابیه امیر سید

بروی سپانان انداز کشوده بطی آمدن داد یکبترانید و تبر و حج
 غرا و روش ملت بهیاسی مخصوص و کوشیش لاقصور مقبدم رسانید و بعد
 انقضای مدت مدید و عهد بعید بنا بر سعادت جاسپان آزمان و نماز آن
 اندوران با تمام صد و چهل و سه هزاران شصت و نه جهان کعب بن اسودام با مرام
 ابن عبد الملک که خلیفه آن ایام بود سلبه کلج آمده بدو شهادت رسانید و محمد
 مطهر و مرقد معبر او در آن مقام لازم الاحترام است و نیز او پیشتر که و از آن
 دین نیا به اولاد او اجناد در آن شهر مانده قرآ بعد قون بطی بعد طین الی یومنا
 نهد او سر فرافیش آنار منبع الانوار توطن در زید خوان الوان طعم و آب شیر
 بزار آن و هفتان و واردان و صادران مکبترانند سلطان لمعقار و خدیوین
 معدلت آنار حکم ذوی الاحرام و ولایة صاحب اجتم هم عصر و زمان مقیمان آن
 بقعه شرف را با حکم و اربانید جهان مطاع عالم مطیع خودها سپر افروز در میان
 کی خلاقی سر بلند و ممتاز کرد انبیه هر کلام بقدر افاضل و معتقد خودند و در اول
 بساکن آنجا میسرانند جز انشم الله خیر الحیاة

لهنزه می ۲۰۴۵

ایشان سعی مشکوره و جهد موفور مبذول داشته از هند قوم بانیست
اینج تقوم درین صحنه قیام نمودند و آن اینست که جناب سلطنت بنای از اول
عربستان از بابل دند پدش مسلم بن عمرو که بقول صاحب جمه یک از اخصایم
محمد بن العابدین رضی الله عنهما علیهم اجمعین بود باعث بر تشریف قوم سچات اوم
جناب مملکت ماوراءالنهر این بود که در زمان خلافت ولید بن عبدالملک در آنجا فرستاد
بامارت و حکومت بلاد خراسان منصوب نامور کردید مدت سه سیز سال
بستقلال تمام بعد از او بنظیم امور ملک مکتب ترمی بهام دین دود آفتاب
نمود و در آوان حکومت خود مردمان همیشه با دجا سوسه با از احوالات هر کلاب
دارر بمالک ماوراءالنهر فرستاد تا از اوضاع و اطوار حکم آنجا خبر دار گردیده بر
سپاکان خط بنجارا و سمرقند کثرت اثر کشید و بقوه بازوی شهامت و

دربانی حضرت مالک الملک هدیه بعد از جنگ جبال بسیار و بس از عهد مراحم
قبیل قال بشیما بقید ضبط و تسخیر کشید و ولایت اورا تیره و نخبه اند جان
اوش و اوزر که کجای خویست و کاسان تا حدود ممالک مغولستان منتهی
ممالک و سر خلافت گردانیده و جمیع تجانه ها و تشکله ها و کنایس را منهدم کرد
بجای آنها بجن و خواری و داریس بنا فرمود و شهر کلج که در الملک کجای
بود در سلطنت خود نموده مامن قامت و محل مامت نموده ابواب و در

در امام شافعی بن مسلم بن عمر بن علی بن ابی طالب بسیاری از صحابه عنوان الله علیهم السلام
 داشتند و تهری و مروی و غیره پنج و ترمذی و تجر و غیره و نمانند چنانکه او شش
 و اوز چند و سه و کند و رونق و باراب و اطرار و کاشغری و اخیسکت و کاتب و بلا سون
 تاجد و مغولیت و مانند اینها محرابها را رسیده اند نخستین مسجدیکه در شهر بخارا بنا
 کرده اند مسجد خواجگان است که از یاد سفارت رحمت الله نخستین مسجدیکه در شهر ترمذ بنا کرده اند
 سعید بن عثمان رضی الله عنه نخستین مسجدیکه در ورواز و چین است و در ورواز مسجد کلرا
 و در حصا مسجد امین این مسجد را حضرت امام شافعی بنا کرده اند و هر شهریکه میگذرد
 مسجد و محرابها را رسیده اند و کرده اند اینها بعد از آنکه بوده آنچه از کتب معتبر چون روضه صفی
 و بعضی اصلاح و غیره ما مرئی شده و آنچه از ابی بخار و در کما بنا در ترمذی است که هر دو
 و همین خبر نوح شوکت نقاده اصل طین سهاله الافطهر بن باخار مردان عدول
 استموا و دید درین صحیفه برداخته میشود تا نسبت سابقه را تا کیدی انبیه
 و مولاد موده لاحقر اما سپه نمیدر ژرد و از آنجا که فاطمه سی مطهر هر یک از خود
 کان فرزندان آن علی شان تحقیق این علی نسبت بان عالی مرتبه تعلق آمیخت
 و هر کدم از اولاد عالمی که در اطراف مدفن آن بزرگوار بقبریه کلج میکنند
 ما یعنی همت را بخدمت فقرا و مکیین بعضی فیض نال و لطف کامل مبرور میشود
 بجز از ش عطفیه سینه و موهبت و کاشغری فضل بسیل و حیان جزلی از
 و نیزه بنت نخبنده بی فیت بروج برفقون آن و الا جناب خیر المآب
 و مغفرت مزخا استند خوانند که شجره کهنه و ذوق عقیقه و تبه اندر است
 این از نو مجد و کشته تجدید تعمیر از معمار تصویر علاج تنویر یا بدین تامل
 ارشاد بسع مشک و حمد مرفوز مندان داشته از آن ممانت

حضرت سیدنا ایام ساه قطیبه کو کلابی اندک اسام تدس ره اغریز الحمد لله جملہ علم اشیا
 من فضل السعادات و سر موتهم من حسن العباداتی و جعله محبته اولاد نبیه و صفه راس کما
 و عدل المشرفات و الامم بحسب استجابات و اسما و اسما علی رسول محمد الودایت
 و علی له و صحابہ و ازواجه الطیب الطاهرین برای سافیه و عقول فیه اولی الالباب و حکم ذوی
 الاقدار و خواص بنی آدم که مکتوم بکرم آیت کریمه که وَقَدْ كَرَّمْنَا بَنِي آدَمَ
 خَشَاهُ وَ شَرَّفْنَا آدَمَ حَلَقْنَا الْإِنْسَانَ فِي أَحْسَنِ تَقْوِيمٍ نَزَف
 کشته اند و اصلی لی یوم القیامه روی قبله آوردن فرضیه است خواجه امام زاهد خرد
 رحمة الله معرفت قبله ادرست کرد اند ازین آیت کریمه قَوْلَهُمْ كَمَا وَمَا
 خَلَقْتُ الْجِنَّ وَالْإِنْسَ إِلَّا لِيَعْبُدُونِ مراد از ما و اول این آیت است
 مرنا کر ویدکان را بگردیدن و کردیدگان را بر پرستش پرستش مؤمنان نماز و است نماز
 روی قبله آوردن فرضیه است هم آیت و هم بخیر و هم باجماع امت آیت این است
 قَوْلَهُمْ كَمَا وَمِنْ حَيْثُ خَرَجْتَ فَوَلِّ وَجْهَكَ شَطْرَ الْمَسْجِدِ الْحَرَامِ
 وَحَيْثُ مَا كُنْتُمْ فَوَلُّوا وُجُوهَكُمْ شَطْرَهُ قَالَ النَّبِيُّ عَلَيْهِ السَّلَامُ طَهَّرَكَ اللهُ كَمَا
 استقبال قبله و قل الله کبر سنله حاضران را روی عین کعبه آوردن فرضیه بقول
 امام مفضل رحمة الله قبله میباشد و نه غربت و متکین بدین حدیث میکند قال النبیه
 السلام القبلة بین المشرق و المغرب علیما رحمهم الله گفته اند که رسول صلی الله علیه و سلم این
 حدیث را در حق این نیه و اهل عراق فرموده است از برای آنکه مدینه بجانب ربهت کعبه است
 چون از آنجا روی کعبه آرد بر قبه میباشد شرق و مغرب و این آنکه حدیث دیگر فرموده است که
 قال النبیه صلی الله علیه و سلم القبلة لاهل لمدینه و اهل العراق بین المشرق و المغرب و ربهت که
 جواب بار صحابه رضوان الله علیهم جمعین بنا کرده اند سعد بن عثمان رضی الله عنهما

القرآن الحکیم
 سوره النبی آیه ۵۸

القرآن الحکیم
 سوره الذاریات
 ۵۸ آیه

القرآن الحکیم
 آیه البقره ۱۴۴

باتسائل الفقه الى اتيان الذوات لانه في موضع جهرا في شرح الله لاجله طرقتي الكفا

وهو اسم اعجم بلا شركة في الضياع والخاص العام لا يعرف من هذا الباب بكثر الا بمعرفه
لان المعرفه بوجه فقط لا يكون معرفه الا بمعرفه الاسم مع النسب لا ترى ان قوله عليه السلام
ان بل تعرف فلانا فقال نعم فقال بل تعرف باسمه ونسبه قال اذن لا تعرفه ولذا لو
لا يعرف فلانا وهو لا يعرفه لا بوجه لا بغيره والفقهاء جوزوا ادواتها في النسب با
وهو لغة النقل من الغير وشرعا الاشتهار وهو حاصل من العلم بالتواتر او الشهرة او غيره ولو لم
قال في الخلاصة ذاسم من انسان ان فخر بن ابن فخر بن الفلاني وسماه ان يشهد بذلك لانه
انما يشهد ان بابا الله فخر بن ابن الى تحافه وماراينا ابا تحافه انتهى انما يشهد ان
اسم على الله عليه وسلم ابن عبد الله بن المطلب بن هاشم ابن عبد مناف بن قصي
كلاب بن مرة بن كعب بن لؤي بن غالب بن فهر بن مالك بن نضر بن نضر بن ابن مخزوم
ابن مكهل بن الياس بن زرار بن معا بن عدنان ابن جحظة جدى رسول الله صلى الله عليه وسلم
عليه وسلم الى عدنان متفقون عليه ابن ادا بن ميمق بن بنت ابن جمل قبدر ابن
اسم على الله اسلام ابن ابي اسيم عليه السلام ابن ازر ابن نيلس ابن بن مخون ابن
ارخوا ابن شريح ابن فلغ ابن شاع ابن عابرا ابن ارفش ابن هاشم ابن نوح عليه السلام
ابن الحكم بن لامك بن هشام بن ارفش ابن هاشم ابن ادريس عليه السلام ابن
ابن مهرايل ابن قينان ابن او كوش بن شيبان عليه السلام ابن ادم عليه السلام
واسم بن مضمون مشون ابن ترقه مرضيه بذكر ابا جده اوزار فاضل الاوزار جليل القدر

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

عَنْ أَبِي بَرْزَةَ عَنِ النَّبِيِّ

صَلَّى

هَذِهِ تِلْكَ مِنْ أَسْبَابِ الْمِيرَاثِ الشَّيْبَانِ الْقَطِيبِ بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

الْحَسَنُ الَّذِي فَضَّلَ بَعْضًا عَلَى بَعْضٍ بِالْحِسْبِ وَاللَّيْسَانِ قَدْرًا وَمَنْزِلَةً عَلَى مَقَدَرٍ

رَفَعْتُمْ بِالنِّسْبِ وَجَعَلَهُ فَخْرًا لِلْأَوْلَادِ عَلَى مَرُورِ الْأَحْقَابِ ذَكَرْتُ تَوَارِثَةَ الْأَعْقَابِ بِالْحَقِّ

وَلَمْ يَكُنْ عَلَى رَسُولِهِ مُحَمَّدٍ مَحْطٌ إِلَّا سِرًّا وَفَضَّلَ الْأَنْبِيَاءُ عَلَيْهِمُ السَّلَامُ عَلَى الْآلِ

وَأَصْحَابِهِ خِلاَصَةً السَّلَامِ تَحْفَظُ دَائِمَةً إِلَى يَوْمِ الْقِيَامِ نَظْمٌ صَدَقَ بِهِ إِرَانُ أَوْفَرِيغَانِ

بِرَقْدِهِمْ هَرَفَرُ زَيْدَانَ أَوْ نَكَرُ زَيْدَادِهِمْ يَا زَيْدُ يَا مَرْجُوبَ كُلِّ بَلَدٍ

شَخْصٌ كُلُّهُمْ سِرٌّ جَاكِرٌ وَيَدِيهِمْ كُلُّ سِتٍّ نَحْمَلُ بِهَرِّ جَاكِرٍ جَوْشَدِ سَمِّ سِتٍّ

أُرْمَعُزْبُ زَيْدِ خَوْرِ شَيْدِ سُرْمِ عَيْنِ جَرِي سَيْدِ حَزْرٍ أَمَّا الْجِدْلُ فَمَنْ تَعْلَمُ

عَلَى الْعِلْمِ وَقَدْ بَقِيَ إِلَى يَوْمِ الْقِيَامِ بَقِيَ حَسْبُ الْأَسْرِ وَقَدْ بَقِيَ لَشَيْكِلُ الْبَقِيَّةِ

بِقَوْلِهِمْ

و ابنه مهر مهندس و ابنه مهر اسفند عمل و ابنه میر کبیر و ابنه و عهد از خان و وزیر
 الدوله شاه اسماعیل و شاه صلاح الدین و ابنه شاه قاضی و ابنه میر صدیق
 و ابنه میر صدیق و ابنه میر عبدالله و ابنه شاه اعلی و ابنه شاه طاهر و ابنه شاه
 و از غایب شاه فرزند زنده شاه ابوالفضل و از وی دو پسر بوجود آمده شاه بابا خوارزمشاه و شاه
 و از شاه احمد خواجه نژاد و فرزند ملک شاه خال خوارزم و شاه خواجه و از شاه بابا خوارزم
 نژاد و جگر کوشه ایست که عمال خواجه و شاه یونس خواجه و از کشته خواجه که در سنه ۶۰۰
 و از وی دو پسر محمد و محمد خواجه و شاه یونس خواجه و از ایشان خال خواجه که در سنه
 ایشان یوسف علی خواجه و از وی چهار پسر از یک مادر و از مادر دیگر یک پسر
 یک پسر بوجود آمده که ایشان را خواجه و شاه لار خواجه و عزیز لار خواجه و سایر
 و دو پسر خواجه و در شهر بزم از پسر خواجه که پسر پسر خواجه از پسر پسر خواجه
 و ناز خواجه و شاه سلیم خواجه از پسر خواجه که پسر پسر خواجه از پسر پسر خواجه
 و عبدالله که خواجه

۱۲۶۱ / ۱۸۴۵

این کتب و احکام بدین ترتیب و باین نظم تنظیم یافت محض فی الاول و العاقله سره



در آن شهر مانده قرنا بعد قرن بطنا بعد بطن لا یومنا بآدیر سر فرافیقش تا رسیدن انوار توطن و در
 خون الوان طوم و شمشیر بزرگ آن و پیا ازان و واردان و صادران میکتند سلاطین
 عالیقدر و خوانین معدت آثار حکام ذور الاحرام و ولایة صاحب حشم هر عصر و زمان میمانند
 بقعه شریفه را با حکام و پیا ایندهما منطاع عالم مطیع خود پیا ازان و در میان پیا
 خلائق سر بلند و ممتاز گردانیده هر کدام بقدر اخص و اعتقاد خصوص مذورات و صدقت پیا اینده

در آن شهر مانده

هاتک اسامی در فروع

الولی الاعظم و صاحب بجد و اکرم اعدل سلاطین الزمان اشجع خواجین الدوران فظالمک
 وضابط الماکک حارث الاسلام من المماکک قاص البغاة و حامی الغزاة غیاث اهل الملل الذی
 معین اهل الاسلام و اسیلمین ابو الفوارس حضرت شاه قطیبه ابن سلم قدس الله سره
 علت بر رایة الاسلام و ارفع و احضری روضه الاعضان و الجود فالعوان من کلمه
 منتشر و ظلم منه یجیل القهر مشد و ابنة صاحب البتج و لده بهیم و و ارجب العظم
 مهر عبید الله الملقب شاه مغل پوش قه سره و ابنة هایت بنا هر حضرت شاه ادب و
 و ابنة معارف و ستمکاش شاه قاسم انوار و ابنة شاه قاسم و ابنة شاه انصار و
 شاه شمس ابنة شاه قاسم مهر و ابنة بر المله و الدن الی که امر مذاب بکون
 و ابنة الفخصور الی طیبة الکبری و لم یکنه من الاولاد و اولاد فرحهر من لایه قدس الله
 و ابنة مهر مهدیه و ابنة مهر اسعلا



خلافت و لید ابن عبد الملک در خلافت شام بامارت و حکومت بلاد خراسان منصوب
و مأمور گردیده مدت پذیرده سال با استقلال تمام بعد از ادب تنظیم امور مملکت ملت و تربیت
مهم دین و دولت قیام نمود و در آواں حکومت خود مردمان بشمار و جاوسان از اجوائ
هر بلاد خبردار را بمالک و وراثت فرستاده از اوضاع و اطوار حکام آنجا خبردار گردیده
بر سپهکنان خطه بخارا و سمرقند شکر نصرت اثر کشیده بقوت بازوی شهبانت و صراحت
و بناید حضرت مالک الملک حدیث بعد از جنگ جدال بسیار و پس از تمهید مراسم قبل و قال
پشمار بقید ضبط و سبج کشیده ولایت و راتبه و خجند و اندجان و اووش و اوزکند کشید
و اسپیک و کاپین تاصد و ممالک مغولستان پیش نموده ضمیر ممالک محوسه خلافت گردانید
و جمیع تجانه ها و تشکده ها و کنایس منهدم گردانیده بجای آسناپ جد و خوانق و مدارس بنا فرمود
و شهر کلج کردار الملک امیر کفار بود در سلطنت خود نموده مامن اقامت و محل امانت نموده اوج
و اچسان بر روی مسکنان اندیا رکشوده بطاعت و ادب کشید و بترویج شریعت غرور و
ملت بیخاستی محض و کوشش ملاقصور تقدیم رسانید و بعد از انقضائت مدید و عهد بعد بنا بر
چاپدان آزان و غمازان اندوران با تمام صد و چوبیله آزان شنست جهان و کعب بن هود نام
پسینام ابن عبد الملک خلیفه آن ایام بود جمله کلج آمده بدرجه شهادت رسانید و مشهود
و مرقد مغربه او در آن مقام لازم الاتهام است و یزار و تبرک به و آزان شاه دین پناه اولاد او
در آن شهر مانده قرنا بعد قرن بطنا بعد بطن لایومنا پدید آمدن فرقی از ما رستگارانه از آن طریقه

رهت میکردند و کرده ایشان بعد از بوده است آنچه از کتب مقبره و چون در وقت
و بجز مصالح و غیره با مرثیه که در آنجا از آنجا و بخورد که در آنجا در آنجا
در چه دولت و در این اختر بزج شوکت فاقه اصلا بل بیان سلاسل
باخبار مردمان عدول مسعود که درین صحنه پیدا شده مرشدان است سابقه را
تا کیدی توکت غیب و موالات نمود و لایق را تا سبب و کلمه کرد و از آنجا
حافظه مصر مطالب بر هر یک از خواجگان و فرزندان آن عالمان بمحقق است
نسبت با آن عالمان و سادۀ تعلیق نام داشت و هر کدام از اولاد آن علما که
در اطراف مدفن آن بزرگوار تقویت کالج مسکن ساخته که سینه جهت را بخندت
فقرا و سائین محضر قضیر شائل و لطف کامل مصروف می داشت بکذا از آن عظیم
و بهیبت عیال و کفایت و فضل سبیل و همان فرقی از زنده به امانت و شنید
بجستند بر و در پیوسته است و الا جناب خیر الایب دعا و مغفرت می خواستند
خواستند که شجره کهنه و وثقه عقیقه قریبه الا نذر اسنت ایشان از نو مجرد
گشته تجدید تعمیر از معمار تصویب علامه تئویر یا بدست آنها نشان سر مشهور
و بعد موافق میند و داشته از سن قدیم بانست فایده تقویم در آنجا تمام مشهور
و آن است که جناب سلطنت پناهی از ولایت اعیان از باهل بودند پدرش مسلم
بن عمر و او که بقول صاحب ترجمه یکی از احفاد امام محمد زین العابدین رضی الله عنهما
بود باعث برشته یف قدوم سعادت لزوم جناب و بملکت باور آنها این بود که در زمان

روی بعین کعبه آوردن فرموده است بقول امام شافعی رحمه الله علیه میان مشرق
 و مغرب تمسک بن حدیث می کند قال انسی علیه السلام اتقبله بین المشرق والمغرب
 علما و جمهم الله گفته اند که رسول اصلی الله صلی الله علیه و سلم این حدیث را در حق این نبی
 و اهل عراق فرموده است از برای آنکه حدیث بجانب است کعبه است جو از اینجا
 روی کعبه آری قبله می باشد شرق مغرب شود دلیل آنکه حدیث دیگر فرموده
 قال انسی صلی الله علیه و سلم اتقبله لاله لانه و اهل العراق ما بین المشرق و المغرب
 مرویت که محراب ها را بجای به عنوان الله کاعلیهم جمعین بنا کرده اند
 سعید بن عثمانی فرموده امام حضرت قطیب بن مسلم بن حضرت حضرت
 بن ابوی بابی از صحابه عنوان الله کاعلیهم جمعین و بنا بر روی
 و مروی و حسن بن علی و نوزد و بخارا و ترقند و فرغانه چنانکه گوش اوز
 و بود کند و رونق و باران اطرا و کاشغور و خبکت و کاب و کاب
 ما جد و مغربستان و بنده اینند محراب باران است کرده اند نخستین
 مسجد کیه در شهر بخارا بنا کرده اند مسجد خواص امام زاهد صفار است رحمه الله
 نخستین مسجد کیه در شهر ترقند بنا کرده اند سعید بن عثمانی رحمه الله
 مسجد کیه در دروازه چمن است در دروازه مسجد کلان و در حصن مسجد امین
 مسجد بار حضرت امام سید قطیب بنا کرده اند و در شهر کیه مسجد کیه

مشهور این مفسر مفسرین است که بعد از مراد فاضل الاوزار جناب قطب القادسی
شایان اهمیت است قطب کور بمانی اندک از امام قدس سره تفرقه نداشته اند
جمله بسم السعاده من فضل السعاده و سر موتمن من حسن العباد و جمله
احیة اولاد و نبیة و صفه راسخ بحسن و عدم کل المشروعات و لایمکه جمیع اجنبی
و اهلون السلام علی رسول محمد صیة الوریة و علی الودعیة و از و اجماع
و ظاهرین و ای بانیة و عقلیة و اولاد و اولاد و حکام و روی الاقنار و توأم
وزن نبی آدم که کرم بکرم آیت که و لقد کرمانی ادمه کشته
اند و تشریف کفایت خالق الانساق فی احسن تقوی مشرف کشته
اند و اوصالی بوم القیام روی قبله آوردن فریضه است خواهر امام زاهد
فخر الدین رحمة الله معرفت قبله ادرست که درین آیت که قول است
و ما خلقت الجن و الاشیاء الا لعیبادی و من مراد از اول آیت
درست مراد و یکسان را یکدیگر و یکدیگر و یکدیگر است و پیش و پیش و پیش و پیش
و در نماز روی قبله آوردن فریضه است هم بابت و هم بجز و هم بجمیع
امت آیت این است تو کفرنا و من حین خرجت قول و حینک
سطر المسجیل الحرام و حین ما کنتم فوکوا و جوهام بشره
قال لینی علیه السلام طهر که هر که استقبل قبله و قال الله علیه و آله

2. فەلگانا بەدەنى مازەل ۋەسئە

2. Documents discovered in Ferghana Valley

2. Фарғона ۋەدىسىدا تۈپىلگان ھۆججەتلەر

2. پەرغانە ۋادىسىدە تېپىلغان ھۆججەتلەر

هنک صحیفے سے یاد قلیسا صالح لاری اللہ
تعالیٰ نیک رحمتے یا غور دیکان بولور اولوچ
ایشان بوتور اول بودرود شریفان
اوقوب آندین کین اوتوسون

QM01-33

کہوں، سورہ بیسی نے اوقوب تمام پلنگان
 دینا کہیں اولوغ ایشان نے اوقوب دعا
 تاسا جمع پنجم اولیاء مشایخ پر
 او عتاد جہان نیک یوزید بارلیق
 کشتے لار بوکشتے دین راضی بولوب
 تانکلا قیامت کونی شفاعت
 قیلور بوکشتے غم بو اولوغ ذات لایق
 وسیلہ قیلخان سبب دین اللہ
 تعالیٰ نیک رحمت باغور دلیل بودور
 ذکرا الصالحین تشریح الرحمة

QM01-32

حق طعام کافہ اہل ایمان جمیع
 المؤمنین والمؤمنات والمسلمین
 والمسلمات الاحیاء منهم والاموات
 انک مجیب الدعوات ورافع الدرجات
 جات ومنزل البرکات ودافع البلیات
 ویات فی الحاجات برحمتک الکریم
 فاتح آیت الکرسی خلاص مع پنج
 رہتا بطریق نیاز ختم کرد ایم ہو
 صغیر کے یعنی کجک آرزو دعا لاری بیان
 قلدوق کر کے نماز با عدد دین

QM01-31

فاتحہ آیت الکرسی اخصاص مع پنج
 کتاب بطریقہ بیان ختم کردانیم جمیع
 کتابیا عالیم متعلم اور روتی توفیقان
 مسافر مجاور نار سیدہ و رسیدہ
 قل وازاد ہم غہ بود عا بلان دعا قلیغای
 بار و اح پاک پدران قادران و اقربان
 معلمان و متعلمان حقی حقداران
 و جمیع مجاوران و مسافران و غریب
 و غریبان عیتیم و پسران نار سیدہ
 و رسیدہ و بندہ و آذاد حق اسلام

QM01-30

و حضرت خوجه براء الحق والدين نقشبندی
 شاه مکریم نور اللہ قد صم اولاد ایشان
 و حضرت خوجه موسی خان دہلوی و حضرت
 محمد خوجہ حضرت خوجه اویسی قرنی
 خوجہ حضرت خوجه احمد یاسوی
 حضرت بایزید بسطامی قدوة
 العارفين و سيد المشتاقين محبوب
 رب العالمين پیر بادشکیرا خوجه
 آفاق ہدایت اللہ پرخندان یاران مجبان
 ایشان عدد استعانت میطلبیم

QM01-29

ذید ابن ثابتؓ عایشہ صدیقہ ابو
موسیٰ اشعریؓ قعاذ ابن جبیلؓ
رضوان اللہ تعالیٰ علیہم اجمعینؓ
فاتحہ آیت الکرسی اخلاص مع پنج ربنا
بطریقہ نیاز ختم کردائیم اولیاء الار
حقیقہ ادعا قیلغای بارواح پاک
حضرت مشایخان و بزرگواران
خوجہ گان عالیشان قدسی اللہ
سرہ العزیز حضرت مخدوم
اعظم حضرت غوث الاعظم

QM01-28

امام شافعی امام مالک امام احمد حنبلہ
بارواح پاک علی النخوصی حضرت
شیخ عطار ولی حضرت مولانا جلال الدین
رومی حضرت شیخ شمس تبریزی
حضرت شاہ قاسم انوار حضرت شیخ
سعدی رضوان اللہ تعالیٰ علیہم
اجمعیین بارواح صفت خلفاء
الراشدین عبد اللہ ابن عمر عبد اللہ
ابن مسعود عبد اللہ ابن عباس

QM01-27

وعمر الفاروق وعثمان بن التورين
 وعلي المرتضى رضوان الله تعالى عليهم
 اجمعين بارواح پاک خدیجہ کبریا
 وفاطمہ زهراء وعایشہ صدیقہ حضرت
 امام حسن رضا و امام حسین شریکان
 دشت کربلا رضوان الله تعالى عليهم
 اجمعين بارواح پاک وجميع اصحاب
 بار کبار والمهاجرين والانصار
 بارواح پاک حضرت امام اعظم

QM01-26

رضاء اللہ تعالیٰ عنہ پتھران ما تقدم
 علی الخصوصی بارواح پاک حضرت سیدی
 کائنات و خلاصہ شفیع موجودات
 رسول الثقلین و نبی الحرفین شفاعت
 خواہ روز جزا پست فنا عن حضرت
 پتھران محمد مصطفیٰ صلی اللہ علیہ وسلم
 ابن عبد اللہ ابن عبد المطلب ابن
 عبد المہاشیم ابن عبد المنافی و جہار یار
 با صفا عن حضرت ابابکر صدیق

QM01-25

الصَّيِّ مِنْ جَمِيعِ الْبَلَايَا وَالْأَمْرَاضِ وَصَلَّى اللهُ
 عَلَى خَيْرِ خَلْقِهِ مُحَمَّدٍ وَآلِهِ وَأَصْحَابِهِ أَجْمَعِينَ
 هر بنده نیک الله تعالی غم هنک بر حاجتی بود نور
 بود حاجت لاریم روابدون قیلغان عمل
 لاریم مقبول بولسون دیب ربنا آیتانی
 ربنا تقبلنن او قوب دعا قیلغانی آندین
 کین فاتحه آیت الکرسی اخلاصی پنج ربنا
 هر دعا دین کین او قوب دعا قیلون هم حاجت
 لاری روافشکل لاری آسان عمل لاری عقبول بودور
 پیغمبر لاری او چون بود عانی او قوغای

QM01-24

بر لختیک و بار لختیک اریق ذاتیک
 و تو قسان تو قوز آطیک و یک بر صفاتیک
 حتی حرفتی الهی احد اصل ملکا
 پادشاه پر کرد کار عالم کلام ربان و تنزیل
 آسمان و نانه دو جهانی بخشیدم مدد
 استعانت طلبیدم اللهم ربنا اتنا
 فی الدنیا حسنة و فی الآخرة حسنة
 و قنا عذاب النار ربنا تقبل منا
 انک انت السميع العليم اللهم
 احفظنا یا فیاض یا فیاض یا فیاض

QM01-23

خدا او جون عبادت قیلا یدیه اللہ تعالیٰ
 دوست لارینے دوست تو سحاق دور وینہ
 « دشمنی لارینے دشمنی تو سحاق دور دلیل
 بردور قال الفقیہ ابو الیث السمری
 قندی افضل الاعمال صالات الایماء
 و معادات الاعداء کرکشی دعا قیلور
 خدا یولید بود عانی او توب دعا قیلغای
 الحمد لله الحمد لله رب العالمین
 دیب اوج مره درود او توب دعا نیک اخیریدہ
 ہم اوج مره درود او توب دعا یاندوغای
 إلهی احدا صمداً ملکاً عبوداً مسجوداً

QM01-22

که فایده برور وقتی که اوزون زمان
اولوغ لار نیک خدمت ده بولوب
بوسوز لار نه تقریر قلدیم بهم
خوش کلدی بوسوز امام صفار
نیک بخار سیدانسیه لطف دور
اولیاء لار نیک اخیری حضرت شاه
مشرب اولیاء بیلان صوفی اللہ یار
دور اندین کین اولیاء لار بار فزندان
دور سیر کیم اللہ تعالی امر لار نیج برجا
کلتور سیریم اولیاء دور هر سنه

QM01-21

اكر انداق بو فاسا برعوش تفرق دين
 نمة فائده بولور ایدی رسول علیه السلام
 اول قه حال لاریدا خبری یوق ایدی
 وقتیکه بو معنی نه بیلدی انیکه عندک
 سینی الله و انیکه نزلتکم عن زیارة
 القبور الا فزوروا یا معنی سه بودور
 یعنی بولدو فکه سیرلار نه نه قیلدیم
 قبره لار نه زیارت قلیش دین
 الحال ایستامکه زیارت قلیکیز لار

QM01-20

کرام لار سورا دیلا حضرت رسول اللہ فرمان
 لادی وقتیکہ جمیعہ کچھ سے مؤمنان لار نیک
 روح لاری حضرت رب العزت تعالیٰ
 دین اجازت تیلاب بودنیاغہ بشنبہ
 ارشہ سے ہر روح اوزی نیک جسد
 لاری نیک برا ہریدہ نورورینہ ہر روایت
 وہ تن کہ کورور دیب دور نور تنجی
 آسماندا افتاب نیک نوریا تمام عالم
 غم روشن بولغان غم او خشمہ و روح
 عالم دیکلی تن لار کہ روشن لیک ہرور

QM01-19

ایکنجی حدیث نہی قیلدیم من سیز لار نہی
 اہل قبور لار نہی زیارت قیلش آیار یارت
 قلیکیز لار او جو نہی حدیث حدیث
 قدس دور اللہ تعالیٰ بے کام و بے زبان
 ایقان حدیث دور معنی سے ایقادور
 اللہ تعالیٰ من دلی سنوق لار نیک تاشیدا
 من وینہ قبره سے جورہ کانلار نیک یانیدا
 من دیکان بولور فی اولیاء عشایح لار نیک
 توفاسی نے زیارت قیماق نیک فایده
 سی بار مو یا یوق مو دیب اصحاب

QM01-18

ویاںدور و ب توتتا اوز نفسنی زہی
 ایشلار دین فی بتحقیق اول کتہ نیک جای
 جنت دیکان بولور ایالک نعتہ دیکان
 آیت نیک معنی سے بندہ چلیق قیلامن سکا
 یار مند چلیق ایستایمن سن دین دیکان
 بولور اولقی حدیث نیک معنی سے وقتیکہ
 حیران بولسا نکلیر لارا امر لارده یعنی ہم ایش
 لارده فی یار مند چلیق طلب قلنکلیر
 لارا ایل قبور لار دین وینہ قرانلادی علیہ السلام

QM01-17

حضرت آدم علیہ السلام نیک حضرت
 حواء انام نیک پاک روح لاری تو شکان
 شی کوروب بو حدیث مشرفی نه فرمان
 لاب دور اذا تحیرتم فی الامور فاستعنوا
 من اهل القبور و دیگر فرموده از ذکر نیکم
 عن زیارة القبور الا فزوروا لان
 الله تعالى یقول انا عند المنکسرة قلوبهم
 والندرتة قبورهم واقامن خاف
 دیکان آیت نیک معنی سی و افا کتیکه قورق
 سا پروردگار تعالی نیک مقام ده قورقسا

QM01-16

اللَّهُ تَعَالَى نَبِيكَ وَأَمَّا مَنْ خَافَ مَقَامَ رَبِّهِ
 وَنَهَى النَّفْسَ عَنِ الْهَوَىٰ ۗ فَإِنَّ الْجَنَّةَ
 هِيَ الْمَأْوَىٰ دِيكَانِ قَوْلِيغَه صَدَقِ دَل
 عَمَلِ قَلْبِ اَوْزِ نَفْسِ كَمَا اِيكَابُولُغَانِ
 دُوسْتَانِ حَقِّ لَارِ دُورِ اِنَا اِنَا سِي نِي
 زِيَارَتِ قَلْبِشِ وَاجِبِ دُورِ اَوْلِيَاءِ حَشَائِخِ
 لَارِي زِيَارَتِ قَلْبِشِ مَسْتَحْبِ دُورِ اَمَّا اللّٰهُ
 تَعَالَى نَبِيكَ اِيَّاكَ تَعْبُدُ وَاِيَّاكَ تَسْتَعِينُ ۗ^{و ط}
 دِيكَانِ قَوْلِيغَه حَضْرَتِ رَسُوْلِ اللّٰهِ نَبِيِّ قَلْبِ
 دُورِ اَمَّا مَا مَحْرَمِ اِي نَبِيكَ اَوْ نَبِيِّ كَجَمْعِ

QM01-15

ایک اولیاءِ بری شہرِ نیرا خوجہم پنے بری
 نگار فایفاق خوجہم دور لار بو قہمول
 اطر افیدا جمع قرق برابر سکر عیال اون
 ایک وکے تو قوز صوفی اون او غلمان لاری
 بیان ہمیش اولیاء قہمول خلیق لاری پنے باذن
 اللہ مددگار دور ہر کیم غم اللہ تعالیٰ توفیق
 برہ بو اولیاء لاری دعا برائت شب قدیر
 ایک عید کچھ لاری ازینہ دویشنبہ اختتام لاری
 ہر پختہ عمل قیلنجان کونلار دہ پاک روح لاری پنے
 فاتحہ او قوب دعا قیلون بوذات لار

QM01-14

علم الرحمت خیر باد و سلام تورت مرید
 لاری برلہ بوذات علم نیک ایک سے دو آرا
 توروک داکی بزرگوار لار نیک اسم لاری
 آتی کو مبارک بزرگوار نیک اسم لاری سید اللہ
 غازی ایک سے عیال اسم لاری بہ یہ صدیقہ
 بہ یہ خدیجہ دو لار نرین کیر داکی درخت
 لیق غولداغی ایک اولیائیک بری نیک
 اسم خوجہ عبداللہ انصاری نہ ہری
 شیخ عبداللہ غازی ہار کول پولید

QM01-13

اغاچام دورلار غایب بزرگوار نیک
 اسم حضرت پادشاهیم نیک تمورخان
 اولوغ چایلاری اولوغ یولداغی بزرگوار
 نیک اسم لاری خوجه بیتم خوجم دور
 اوغلان یولاق دینگی بزرگوار نیک اسم
 لاری حضرت محمد یحیی ایلی صوفی لاری
 ببله اسلندت شهر بدین صوفی لاری
 نیک اسم بیری حسن ینه بیری حسین
 دورلار یالغوز توپون داکمی بزرگوار
 لار نیک اسم لاری حضرت سلطان

QM01-12

مولانا سعد الدین عزیز کا سانہ قری
غاج لبق بزرگوار نیک اسم لاری
سلطان ستوق بغراخان غاوی
ینہ بری خوجہ اعدار ولے ینہ بری خوجہ
اسماعیل زاہد ینہ بری عرش الدین
اوغلانلاری خوجہ حسن ینہ بری خوجہ
حسین و شیخ احمد غزالے ینہ برلاری
سلطان اعلیٰ عارفین ینہ بری خوجہ
محمد سدید ینہ برلاری خوجہ منصور
ینہ بری خدا یار شیخ ینہ بری بی بی مریم

QM01-11

شېو در اسم لاری ملا عبدالعلیم خوجم
ینه بری خوجه اسماعیل خوجم نظر
باقی سدر نیک ایشیک الیداغی ول نیک
اسم نامعلوم زور دین شیخ نیک اوی
نیک قبله طرفیده اغاجا لاریم بار بولر
نیک اسم لاری هم نامعلوم طوزنان
یولیداغی خوجم نیک اسم لاری حضرت
سستیل لوک آتا قرا توبیده شهر
اوستونداکی بزرگوار نیک اسم لاری

QM01-10

آغا جام التے اوغلان لاری بیان دور
 لافجوق نیک کرمنه شهر ایچیدیکمی
 بزرگوار لاری نیک اسم لاری خود لقب
 ینه بری ابوالنصر الدین ینه بری سلطان
 بابا داجین اعظم آتا اوغلان لاری
 فقیه محمد دیرلار بستان بزرگوار حضرت
 اولوغ حضرت پادشاهیم نیک دادالاری
 حضرت مرید جلیل کاشقر دین
 کلپ بچندیل درسی ایتقان
 اولوغ جای لاری دور شهر دستونداگی

QM01-9

توغاچی دا اوج ایریر عیال تورست
بزرگوار بار کوجت لیک بزرگوار نیک
اسم قیصر رومی نینه بری گل جهری
عزیزیم نینه بری حضرت سلطان
کوردک لوک آتایینه بری حضرت عید
الملك آتا دور جاقماق بولاقداغی
بزرگوار نیک اسم لاری حضرت
شیخ سیدی آتا دور نورغون
لشکر لاری پله الحال فرمان دور جاققانغو
بزرگوار نیک اسم عزیز گل خان

QM01-8

اور دانی مسجد نیک اوستون یا نیدا
 ولے لار بار اسم لاری نام معلوم توہی
 اور دانی کونچیش طرفیدہ بروے
 بار نیک ہم اسم نام معلوم یا تکورہ
 دہ قور غوی اغا جہ لاریم بار ایکن
 بو شہ کتہ ایکن لاکہ نام معلوم چہ مار باغ
 دانیکنیک شہر دین الیب جققان
 خو جم نیک اسم لاری قیس خو جم دور
 بو ذات بول اسم اولادی سید دور
 ہم اولیا لار دین اولوغ ذات دور

QM01-7

اغالار دور سوم قارشه داعی یزر کوار
اوج کیش دور اسم لاری اوسس اغالار ابراهیم
ادیم دیرلار بری فنهان دور شیش پیماسی
استانه یزر کوار نیک اسم لاری عبد
العلیم دور اتا بابا لار نیک دیکان سوزیکه
قرانخاندا بو اولیئا هم دین الکار کلپ
قمول خلقه ایمانغه دعوت قلب
کچک بلا لرغه بردان ایگه دان چکده
بریب لا اله الا الله دنکلار دیب سر حلقه
بولغان ذات دور قمول شر ایچده

QM01-6

بوغاسیدور آلتونلوق داغی ولے لار
 نیک اسم لاری پنج نامه ولے دور اصلا
 بشی کتخ دین عبارت شور یقاسی
 داغی ولے عثور قلندر دیب آتاب
 دور یریم اولیا دور لکر بزرگوار ایشی
 دور اسم لاری حضرت سلطان
 قیام الدین آتاپنه بری غیاث الدین
 آتادیرلار بوغاز بزرگوار نیک اسم
 لاری حضرت سلطان کوک توغلوغ
 کورونلوک آتادور لکر بزرگوار نیک

QM01-5

قَلْبَانِ اَوْلُوغِ جَايِدِ وِرْ صَوْفِ لَارِي نِيكَ
اَسْمِ لَارِي بَرِي تَوْشِ مَوْنِكُو زِ صَوْفِ
بِنِه بَرِي تُوَكِ بَاشِ صَوْفِ دِيرَلَارِ قِزِ
بِه بِه عَزِي زِي مِ نِيكَ اَسْمِ لَارِي بِه بِه
رَابِعِيَه بِه بِه عَدُو يَتِه دُورِ سَوْبَاشِ
دَاغِي وَلِيّ اللّٰه نِيكَ اَسْمِ لَارِي خَوْجِه
اَحْمَدِ وَلِيّ اللّٰه دُورِ بُوَايِكِي وَلِيّ اَغَا
بُو بَاقِ دُورِ جَوْنِكِ كُو مَبَا زِ دَاغِي وَلِيّ
نِيكَ اَسْمِ لَارِي پَرِي اَحْمَدِ وَلِيّ دُورِ

QM01-4

تولد قیلخان جای اون سکزیل توردا
 تمولتد دعا گو یلوق قلب عشق
 شریفی نه جاری قلب آندین اوراد
 قشچیه او توب ذکر جهرتہ سورہ بئس
 تعلیم قیلخان اولوغ جای دور سو باش
 داغی قدم جای لاریده ہم اولتورنوب
 صوفی لاریدین ایک صوفی نه تعیین
 قلب مرفوع قلم قلب التون عهد
 لارینی پاسیب بزیب دعا گو یلوق

QM01-3

ایلیغ بزرگوار نیک اسم لاری حضرت

سلطان کموش کوروک لوک آنا

غائب بزرگوار نیک اسم لاری مولانا

حسن آنا خوجه مسجد بزرگوار

نیک اسم لاری حضرت میر اعظم

شاه آنا سران بزرگوار دیکان

حضرت اولوغ حضرت پادشاهم

کاشقر دین کلیب اولتور و غلوق

بولوب حضرت سیدافاق خوجم

QM01-2

قہول شہرا بجد کی و تابع لاری کی
بار لیق بز کوار خو جم لاریک اسم
شہر لاری بو ترو۔ الیک بز کوار خو جم
ہم نیک سر حلقہ سے دورینہ پر روایت
استانہ خو جم دیب دور الیک خو جم نیک
اسم شہر لاری حضرت سلطان
عزیز اللہ ینہ پر روایت دہ ینس عم
۴۶ در لار تو غلوں بز کوار نیک اسم
لاری حضرت سلطان سید بلخ آتا

QM01-1

با اول خطی بود که فتیوی محبت ایام غار حوض و دیده تاریخ غور برینک حج بوز قریب اوج ده
 تا خویسار ما در مضامین شکر ایام ایکی سه کونه یعنی خطای حساب بر این گونیک گشت او جو
 بیله او جو بی ای نیکان ایکی کونه من کیم تو لک شکر در من تنم ساق عظیم بر حساب
 لا عقالیق و مقید انداق اقرارش عن تبدیکه انجید اریق و او جو نیک نام شانا لوت کر
 بر باره ایکی کوریک میراث بریم اساتیب جور و غدا ای آرید ایریم نیک نیشیا
 بو یوب بو بریم نیک شیخی سه نیازش شیخ سه کنی لاشیب بو ایکی کوریک برینک میراث
 بش بر دین ایکی بر بازار اوله تو خدیب نیازش شیخ سواتیب برودیم شول کونین بو ایلیک
 بزار اولین بر اوله نیکور و ب ابدی من شاکیر لایکیم که بر باقی تا به شور و ب اولیم شول کونین باشلاب
 بو ایکی کوریک میراث برینک ایلیکم دینا تعقیب نیازش شیخ غم ملک میراث بودی شول کونین کون
 من یا مینیک ایله اولادیم دین بر بر کشته جنیب بو برین ساقماغان و ییب دعوائی قلیغودک بو ایلیک
 قلیغان دعوائی بر شریقی نیک ایلیک یا قلی تا ماب حوج بو لوسوزیب سه کله عظام
 مهر و گرم لارینه با ستور و ب تلب بر کلان خط و شیخ بو برینک معلوم لوق چهار حدی بو ققاری طریقی
 قمارنه جو لک جویم نیازش کی قله طرف غول آریق هم شور
 کونجه قیش طرف نیازش شیخ نیک بری تو من طرف سه
 بر در کلانیک و تقییری بو ایلیک ملاحه سور که اقی باقی دهستان
 ذیح یسول تو شیخی یسول ایچا لور شاملا روزی تران ش شیخ لار شاملا دورلا



ذکر پیر و صادق و بیاید و رنا طوق ملامتار حضورید ا مخفی نامد کو قالما غایکیم تاریخ شم بریک ایچ یوز
 الان س یکند دهنه و نه یل یل یل خطای سب اید و انما شوی نیک کیست
 جش بنی ساعی نیکیت س کون منیکم قارن چونک الیاس و دوسن تین
 ساق عقیم حیل الاعضالیق و قتی ا انداق ا قار حیل قیل یک لیکه انجیکه ایز
 نیک ساسی پارجه و ا نام دین میراث قالغان بر پارجه تورست کوریک
 یوز صح قیل یوزیم بوز نیک معلوم لوق جبار حیل و وکی شمال لوق چونک ایچ
 لیک ایچ ایچیم نیکه کی کو بختیت طری اغام س بور که نیکه کی قبله طرفه اریق تو بن طرفه
 بوز کوار نیک و قفیر حضار ایل س ایش که کواه لار کس و محسب نیاز متی



محبت قر شیح جاروق دهنه
 ایچام ملک بور که نیاز متی او س
 عیال کس و خوبه متی شیح تو خوش دهنه
 آقبار قو نیاز متی لار شامید و لار



1. 新編のヤサ

1. Documents discovered

1. Complete text

1. Complete text

1. 新疆のマザール文書

1. Documents discovered in Xinjiang

1. Синьцзянда топилган ҳужжатлар

1. شىنجاڭدا تېپىلغان ھۆججەتلەر

影印

Facsimile

ΦΑΚΣΙΜΙΛ

影印

شىنجاڭ ۋە پەرغاندا تېپىلغان
مازار ھۆججەتلىرى
(فاكسىمىل)

Синьцзян ва Фарғонада топилган
Мозор ҳужжатлари
(Факсимиле)

Токио чет тиллари ئۇنىۋېرسىتېتى
2006 ئاسىيا-ئافرىقا تىل-مەدەنىيىتى تەتقىقات ئىنستىتوتى



AA Токио чет тиллари университети,
Осиё-Африка тил-маданияти тадқиқот институти 2006

1.

نۆزگۈچلەر:
سۇگاۋارا جۇن
كاۋاخارا يايوئى

Тузувчилар:

СУГАВАРА Жун
КАВАХАРА Яёи